2027
年版

Adobe Creative Cloud

PDF&出力の手引き



Adobe

※ブラウザーの内蔵プラグインでは正常に表示されない
場合があります。
Acrobat Web版または、ファイルをダウンロード後、
AcrobatまたはAcrobat Readerで表示してください。

目次

本書は、Creative Cloudでの最新環境において正しく出力できることを目的に、
データの作成から出力までの推奨フローを解説しています。

データ出力までの流れ 2

更新 ⊕ アートボードの基本 3
⊕ アートボードのカンバスカラー 4
⊕ Illustrator iPad版で入稿する際のポイント 6
⊕ Illustratorの保存｜ファイルバージョン 7
⊕ Adobe Expressで作成のデータを入稿する場合 8
⊕ **Illustrator「クロスと重なり」について 10**
注意 ⊕ グラデーションの知覚的補間について 11
更新 ⊕ FireFly (生成AI) で作成された画像 (アップスケール) 12

フォントについて 14

⊕ フォント形式について 14
更新 ⊕ バリアブルフォントのサポート 14
⊕ Adobe Fontsによるフォントの追加 15
⊕ Adobe Fontsフォントを使用したドキュメントの作成 15
⊕ 環境に無いフォントの処理 16
⊕ フォント検索・置換 17
⊕ Type1フォントのサポート終了 18
⊕ **Type1フォント使用箇所の確認方法「プリフライト」 19**

文字組み更新機能 20

⊕ 文字組み保存プラグイン 21

画像の管理 22

⊕ 画像形式について 22
⊕ 配置ファイルのステータス確認 23
⊕ 配置ファイルの更新と置き換え 24
⊕ 埋め込まれたファイルの解除 25
⊕ 配置されたリンク画像の詳細情報 25

Creative Cloudライブラリ 26

⊕ Creative Cloud ライブラリ 26
⊕ ライブラリパネルの利用方法 26
⊕ Creative Cloudライブラリの共有の仕方 27

画像収集 28

⊕ パッケージ 28

カラーマネジメント 30

⊕ Bridgeによる一元管理 30
⊕ アプリケーション間でカラー設定の同期 31
⊕ カラー設定の詳細 31

ICCプロファイル 34

⊕ ICCプロファイル：Japan Color 2011 Coated 34

スウォッチについて 35

⊕ スウォッチについて 35

最終確認 38

⊕ プリフライト 38 更新
⊕ AIアシスタント (beta) を使用した入稿データチェック 40 New!

プレビュー 42

⊕ 分版プレビュー 42
⊕ 分割・統合プレビュー 44

データの書き出しについて 46

入稿用 PDF 48

⊕ PDF書き出しプリセット 48
⊕ 推奨するPDF書き出しプリセット設定 49

PDF/X 最新動向 50

⊕ PDF/Xとは 50
⊕ PDF/X-4とは 50
⊕ PDF/X-4、APPEと次世代RIPのAEPE 50
⊕ PDF/X-4運用の推奨 51

書き出し/プリント 52

⊕ Adobe PDFファイルの書き出し 52
⊕ PDF/X-4:2010について 53

Illustrator書類 (.ai) の書き出し 70

⊕ 以前のバージョンと互換性のあるIllustrator書類 71

プリント 74

⊕ プリントダイアログボックス 74
⊕ プリント設定の合理化：プリントプリセット 87

Acrobat ProでのPDFチェック 88

⊕ Acrobat Proでの印刷工程 88 注意

データ出力までの流れ

本書でサポートするデータ出力までの主な行程です。

01 出力のための データ管理

アートボード P3
フォント P14
画像 P22
カラーマネジメント P30

02 安全に出力するための最終確認

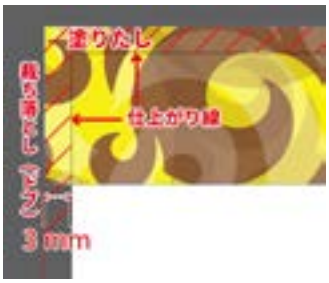
パッケージ P28
プリフライト P38、P88
プレビュー P42

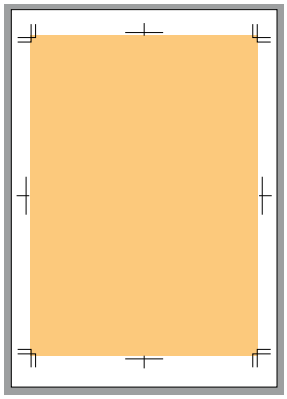
03 ファイル書き出しとプリント

データ書き出し P46
プリント P74

本書は、Creative Cloudでの最新環境において正しく出力できることを目的に、データの作成から出力までの推奨フローを解説しています。

⊕アートボードの基本





〔図 01〕
従来のアートワークの作成方法。仕上がりサイズよりも少し大きめのアートボードを作成し、その中に仕上がりサイズのパスを描き、トリムマーク（トンボ）作成。

Illustrator CS4（2008年12月）以降、Illustratorでドキュメントを新規作成する場合のフローが変更されています。従来、出力サイズよりも大きめのアートボードを作成し、そのアートボード上に最終的な出力サイズのトリムエリアを作成する方法でドキュメントの作成が行われていました。〔図01〕

現在のワークフローでは、一般的なチラシなどのアートワークの場合、新規ドキュメントの作成時において**「アートボードサイズ＝仕上がりサイズ」**として運用することを推奨しています。トリムマーク（トンボ）は印刷時、またはPDF出力時に設定します。これにより、ドキュメントをシンプルに運用できるほか、**出力における後行程（トンボの設定や面付け）でのトラブルや作業を軽減させることができます。**

さらに、1ドキュメント内に複数のアートボードを置くことができるため、煩雑になりがちなデータを1ドキュメント内にまとめ、効率的にデータを運用することができるようになりました。

新規ドキュメントの作成

「新規ドキュメント」のダイアログで**「プロファイル」**から**「印刷」**を選択し、**「アートボードの数」**を、片面なら**「1」**両面なら**「2」**とします。

「サイズ」は**「仕上がりサイズ」**を指定し、必ず**「裁ち落とし」**の設定を行います。（一般商業印刷では3mm～5mm）。〔図02〕〔図03〕

チラシ、ポスター、名刺などペラもの・定型の印刷物の場合、〔図 01〕のような従来のアートワークの作成方法は推奨していません。多ページデザインには、ページ操作に優れた InDesign を推奨します。
大きなアートボードとトリムマークの作成の組み合わせは、展開図やパッケージ、シール、グッズなどの判型が異なるコンテンツの作成時に利用されますが、その際は入稿する印刷会社の指示を優先してください。



〔図 02〕
CS4 以降、アートボードサイズを最終の仕上がりサイズとして設定。
トリムマーク（トンボ）は印刷時または PDF 書き出し時に設定します。



〔図 03〕
赤い外側のラインが裁ち落とし（塗り足し・ドブ）を表すガイド。印刷データはこのラインまで図柄を広げます。　複数のアートボードはチラシやポスター等の両面のデータには最適ですが、多ページデザインには、ページ操作に優れた InDesign を推奨します。

データ出力までの流れ

⊕アートボードのカンバスカラー

Illustraotr CC2026 年度版リリース (v30) にアートボードのカンバスカラー（背景色）を設定し、カンバス上で視覚的に区別する機能が搭載されました。
背景色は、UIやSNS画像、ロゴなど複雑なドキュメントや複数のアートボードを含むドキュメントを制作する際、背景全体にわたるシェイプを作成することなくベタ塗りの指定ができます。
べた塗りは任意のアートボードに割り当てることができるので、特定の背景に対して暗色、淡色のUI、SNS テンプレート、ブランド化されたレイアウトなどをプレビューしやすくなります。

アートボードのカンバスカラーの設定

1. **「ドキュメントの新規作成」**→アートボードのサイズなど指定
2. **「カンバスカラー」**→**「ホワイト」**、**「ブラック」**、**「その他」**から選択
3. **「作成」**をクリック〔図01〕



〔図 01〕

アートボードのカンバスカラーの変更

1. **「プロパティ」**パネルまたは、→**「アートボードを編集」**をクリック
2. **「アートボード」**の**「カラー：」**を変更〔図02〕
3. または、**「ツール」**バーから**「アートボード」**ツールを選択→**「アートボード」**の**「カラー：」**を変更

   ※**「ツール」**パネルに**「アートボード」**が見当たらない場合は、**「ウィンドウ」**メニューの**「ワークスペース」**→**「初期設定」**を選択〔図03〕



〔図 02〕



〔図 03〕

カンバスカラー（背景色）を設定したアートボードの書き出し

カンバスカラーの書き出し方法は2つあります。

WebやUI用途

1. 右クリックして**「書き出し」**を選択
2. **「フォーマット：形式」**をPDFに変更〔図04〕

   ※右クリックから書き出す場合、フォーマットをPDFに変更しても、PDF書き出しのデフォルトの設定が**「最小ファイルサイズ**（PDF1.6）**」**になっているため、印刷用途での使用には適しません。この機能を使って印刷用のPDFを作成する場合は、あらかじめ、オプション設定でPDFのプリセットから**「PDF/X-4」**などに指定、保存しておく必要があります。〔図05〕



〔図 04〕


〔図 05〕

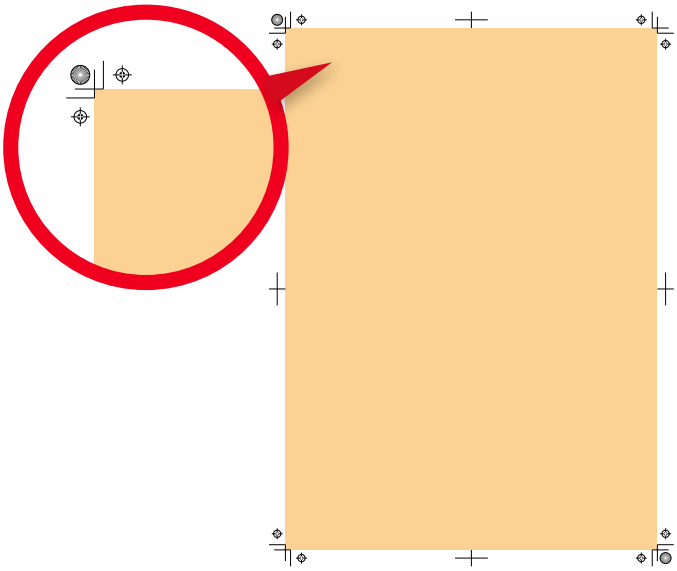
印刷

アートボードのカンバスカラーを変更したものは、出力およびPDFに書き出す際、裁ち落とし設定されている場合は、裁ち落とし線（ドブ）まで自動的にカンバスカラーが塗り足されます。

1. **「ファイル」**メニュー→**「書き出し」**を選択し、**「ファイル形式」**をPDFに指定
2. 書き出し設定を**「PDF/X-4」**などにし、**「トンボと裁ち落とし設定」**を選択
3. **「トンボ」**と**「ドキュメントの裁ち落とし設定を使用」**にチェック〔図06〕
   ※ドキュメントに裁ち落とし設定をしていない場合はここで裁ち落とし設定を3mm天地左右にしてください〔図07〕


〔図 05〕


〔図 06〕



データ出力までの流れ

Illustratorはデスクトップ版のみならずiPad版も提供しております。iPad版はデスクトップ版と異なり、iPadでの操作に最適化されており、一部の機能はデスクトップ版と異なる機能が搭載されていますが、データ互換性に問題はありません。ここでは入稿にまつわるポイントを解説します。

⊕Illustrator iPad版で入稿する際のポイント

印刷入稿に適したデータを作成するには、Illustrator iPad版だけでは現状では難しいため、デスクトップ版Illustratorを併用する必要があります。

1. アートボードサイズ＝仕上がりサイズに指定　〔図01〕
2. アートワークを作成したら、ドキュメントをクラウドで同期
3. デスクトップ版Illustrator (ver.25.1以降) でクラウドドキュメント内にあるアートワークを開く
4. **「ファイル」→「ドキュメント設定」**から裁ち落としを設定 (3mm) し、アートワークを裁ち落としまで調整〔図02〕
5. **「ファイル」→「書き出し」**からPDF形式を選択し、プリセットよりPDF/X-4を指定し作成
   (PDFの保存形式は**PDF/X-4を推奨**。印刷所の設定がある場合にはそちらを利用してください。詳細は P48 。)
6. ネイティブ入稿の場合は.ai形式で**「PDF互換ファイルを作成」**に必ずチェックを入れ保存〔図03〕
7. 出力または、PDF作成時にトリムマーク (トンボ) を設定

A4の裁ち落としが入ったデータを作成する場合

1. IllIlustratorまたはInDesignでA4のアートボードを作成(裁ち落とし3mm設定)
2. 書き出したPDFを配置
3. 任意に出力(印刷またはPDF書き出し)時に**「トンボと裁ち落としの設定」**をオンに



〔図01〕





〔図02〕



〔図03〕

⊕Illustratorの保存｜ファイルバージョン

Illustratorをネイティブバージョンで入稿する際、最新Illustrator 2026(ver.30)ではIllustrator 2020互換形式で保存されます。〔図04〕文字組エンジンが新しくなったことで、ファイルのプレビューの（以前の文字組エンジンでもファイルの体裁を保つ）ため、許可されたフォントを埋め込む場合は、**「ファイルプレビュー用に許可されたフォントを埋め込む」**にチェックを入れます。

相手の環境がCC2020以前のバージョンを使用している場合は、**「Illustrator CC（レガシー）」**を選択してください。〔図05〕

ただし、以前のバージョンのIllustratorで開いた場合、一部の機能が失われ、場合によっては再現性に影響が出る可能性があります。これは、Illustrator編集データからではなく、PDF互換形式部分が解釈されファイルが開かれるため、編集用情報が失われるからです。

そのため保存の際に**「PDF互換ファイルを作成」**にチェックをせずに保存すると、InDesignでの画像配置など、正しく表示されない場合があります。入稿の際には必ずチェックを入れてください。

詳しくは**「Illustrator 互換ガイド」**（https://blog.adobe.com/jp/）をご覧ください。

▶ Illustrator 互換性ガイド
https://bit.ly/3XCnUEV



〔図 04〕



〔図 05〕

データ出力までの流れ

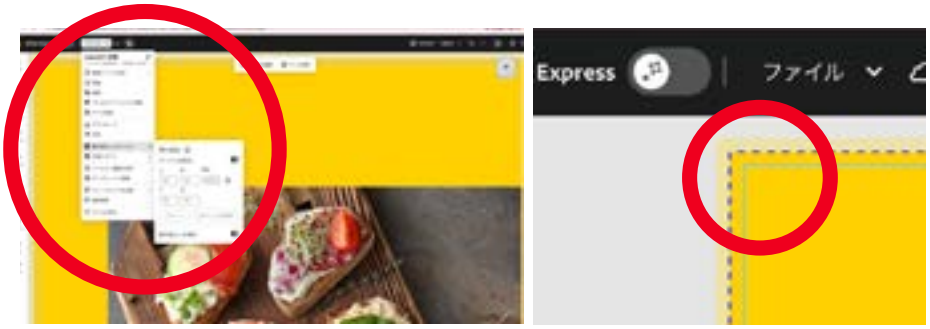
⊕Adobe Expressで作成のデータを入稿する場合

Webアプリである Adobe Express(以下Express)は、名刺やポスターなどをテンプレートから簡単に作成できます。SNSでの発信や、家庭用プリンター、複合機、コンビニのネットプリントで印刷する際は、画像やPDFに書き出せば、手軽に印刷が可能です。

従来、Expressはあくまでカジュアルにチラシや画像が作成ができるツールとして公開されており、制作時の対応カラーモードはRGBのみでしたが、PDFに書き出す際にはCMYKモードも指定することができるようになりました。

印刷用データとして利用する場合は、**「ファイル」**メニューから**「裁ち落としとマージンを表示」**から**「マージンを表示」**、**「裁ち落とし」**をそれぞれアクティブにします。マージンについては初期設定では12px(約3mm)となっています。

裁ち落としは自動的に約3mmドブ(点線の外)が付きます。点線に画像やシェイプがかかる場合は、点線の外側まで画像やシェイプを配置してください。またテキストなどの情報はマージンの内側に配置してください。〔図04〕



〔図 04〕

印刷用ファイルとして書き出す場合は、**「ダウンロード」**ボタンから、ファイル形式を**「PDF印刷(印刷向け)」**を選択、**「内トンボを追加」「断ち落としを表示」**をアクティブにしてダウンロードします。

カラーモードはプリンターに準じる場合には**「RGB」**、Express側でコントロールする場合は**「CMYK」**を選択し、カラープロファイルを指定します。(※Japan Color 2011 Coated未対応：2025年11月現在)〔図05〕



〔図 05〕

内トンボがついたPDFがダウンロードされます。〔図06〕



〔図 06〕

印刷に適した規格(PDF/X)には完全に準じてはいないため、適切な規格にするにはAcrobat Proのフィックスアップ機能でPDF/X-4に変換するか、InDesignまたはIllustratorで面付けし、PDF/X-4に書き出してください。〔図07〕





〔図 07〕

Acrobat Proの**「印刷工程」**で**「プリフライト」**機能から**「フィックスアップ」**で**「PDF/X-4(Japan Color 2011 Coated)に変換」**と、プロファイルを作成しておくと便利です。

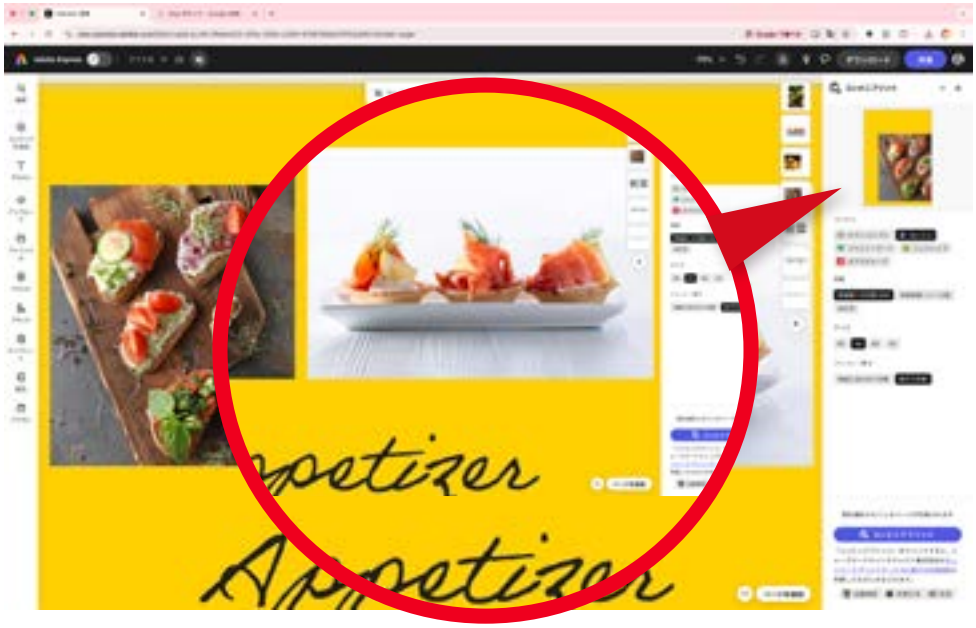
プリフライト機能のカスタマイズについては P88 を参照。

また、作成したデータをコンビニのネットワークプリント機能を使用し、出力することができます。

「ダウンロード」から一番下の、**「コンビニプリント」**を選択。ご利用になりたい**「コンビニ名」**とその下に現れる**「用紙の種類」**、**「サイズ」**を選択し、最後に**「コンビニでプリント」**を選択します。

アップロードが終わりましたら、QRコードや登録番号からお近くのコンビニで出力ください。

※希望する用紙サイズがない場合は一度、画像または PDF 形式でダウンロードし、ブラウザーからネットプリントにご登録ください。



※ Adobe Express のデータはあくまで RGB で制作されていますですので、出力時の CMYK 変換は Acrobat Pro のフィックスアップ機能 (P88 を参照) や InDesign、Illustrator の PDF 書き出し時に運用面で設定してください。

⊕Illustrator「クロスと重なり」について

Illustratorの新機能**「クロスと重なり」**は指定したオブジェクトごとに前後関係を自由にアレンジすることができ、その名の通り、オブジェクト同士を互い違いに組み合わせる、といった重なりを調整したデザインを簡単に作成できます。

正しい結果を確認する場合には**「オーバープリントプレビュー」**表示にしてください。オーバープリントプレビューに変更する方法はP45を参照してください。〔図02〕

また、**「クロスと重なり」**については、以前はPDF書き出し時にラスタライズ化されておりましたがIllustrator 2023 (v27.1.1) で修正されており、現在ではベクターで書き出されます。

ファイルの互換性はありますが、影響のあるオブジェクトなどについては、**「分割・統合プレビュー」**パネルを表示し、事前に確認しましょう(P44参照)



〔図01〕プレビュー



〔図02〕オーバープリントプレビュー

⊕グラデーションの知覚的補間について

Illutrator CC2026年版（v.30）におけるグラデーション機能の進化

CC2026年度版リリースの（2025年10月）より、グラデーション機能により滑らかで自然な色の遷移を作成するための知覚的補間の適用方法が搭載されました。
知覚的補間は、人間の目が色の違いを認識する方法に合わせてグラデーションの色の遷移を調整します。これにより、より滑らかなブレンドが作成され、隣接する色がより明確に区別されて見えます。





クラシック（従来）



知覚的ディザ

クラシック（従来）



知覚的ディザ



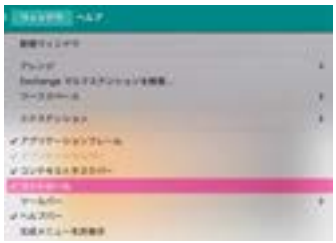
適用方法

A　オブジェクトに対してグラデーションを設定し、**「プロパティ」**パネル内の**「グラデーション」**パネルから、オプションを表示し、**「方式：知覚的」**を選択、**「ディザ」**にチェックを入れる。

B　**「コントロール」**パネルから**「方式：知覚的」**を選択、**「ディザ」**にチェックを入れる。

A の場合





B の場合



この知覚的補間を適用したグラデーションは、
現在、知覚的補間設定およびディザにチェックを入れ PDF に書き出した際に、
ライングラデーションが画像化されるのは現状、仕様です。
フリーグラデーションについては、画像化されません。

CC2027 年度版リリースにつきましては PDF/X-4 を推奨。PDF/X-1a については非推奨とさていただきます。

データ出力までの流れ

⊕FireFly（生成AI）で作成された画像（アップスケール）

Adobe Fireflyは、著作権に配慮したデータセットを使用しており、生成された画像の商用利用が可能ですが、印刷で使用する際には、品質面以外にもいくつかの重要な注意点があります。
Fireflyでは複数の画像生成モデルを選択できます。

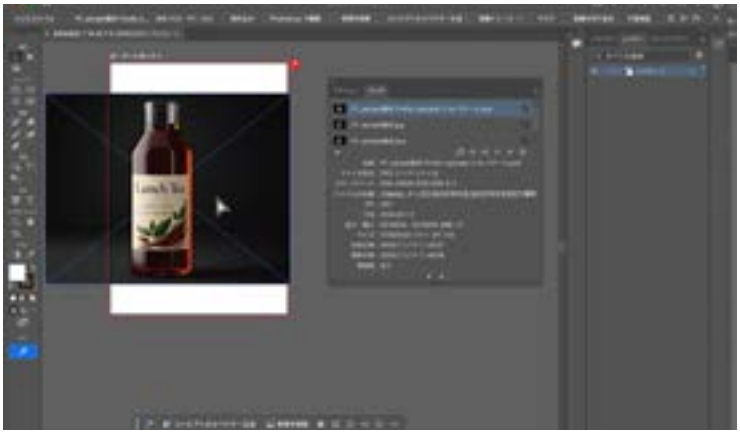
「Firefly Image 4 Ultra」や**「Firefly Image 5」**などの新しいモデルは、優れた品質とディティールを提供し、プロフェッショナルレベルの精度が求められる印刷用途にも適しています。また、最新のFireflyやPhotoshop、Illustratorではパートナーモデルのエンジンを利用することも可能です。その場合は各パートナーモデルの利用規約をご確認ください。

デフォルト設定のまま書き出すと、72ppiで2000px程度の画像です。そのまま使用する場合には、以下の方法で対応します。

A. **配置画像のサイズを小さくし（解像度に合わせた適切なサイズ）、解像度を上げる**
   適切なサイズかどうかは、IllustratorやInDesignのリンクパネルで確認〔図01〕
B. **プロンプトで工夫する**
C. **画像を書き出したあと、Photoshopの生成アップスケール機能を使用し、印刷用途に適した解像度に変更**







Photoshopのアップスケール機能

Photoshopで画像の解像度を上げる設定は従来、**「画像解像度」**から設定していましたが、最新のCC2026年版以降は、生成AIを利用し、よりクオリティの高い解像度向上機能を使用できるようになりました。2027年版では、Firefly Upscale 2が使用できるようになっており、さらに、Topazモデルのエンジンも選択することが可能で、最大4倍の解像度の引き上げと、より詳細なオプ

ションでコントロールができます。

1. **「イメージ」→「生成アップスケール」**を選択〔図01〕
2. モデルをプルダウンメニューから指定
3. 倍率とオプションを指定し、**「生成」**〔図02〕



〔図01〕

〔図02〕



フォントについて

Creative Cloudでの
フォントの扱いについて
正しく理解しておきましょう
トラブルのない出力への
第一歩です

Adobe Creative Cloud で利用できるフォント形式は以下の通りです。

- OpenTypeフォント（SVG、バリアブル含む）
- TrueTypeフォント

⊕フォント形式について

フォント形式は、現在は大きく分けて2種類に大別できます。TrueTypeフォントとOpenTypeフォントです。印刷を目的としたDTP用のフォントとしてOpenTypeフォントが業界標準となっています。

OpenTypeはアドビと Microsoft が共同開発したフォントフォーマットです。クロスプラットフォームで活用可能なフォントファイル形式で、同じフォントファイルをMacintoshとWindowsの両方で利用できます。また、広範囲な拡張文字セットとレイアウト情報を利用でき、それにより豊かな言語サポートと高度なタイポグラフィを実現することができるようになっています。

InDesign、Illustrator、Photoshopはこの OpenTypeフォントに対応しています。〔図1〕

「書式」→「字形」で、異体字などを選択することも可能です。〔図2〕

〔図 01〕



〔図 02〕

⊕バリアブルフォントのサポート

バリアブルフォント（可変フォント）はIllustator 2019(ver.23)、InDesign 2020(ver.15)から対応しています。バリアブルフォントを指定したテキストを選択すると、**「フォント」**パネルに**「バリアブル」**ボタンが表示され、クリックすることで各パラメーターが指定可能になります。〔図3〕

〔図 03〕



なお、カラーフォントや絵文字などが利用できるOpenType SVGフォントについては、既にCC 2019より対応しています。〔図4〕



〔図 04〕

⊕Adobe Fontsによるフォントの追加

Adobe Fontsは、Creative Cloudに含まれるフォント提供サービスです。
Creative Cloudを使用してフォントをデスクトップにアクティベートし、印刷物などに使用することができます。Adobe Fontsは元来Adobe Typekitとして提供していたWebフォントサービスす。現時点で日本語フォントだけでも約1,000書体以上提供されています。（2025年11月現在）



〔図 05〕

現在、使用できる日本語フォントは約1,000 フォント以上。欧文フォントを含めると、30,000 以上のフォントが利用可能。フォントのインストールは、**「さらに検索」**からフォントサムネイルの右 **「アクティベート」**を選択します。〔図 05〕

Adobe FontsはAdobe IDのユーザー名とパスワードを使用してログインすることで、使用を開始できます。また、アクティベート済みであればオフライン環境でもフォントを使用することができます。
※アクティベートしたフォントはサブスクリプションが有効な限り使用できます。 サブスクリプションを解約すると、Adobe Fontsから取得したデスクトップフォントは削除されます。 作成したドキュメントでフォントを引き続き使用するには、フォントベンダーまたは公認の販売元から必要なライセンスを購入する必要があります。

⊕Adobe Fontsフォントを使用したドキュメントの作成

IllustratorやInDesignのパッケージ機能(P28 参照)を使用すると、Adobe Fonts以外のフォントはパッケージに含めることができますが、Adobe Fontsはアカウントごとにアクティベートすることが前提のため、パッケージには含まれません。
Adobe Fontsのサービス使用条件では、デスクトップコンピューターにアクティベートされたフォントをコピーまたは移動することは許可されていません。ファイルを使用する個人は、同様にAdobe Fontsからドキュメントで使用されているフォントを入手しておくことでドキュメントを再現することができるようになります。
Adobe Fonts のサービス使用条件により、アクティベートしたフォントデータをPDFやその他のデジタルドキュメントに埋め込むことは許可されるため、印刷用に作成されたドキュメントでタイポグラフィの精度を保つには、PDFファイルを作成しデータ入稿を行ってください。
IllustratorおよびPhotoshopのiPad版でも、あらかじめデスクトップ等でアクティベートしておいたAdobe Fontsを使用することが可能です。

Adobe Fonts フォントのライセンス：
その他、Adobe Fonts フォントの使用に関してはこちらの QR コードからご参照ください。

〔図 01〕



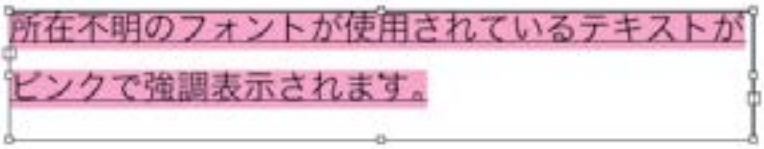
⊕環境に無いフォントの処理

作成されたドキュメント内で使用されているフォントがPCにインストールされていない場合など、ファイルを開いた際に現在の環境で使用できないフォントがある場合は、環境に無いフォントリストのダイアログボックスが表示されます。〔図01〕

InDesignの場合

環境に無いフォントを使っているテキストを選択すると、文字パネルやコントロールパネルのフォントファミリーメニューでは、フォント名がブラケット（[ ]）で囲まれて表示されます。

InDesignでは、システムにないフォントは使用可能なフォントに置換できます。このような場合は、テキストを選択して他の使用可能なフォントを適用することもできます。置換されたシステムにないフォントは、デフォルトではピンクで強調色表示されます。〔図02〕



〔図 02〕

開いているドキュメントに使用されている1つ以上のフォントが見つからない場合、それらのフォントを Adobe Fonts Web サイトでも検索します。〔図 02〕フォントが Adobe Fonts にある場合、環境に無いフォントダイアログボックスのフォント名の横のチェックボックスがオンになります。

また、Illustrator での**「代替フォント」**表示は、アピアランスを使用していると表示されないためご注意ください。

Illustratorの場合

システムにインストールされていないフォントを含む書類を開いたり配置したりすると、所在不明のフォントを示す警告メッセージが表示されます。所在不明のフォントは初期設定のフォントで代用表示されます。

書類内の代用表示されたフォントを強調表示するには、**「ファイル」**→**「ドキュメント設定」**を選択し、ダイアログボックス上部のポップアップメニューで**「書式」**を選択します。**「代替フォント」**を選択して、**「OK」**をクリックします。

このオプションを選択すると、InDesign同様、所在不明のフォントが使用されているテキストはピンクで強調表示されます。〔図03〕



〔図 03〕Illustrator の**「環境設定 - ファイル管理」**

⊕フォント検索・置換

IInDesignの場合

InDesignでのフォントの確認は、**「書式」→「フォント検索」**ダイアログボックスを表示させるか、現在の環境で使用できないフォントがある場合は、ドキュメントを開く時に環境に無いフォントリストのダイアログボックスが表示されるので、そこから**「フォントを検索」**ボタンをクリックしてダイアログボックスを表示します。〔図03〕

「フォント検索」ダイアログボックスでは、ドキュメント内で使用されているフォントの一覧を見ることができます。

「詳細情報」をクリックすると、フォントごとにさらに詳しい情報を得ることができます。例えば、使用できないフォントがドキュメントの何ページ目に存在しているかを知ることができます。ここでは使用できないフォントを使用可能なフォントに検索置換することができますが、置換したフォントの字形によってはレイアウトが崩れる場合がありますので、置換後はレイアウトのチェックが必要となります。

また、InDesignに貼り込まれたIllustratorファイルやPDFファイルのデータ内にあるフォントも認識することができます。フォントファイルの保存ロケーションで確認したり、使用フォントのバージョンがわかるのもInDesignの特徴です。但し、貼り込みデータの場合、フォント検索はできますがフォントの置換まではできません。そのフォントを取得するか、または元のアプリケーションでグラフィックを開いてフォントを変更することで解決する必要があります。

Illustratorの場合

Illustratorでのフォントの確認も同様に、**「書式」→「フォント検索」**メニューからダイアログボックスを表示させます。**「フォント検索」**ダイアログボックスでは、フォント名がそのフォントでプレビューされるので、フォントを選択するときに便利です。また、アイコンでフォント形式が表示されます。〔図04〕



〔図 03〕InDesign の**「フォント検索」**画面



〔図 04〕Illustrator の**「フォント検索」**画面

環境に無いフォント（インストールされていないかアクティブではないフォント）を含む場合、**「フォント検索」**ダイアログボックスにフォント名はリストはされますがフォント形式がアイコン表示されません。検索コマンドを使用して、環境に無いフォントを置き換えてください。ただし、フォントを変更するとテキスト組版が変更される可能性があるので、置換後はレイアウトのチェックが必要です。

Type 1 フォントのサポート終了
https://adobe.ly/3SExp1p

※【改訂】以前の記述では、CID フォントを含むとしていましたが、CID フォントは当面認識可能です。
https://bit.ly/4ahCeaZ

⊕Type1フォントのサポート終了

アドビでは長年ご利用いただいていたType 1 フォントのサポートを2023 年1 月に終了いたしました。

Type1フォントサポート終了時期

上記ソフトウェアのバージョン以降では、Type 1 フォントはサポートされていません。

サポート終了時期	
Photoshop	23.0 リリース
Illustrator	27.3 リリース
InDesign	18.2 リリース
デジタルビデオ / オーディオ	23.2 リリース

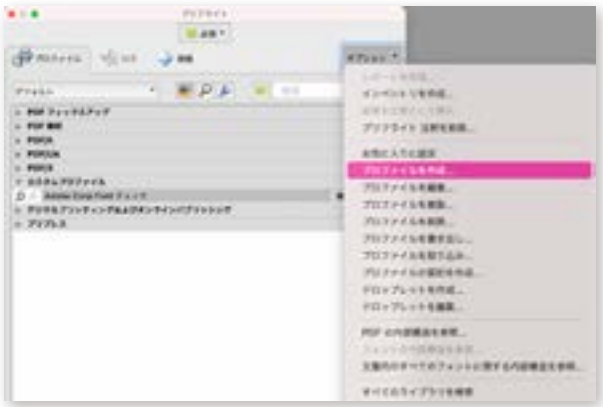


※既存のファイルをリンク配置として、ドキュメントに配置することは可能です。(ファイルを開いて文字の修正など行う場合は、対応フォントに置き換えてご使用ください。)

⊕Type1フォント使用箇所の確認方法「プリフライト」

ドキュメントやアートワークのどこにType1フォントが使用されているか確認するには、印刷用のPDFを作成し、Acrobat Proの**「プリフライト機能」**で確認することができます。

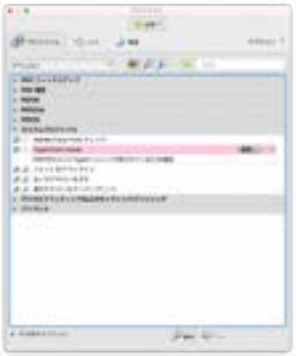
1. Acrobat Proの**「印刷工程」**から**「プリフライト」**を選択
2. パネルメニューより**「プロファイルを作成...」**を選択〔図01〕
3. カスタムプロファイルの**「フォント」**からType1フォントに警告が出るよう指定〔図02〕
4. プロファイルを保存
5. プリフライトより作成したプロファイルを指定して、解析〔図03〕
6. 解析結果を表示し、Type1フォントが使用されている場所を確認〔図03〕



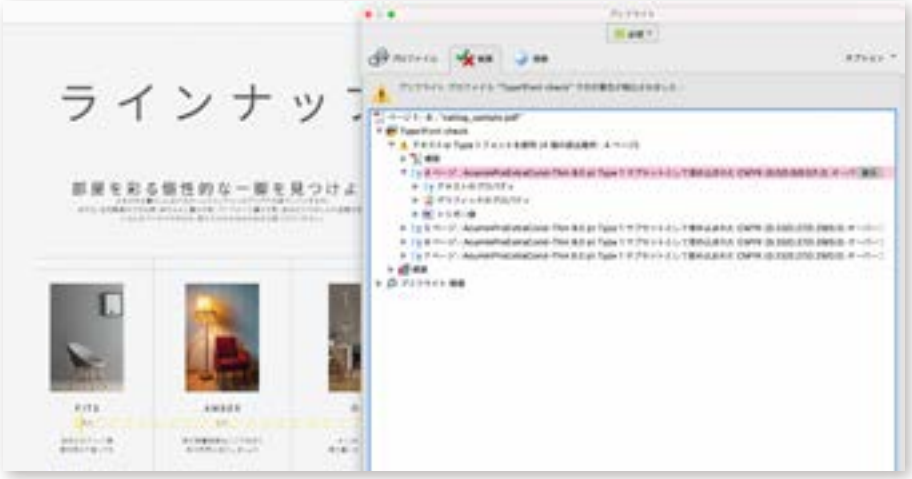
〔図01〕



〔図02〕



〔図03〕



〔図04〕

Acrobat Proのプリフライト機能のカスタマイズについては、P88を参照ください。

Windows版Acrobat Proでは26.001.21745へのアップデート後、日本語のファイル名を使用したファイルでプリフライトを行うとプリフライトが失敗する事象について把握しております。

現在修正に向けて対応中ですが、Windows版のAcrobatをご使用の際に、プリフライト機能に読み込むファイルは英語表記(1byte)のファイル名でご対応いただくようお願い致します。

文字組み更新機能

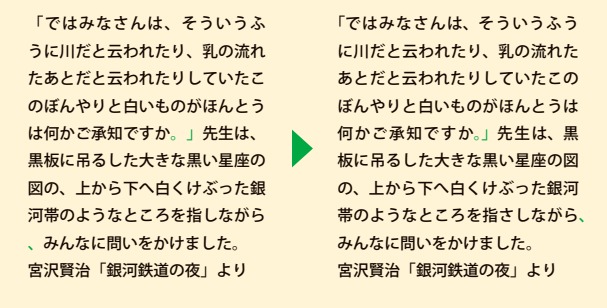
アドビではIllustratorをはじめとしたデザインアプリケーションの文字組み品質向上のために、テキストエンジンの改善に取り組んでいます。

すでにパブリックベータ版では実装していましたが、Illustratorをはじめとしたデザインアプリケーションの文字組み品質向上のため、テキストエンジンを改善しました。ここでは、テキストエンジンをアップデートする背景と、アプリケーション側の対応について紹介します。

IllustratorやInDesign、Photoshop、Premiere Proといったクリエイティブアプリケーションには、世界中の言語を美しく組み上げるためのさまざまな機能が搭載されています。

この機能を実現するために、アドビではこれまで独自の組版プログラムを開発してきました。ほかの言語に比べて、使用する文字の種類や約物（句読点などの記号）が多い日本語も例外ではなく、この組版プログラムによって、標準的な組版ルールに準じた文字組みを可能にしています。このプログラムは一般的に**「テキストエンジン」**と呼ばれ、日本語環境において組版の中枢を担う、重要な機能と位置付けられています。

アドビではこれまでも、技術の変化にあわせてテキストエンジンのアップデートを行なってきましたが、なぜいま、テキストエンジンを再びアップデートするのか。その理由について、テキストエンジンの開発を担当するアドビのプリンシパルサイエンティスト ナット・マッカリーは次のように解説しています。



組版プログラムが機能していない状態（図・左）では、本来、行の先頭にあってはいけない読点（、）がそのままになる／連続する約物（図では　か。」 の部分）がそれぞれ全角で流し込まれるなど、読みやすさ、美しさを損ねるケースが発生する

「*Illustrator* のテキストエンジンは、前回のアップデートから *20* 年以上が経過しています。また、アプリケーションやそのバージョンの違いによって、テキストエンジンの挙動には差異が発生していました。そうした互換性の問題を解消し、ニーズが高まっている *Adobe Express* のような *iPad* 版アプリ、ブラウザーアプリでも同等の美しい文字組みを実現できるようにするために、テキストエンジンを改善、統一する必要がありました。このテキストエンジンが実装されることで、*Illustrator* の文字組み品質はより高いものになり、*Adobe Express* のようなアプリケーションでも、シンプルな *UI* でプロクオリティの文字組みが可能になります。

Illustrator のテキストエンジンの大規模なアップデートは *2003* 年、*Illustrator CS* の登場にあわせて実施され、*Illustrator* の文字組み品質は大幅に向上しましたが、今回もこのときと同じような大規模なメジャーアップデートになります」

レイアウトの保持／変更点を確認しながらの更新も可能

Illustrator2025年版（v29）からテキストエンジンがアップデートされたことにより、デザインワークにどのような影響が出るのかについてポイントは2点です。

1. 影響なし：テキストエンジン変更以降のバージョンで、新規にデザインを開始する場合はじめから新しいテキストエンジンが適用されるため、作業に影響を及ぼすことはない。
2. 影響あり：変更前のテキストエンジンで作られた既存ファイルを、変更後のテキストエンジンが搭載されたバージョンで開くケース。この場合、文字の位置や改行位置が変更されることがある。

テキストエンジンは用途に合わせて２つの系統があります。
ひとつは InDesign にのみ搭載されている豊富な日本語組版機能を対応したテキストエンジン、もうひとつはさまざまな言語・アプリケーション環境に対応した**「統合テキストエンジン *」**と呼ばれるものです。Illustrator や Photoshop、Premiere Pro には、この統合テキストエンジンが搭載されています。
* 以降、統合テキストエンジンをテキストエンジンと表記します。

より詳細なテキストエンジンの背景については、下記のブログ記事を参照ください。

アドビ ブログ
https://bit.ly/3K1EPOa
文字組みの改善点と新機能、
過去データの取り扱いを総チェック！

アドビでは組版のプロフェッショナルである大石十三夫さんに協力を仰ぎ、ツメ組みに最適な文字組みアキ量設定を開発しました。この設定ファイルは、以下のリンクよりダウンロードください。

エンジン変更後の v29.0 以降のファイルでは、一つでもドットバージョンが違うもので再度ひらけば、文字ずれは起こる可能性があります。
例：v29.0 で新規作成→ 29.3 で再度開き直すなど
（ドットバージョンでテキスト部分に改善を入れている可能性があるため）

新しいバージョンのテキストエンジンが搭載されるIllustratorでは、過去のデータの予期せぬレイアウト変更を防ぐために、従来のテキストエンジンで作られたファイルを新しいバージョンのテキストエンジンのファイルで開いた場合、テキスト全体をアップデートする／オリジナルを保持する、のいずれかを選択できるようになっています。

Illustratorの文字組み更新機能＆文字組み保存プラグイン

CC2025(v29)以降、新しいテキストエンジンは、**「文字組み更新」**機能が追加され、従来のデータと比較してバージョンアップに伴う文字位置情報を簡単に確認できるようになりました。この機能を使用することで、変更内容が画面上で確認できることにより、修正作業が効率化されます。

ただし、この**「文字組み更新」**機能を使って文字組みの変更点を確認するには、開くaiファイルがこの機能に対応している必要があります。

対応ファイルの条件 aiファイル

- **Illustrator 2023・27.7以降**
- **Illustrator 2024・28.0以降のバージョンで保存**

それ以前のIllustratorで保存されたファイルの場合、事前に新しいバージョンで文字組み情報が認識できる最適化されたファイルに保存する必要があります。そのため、保存を効率よくアクション処理ができる、Illustratorプラグイン**「文字組み保存プラグイン」**をご用意しました。

このプラグインを使い、これまで作成したaiファイルの文字情報を記録しておくことで、進化したテキストエンジンでも安心して既存データをご利用いただけるようになります。

⊕文字組み保存プラグイン

「ファイル」メニューから**「文字位置情報を保存」**を選択

- 個別処理：開いたファイルを別名で保存
- 一括処理：**「文字組み保存プラグイン」**で一括保存



文字組み更新パネル

文字組み更新パネルは、文字位置が変更される箇所や変化を確認できる機能です。文字位置を変更しない状態を維持したり、更新時に変化状態を確認しながら作業することができます。

1. ファイルを開いて文字組み更新の警告ダイアログが表示された際、**「変更を確認」**をクリック。
2. **「文字組み更新」**パネルで、文字組みの影響ある部分をチェック
3. ずれが大きい場合は**「更新前」**の情報を参考にしつつ適宜修正。影響がなくテキスト変更などがある場合は**「選択項目を更新」**または**「すべてを更新」**をクリック





文字組み保存プラグイン

下記URLからプラグインをダウンロードしてください。

▶ *https://bit.ly/3NqOiMV*

ZIPファイルには以下のファイルが含まれています。

- Windows向けプラグインファイル
- macOS向けプラグインファイル
- Readme PDF

OS環境と使用するバージョンによって、インストール場所が異なりますので、プラグインとともにダウンロードされるReadme PDFを参照して、Illustrator 2023（27.7以降）または2024にプラグインをインストールしましょう。

文字組み更新パネル

文字組み更新パネルを表示するには**「ウィンドウメニュー」→「書式」→「文字組み更新」**

文字組みに関する互換等詳細は**「Illustratorの互換性ガイドブック2026」**を参照ください

画像の管理

ベクターグラフィックは、数式的な情報で定義された直線と曲線で構成されており、解像度に依存しないため、サイズを変更しても画質が劣化することはありません。Illustrator や InDesign の描画ツールで作成したオブジェクトは、こちらのベクターグラフィックです。



ビットマップ画像は、格子状に配置されるピクセルという小さな正方形によって構成されています。ビットマップ画像のピクセル数は固定されていますので、ベクターグラフィックと異なり解像度に依存します。そのため、画面上で拡大縮小したり、作成時の解像度より低い解像度で印刷すると、ジャギーが発生したり、細部が失われる場合があります。Photoshop などのペイントソフトで作成された画像はビットマップ画像です。



基本的に、ビットマップ画像やベクターグラフィックは、埋め込まずにリンクとして配置します。埋め込まれたファイルの編集は困難な場合が多く、また、埋め込まれたファイルの容量が、ドキュメントファイルの容量に加算され大きくなるからです。

*AVIF は InDesign 未対応

⊕画像形式について

画像を扱う上で、まずはじめに気を付けなければならないこと、それは**「カラーモードはRGBかCMYKか」**です。カラーモードは、使用目的により異なります。一般に、色分解出力やカラープリンターへ出力するのであればCMYKで作業を行います。Webや電子書籍用の素材として使用するならばRGBにします。ただし最近ではRGB入稿に対応した印刷会社も増えており、PDF/X-4でのRGB画像のままでも入稿可能な場合も多いです。

次に、**「ファイルフォーマットを何にするか」**を決めます。プリントが最終出力形態とすると、ビットマップ画像はPhotoshopのネイティブファイルであるPSD形式、TIFF、高解像度のJPEG、ベクターグラフィックではAI形式が一般的です。また、信頼性が高く、多様性に富んだPDF形式のファイルも配置可能です。Creative Cloud 2020からはInDesignでSVGファイルもサポートしています。Creative Cloudのワークフローでは、PSDやAI形式といったネイティブ形式やPDF形式を有効に活用することで、シームレスで効率的なワークフローを構築し、また創造性に優れた制作をサポートします。

PSD形式：PSD形式の画像は、背景を透過させた状態で配置することが可能です。オブジェクトの周囲にテキストの回り込みを行うこともできます。また、複数の特色チャンネルを含む画像やダブルトーンの画像が配置されていたとしても、正確な出力がサポートされています。
Illustratorでは、編集可能なアイテムとして、Photoshopのレイヤー、パス、テキストを読み込むことができます。
AI形式：透明機能を含んでいる場合は、透明は維持され、下にあるオブジェクトを透かして見ることができます。（※ただし、カンバスカラーを引くと背景が透明にならないため注意）また、Illustratorのドキュメントからアートワークをコピー＆ペーストまたはドラッグすることで、InDesign上でグループ化された編集可能なオブジェクトとして配置されます。
PDF形式：ベクターグラフィックとビットマップ画像、テキストを同一ファイル上に保持することができるファイル形式です。

多くのファイル形式に対応するInDesignおよびIllustratorにおいて、最終出力媒体ごとに有効なフォーマットを以下にまとめます。

アプリ	Illustrator	*https://helpx.adobe.com/jp/illustrator/kb/supported-file-formats-illustrator.html*
	InDesign	*https://helpx.adobe.com/jp/indesign/using/supported-file-formats.html*
	Photoshop	*https://helpx.adobe.com/jp/photoshop/using/file-formats.html*

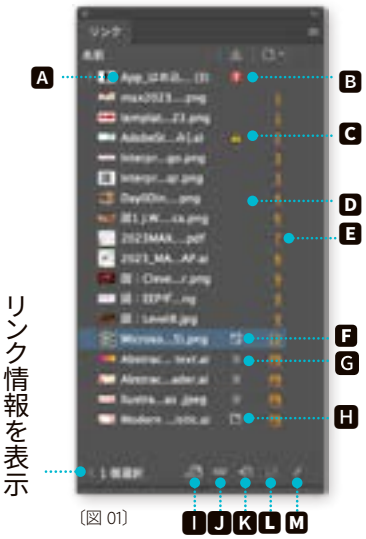
※従来一般的であったEPS形式は現在のワークフローには適していません。
特別な場合を除き、EPS以外のファイル形式をご利用ください。

mac OS 14 から OS での PostScript、EPS のプレビューはできなくなりました。
Office 製品は EPS ファイルをサポートしていません。
プレビューする際は Acrobat などの対応アプリをご利用ください。
▶ https://support.apple.com/ja-jp/HT213250

⊕配置ファイルのステータス確認

InDesignの場合

ドキュメントに配置された画像ファイルは、リンクパネル〔図01〕に表示されます。リンクパネルには、配置されたファイルのステータスやファイル形式、カラースペースなどの詳細リンク情報が集約されます。リンクされたファイルは、正常なリンク（アイコンなし）、無効なリンク、変更されたリンク、埋め込まれたファイルのいずれかで表示されます。



〔図 01〕

A リンクファイル名
B 不明ファイル
C 更新
D リンク配置
E 配置ページ番号
F 埋め込みファイル
G ライセンス認証されていない Adobe Stock 画像
H OK（CC ライブラリと同期）
I CC ライブラリからの再リンク
J 再リンク
K リンクへ移動
L リンクを更新
M 元データを編集

Illustratorの場合

ドキュメントに配置された画像ファイルは、リンクパネル〔図02〕に表示されます。リンクパネルには、配置されたファイルのステータスやファイル形式などの詳細リンク情報が集約されます。リンクパネルには、リンクされたファイルが、正常なリンク、見つからないリンク、更新あり、埋め込まれた画像（アイコンなし）、AdobeStockのライセンス認証の有無、CCライブラリからのリンク、のいずれかで表示されます。

リンクパネルを表示するには、**「ウィンドウ」→「リンク」**を選択します。



〔図 02〕

A ファイル名
B 見つからないリンク
C 更新あり
D ライセンス認証されていない Adobe Stock 画像
E 埋め込み画像
F CC ライブラリからの配置
G リンクファイル
H CC ライブラリからの再リンク
I リンクを再設定
J リンクへ移動
K リンクを更新
L オリジナルを編集
M 削除

⊕配置ファイルの更新と置き換え

InDesignの場合

配置されたファイルのステータスが正常な状態ではない場合、更新や置き換えをします。ドキュメントを開く時にステータスが**「無効なリンク」**や**「変更されたリンク」**のリンクファイルを含んでいる場合には、リンクの更新ダイアログ〔図03〕が表示されます。この問題をただちに解決するには、**「リンクを更新」**をクリックします。無効なリンクがある場合は、再リンクするかどうか尋ねられ、変更されたリンクがある場合は、自動的に更新されます。また、**「リンクを更新しない」**をクリックして、ドキュメントを開いた後に手動で再リンクや更新をすることもできます。
ドキュメントを開いた状態で、無効なリンクや変更されたリンクを再リンク、更新するには、リンクパネルを使用します。



〔図 03〕

無効なリンクを再リンクするには：
リンクパネルの無効なリンクアイコン が表示されている1つあるいは複数のリンクファイルを選択します。再リンクボタン をクリックし、検索ダイアログボックスが表示されますので、ファイルを選択したら**「開く」**をクリックします。

変更されたリンクを更新するには：
リンクパネルの変更されたリンクアイコン が表示されている1つあるいは複数のリンクファイルを選択します。リンクの更新ボタン をクリックします。

Illustratorの場合

配置されたファイルのステータスが正常な状態ではない場合、更新や置き換えをします。ドキュメントを開く時にステータスが**「見つからないリンク」**のリンクファイルを含んでいる場合には、置換ダイアログ〔図04〕が表示されます。
見つからないファイルを探す場合は**「置換」**、別のファイルを選択する場合は**「置換」**を選択します。リンクをそのまま変更しない場合は**「無視」**を選択します。
ドキュメントを開いた状態で、見つからないリンクや修正されたリンクを再リンク、更新するには、リンクパネルを使用します。

見つからないリンクを再リンクするには：
リンクパネルの見つからないリンクアイコン が表示されているリンクファイルを選択します。



〔図 04〕

リンクを再設定ボタン をクリックし、配置ダイアログボックスが表示されますので、ファイルを選択したら**「配置」**をクリックします。

修正されたリンクを更新するには：

リンクパネルの修正されたリンクアイコン が表示されている1つあるいは複数のリンクファイルを選択します。リンクを更新ボタン をクリックします。

※ ver.26 以降では、リンク画像の低解像度データをファイル内に保持し、仕上がりイメージを確認しながら編集することができる仕様のため、画像がリンク切れの場合でも低解像度の画像が表示されます。
印刷時及び PDF 書き出し時に画像がリンク切れの場合には、画質が粗い状態で出力されますのでにご注意ください。

また、ver.25 以前で開く場合には、ファイルは CC2020 で互換しておりますが、画像のリンク切れの場合はプレビュー画像が表示されません。

⊕埋め込まれたファイルの解除

特に InDesign の場合、画像はリンク配置の状態でファイルを運用することが一般的です。
画像が埋め込まれている状態でも、InDesign、Illustrator 共に後から埋め込みを解除することができます。

埋め込みファイルを解除するには：InDesign の場合

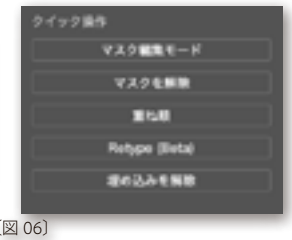
リンクパネルの埋め込まれたファイル を選択します。リンクパネルメニューから**「リンクを埋め込み解除」**を選択します。ダイアログボックス〔図05〕が表示され、元のファイルにリンクする場合は**「はい」**、埋め込まれたファイルから新たに作成されるファイルにリンクする場合は**「いいえ」**を選択します。ダイアログボックスの**「はい」**は、配置したときにファイルがあった場所と同じ場所にリンクファイルがある場合にのみ、正常にリンクされます。また、**「いいえ」**を選択した場合、新たに作成されたファイルが埋め込まれたファイルの替わりとして適切か確認する必要があります。

埋め込みファイルを解除するには：Illustrator の場合

埋め込まれた画像をクリックし、プロパティパネルのクイック操作から**「埋め込みを解除」**を選択します。〔図06〕任意の保存場所に埋め込まれている画像を保存し、リンク画像とします。



〔図 05〕



〔図 06〕


Illustrator のリンクパネル (詳細)


〔図 07〕
InDesign のリンクパネル (詳細)

⊕配置されたリンク画像の詳細情報

InDesign、Illustrator、共に、リンクパネルから位置やサイズに加え、配置した画像の拡大・縮小率配置など、画像に関しての詳細情報を確認することができます。さらに InDesign はビットマップ画像のオリジナル解像度**「元の ppi」**と、ドキュメント上でサイズ変更された後の解像度**「編集後の ppi」**も確認することができます。特に高解像度出力をする場合に、画像の解像度が十分かどうかすぐに評価できます。また、ファイル形式やカラースペース、カラーマネジメントが有効な場合には ICC カラープロファイルも表示されます。リンク情報を表示するには、リンクパネル左下の右向三角を選択します。〔図07〕

Creative Cloudライブラリ

⊕Creative Cloud ライブラリ

CCライブラリは、モバイルからもデスクトップからも素材を自動共有することができる、クラウド上に用意された**「素材置き場」**です。写真、グラフィック、ブラシ、カラーテーマ、テキストスタイルなどの素材や設定をこのライブラリに保存しておくことで、InDesign、Illustrator、Photoshopなどの様々なアプリからいつでも簡単に利用できます。CCライブラリは複数のアプリ間やデバイス間、チームメンバー間で共有できるため、プロジェクト全体で一貫性のあるデザインを常に最新の状態で維持できます。



⊕ライブラリパネルの利用方法

データを入稿する場合は後で記述するパッケージ機能で画像やフォントなどを収集してください。

Illustatorの場合

作成したアートワークを選択し、ライブラリパネルにドラッグ＆ドロップします。
配置する際は、ライブラリパネルからアートボード上にドラッグ＆ドロップします。
元データの修正には、ライブラリパネル上をダブルクリックし、アートワークを編集後、上書き保存することでライブラリ上も更新されます。

InDesignの場合

配置：ライブラリパネルより、ドラッグ&ドロップします。
InDesignで作成したアートワークをライブラリに登録した場合は、パーツとして登録されます。

Photoshopの場合

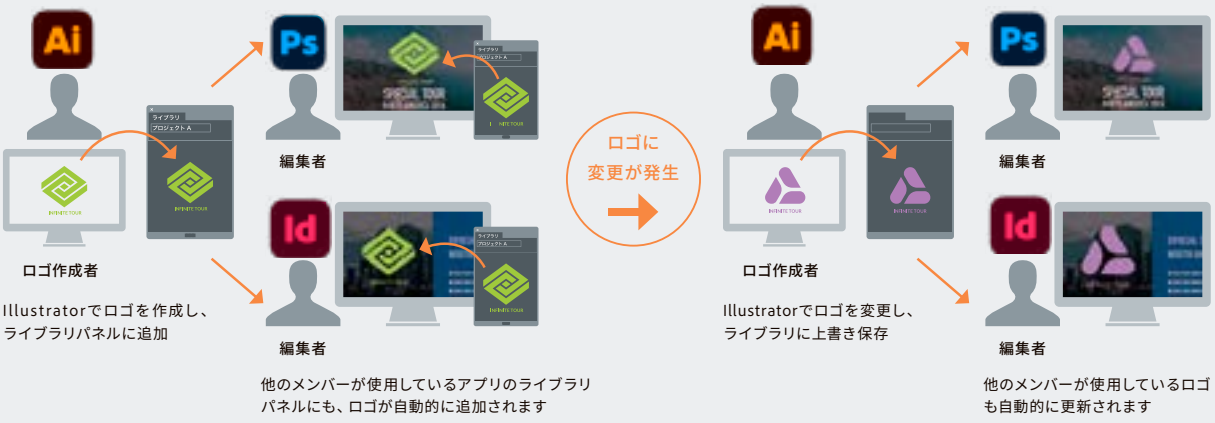
登録したい画像レイヤーをドラッグ&ドロップします。
調整レイヤーや複数レイヤーを合わせて登録したい場合は、グループ化しそれをドラッグ&ドロップします。

⊕Creative Cloudライブラリの共有の仕方

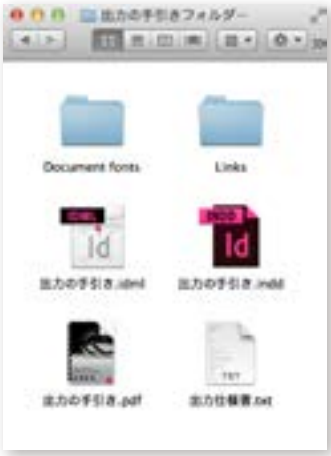
「ライブラリを共有」アイコンか、CCライブラリパネルのパネルメニューをクリックし、共同作業を選択します。共同作業したユーザーのメールアドレスまたはAdobe IDを入力します。
送信ボタンをクリックすれば、相手にアクセス権を付与するメッセージが届き、承認すればライブラリを共有し合うことができます。オフライン環境でも作業は可能ですが、CCライブラリから配置されている画像はリンクが切れることがあります。



ワークフロー例　メンバー間でデザインパーツを共有、更新



画像収集



⊕パッケージ

ファイルのパッケージ機能を使うことで、フォントやリンクグラフィックなど、ドキュメント作成に使用したファイルを収集して、印刷・出力会社への入稿時に必要なファイルを簡単に揃えることができます。InDesign、Illustrator、Photoshop共に、パッケージを実行するには、**「ファイル」→「パッケージ」**を選択します。(Illustrator、Photoshop共Creative Cloudから機能が実装されています)

InDesignの場合

パッケージを選択すると、先に自動でプリフライトが行われます。もし警告が発生〔図01〕したら、**「情報を表示」**を選択し、問題を解決します。問題がある状態で**「続行」**を選択してしまうと、不完全なパッケージが生成される可能性があります。



〔図01〕

パッケージダイアログボックス

フォントをコピー(CJKとAdobe Fontsを除く):フォントはプレビュー用のみコピーされます。また、Adobe Fontsフォントは収集されません。Adobe Fontsフォントを使用している場合、データを受け取る側も同様にAdobe Fontsからドキュメントに使用されているフォントを入手する必要があります。

リンクされたグラフィックのコピー:リンクされたグラフィックのファイルをコピーします(配置されたファイル内にリンクしている画像はコピーされません)。テキストファイルをリンクしている場合は、常にコピーされます。

パッケージ内のグラフィックリンクの更新:コピーされたドキュメントとリンクファイルの関連づけを維持させるために、すべてのリンクをパッケージフォルダの場所に変更します。

ドキュメントハイフン例外のみ使用: InDesignドキュメントの制作環境にあるユーザ辞書が埋め込まれます。これは、他のユーザ辞書(制作環境以外のコンピュータ上にあるユーザ辞書など)が使用されないようにしたいときに便利です。これによって、制作環境以外で改行が変更されてしまうトラブルを回避できます。

非表示レイヤーのフォントとリンクを含める:非表示レイヤーで使用しているフォントとリンクされたファイルを収集します。

IDMLを含める:下位互換のあるInDesign Markup Language(.idml)形式のファイルを書き出します。

※InDesign CS4以降で開くことができますが、互換性を保証するものではありません。

PDF(印刷)を含める:印刷用のPDFファイルを書き出します。(各プリセットについてはP24を参照)

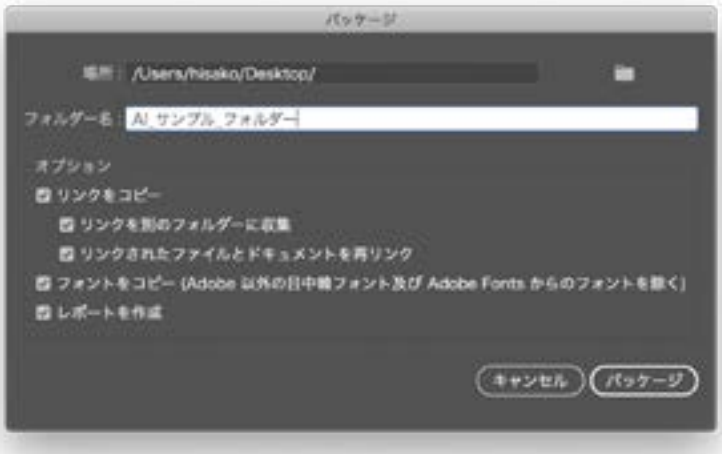
レポートを表示:パッケージ終了後、印刷指示レポートが自動的に表示されます。

注意
InDesignでは、ドキュメント内に貼り込んだグラフィックデータ(例えば、Illustratorファイルなど)内にさらに外部へリンクしている画像データがある場合、ドキュメント内に貼り込まれたグラフィックデータは収集されますが、外部へリンクした画像データまでは収集されません。外部へリンクした画像データは、手動で同梱するようにします。これら外部へリンクした画像は、プリフライトの**「リンクと画像」**にもリストされませんので注意が必要です。

Illustratorの場合

InDesign同様、パッケージ機能を使用することができます。

場所：パッケージフォルダーを作成する場所を指定します。



注意
フォントをパッケージする際、警告が表示されます。フォントのコピーに関する許可があるかどうかを確認するには、各フォントのライセンス許諾契約書をご覧ください。

フォルダー名：パッケージの名前を指定します。デフォルトでは、フォルダー名は Illustratorドキュメントの名前が付けられます。

リンクをコピー：リンクグラフィックおよびリンクファイルをパッケージフォルダーにコピーします。

リンクを別のフォルダーに収集：「Links」フォルダーを作成して、すべてのリンクアセットをそのフォルダーに保存します。このオプションを選択しない場合、.ai ファイルと同じフォルダー内にアセットがコピーされます。

リンクされたファイルとドキュメントを再リンク：リンクをパッケージフォルダーの場所に変更します。このオプションを選択しない場合、各アセットはパッケージ内に収集されますが、パッケージされた Illustrator ドキュメントでは、リンク元はオリジナルの場所のまま保持されます。

ドキュメントで使用されているフォントをコピー（CJKおよびAdobe Fontsフォント以外）：フォントファミリー全体ではなく、アートワーク内で使用されている欧文フォントとアドビ製の和文フォントがコピーされます。Adobe Fontsフォントはコピーされません。Adobe Fontsフォントを使用している場合、データを受け取る側も同様にAdobe Fontsからドキュメントに使用されているフォントを入手する必要があります。

レポートを作成：パッケージファイルに付随する概要レポートを作成します。このレポートには、特色のオブジェクト、すべての使用フォントおよび所在不明のフォント、所在不明のリンクに関する概要とすべてのリンク画像または埋め込み画像の詳細が含まれます。

Photoshopの場合

InDesign、Illustrator同様、パッケージ機能を使用することができます。
ただし、収集できるのはリンク画像のみで、フォントに関しては収集しません。



Photoshop のパッケージ機能
Photoshop | 2014 年 1 月 (Photoshop バージョン 14.2) より

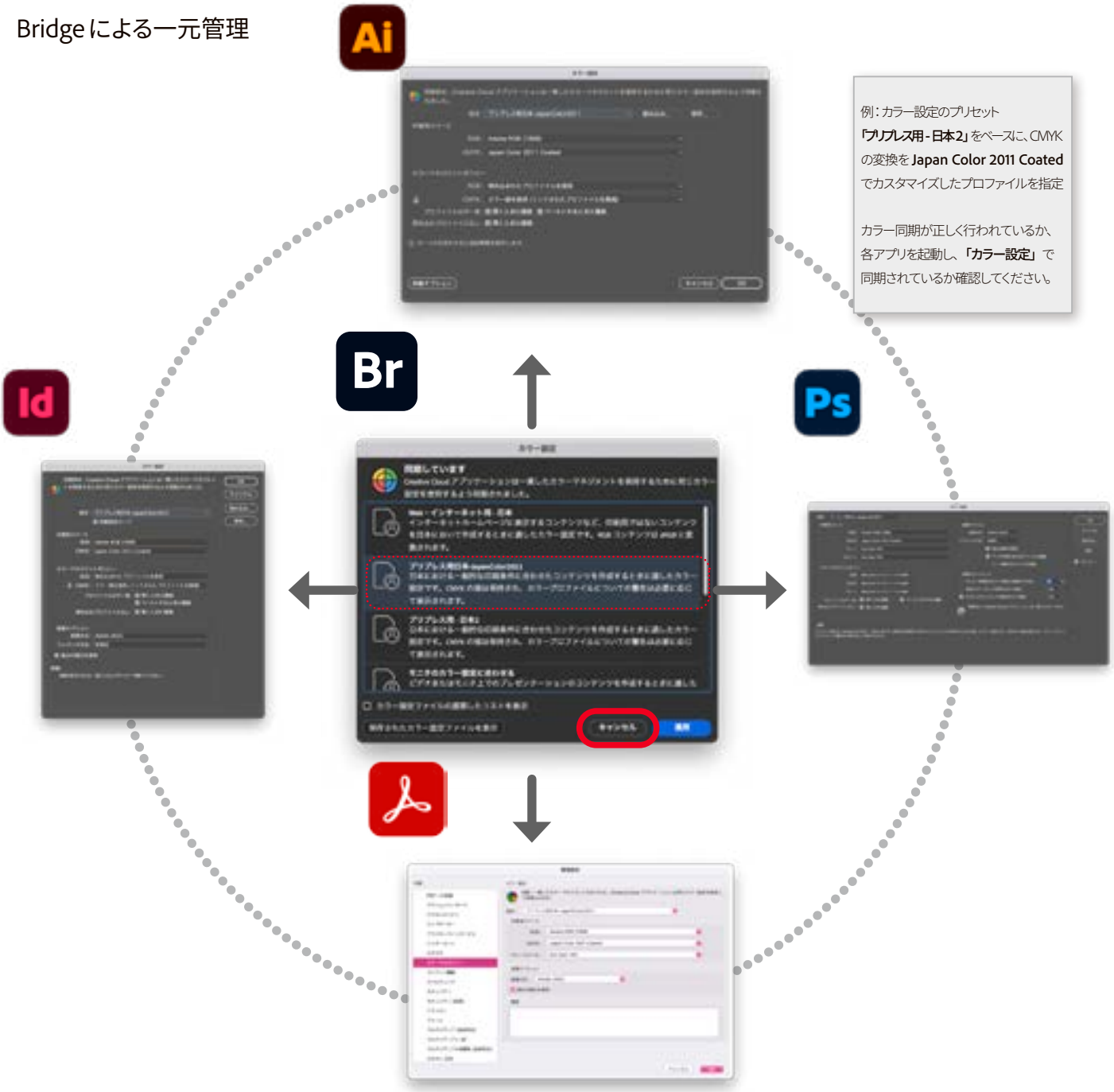
カラーマネジメント

カラーマネジメントを行う大抵のワークフローでは、あらかじめ提供されるプリセットカラー設定を使用することをお勧めします。

⊕Bridgeによる一元管理

「カラーマネジメントシステム」を使用すると、画像を取り込んだり、ドキュメントを編集してアドビアプリケーション間でやり取りしたり、最終成果物を出力したりするときに、色の外観を保持することができます。DTPワークフローで使用されるCreative Cloud内の主要な各アプリケーションは、カラー設定が同期されるため、RGBカラーとCMYKカラーは一貫して表示されます。つまり、色はどのアプリケーションで表示しても同じ色に見えます。
各アプリケーションが使用するカラー設定の同期は、Bridge CCによって一元的に行われます。

Bridgeによる一元管理



⊕アプリケーション間でカラー設定の同期

1. Bridge CCを開きます。
2. 他のCreative Cloudアプリケーションから Bridgeを開くには、そのアプリケーションで**「ファイル」→「Bridgeで参照」**を選択します。
3. **「編集」→「カラー設定」**を選択します。
4. 表示された一覧からカラー設定を選択し、**「適用」**をクリックします。

⊕カラー設定の詳細

作業用スペース

作業用スペースは、アドビ アプリケーションにおける色の定義と編集に使用されるカラースペースです。各カラーモデルにはそれぞれ作業用スペースプロファイルが関連付けられます。

RGB：アプリケーションのRGBカラースペースを決定します。一般に、特定の機器のプロファイル（モニタプロファイルなど）ではなく、Adobe RGBまたはsRGBを選択することをお勧めします。

CMYK：アプリケーションのCMYKカラースペースを決定します。すべてのCMYK作業用スペースは機器に依存します。つまり、この作業用スペースは実際のインクと用紙の組み合わせに基づきます。アドビが提供するCMYK作業用スペースは標準の商業印刷条件に基づいています。

カラーマネジメントポリシーのオプション

ドキュメントを開いたり画像を読み込んだりしたとき、カラーマネジメントポリシーによってアプリケーションによるカラーデータの処理方法が決まります。RGB画像用とCMYK画像用にそれぞれ異なるポリシーを選択することができ、警告メッセージが表示されるタイミングを指定することもできます。カラーマネジメントポリシーを表示するには**「編集」→「カラー設定」**を選択します。

・RGBとCMYK

ファイルを開いたり現在のドキュメントに画像を読み込んだりするときに、色を現在の作業用スペースに変換するために従うポリシーを指定します。次のいずれかのオプションを選択します。

埋め込まれたプロファイルの保持：ファイルを開くときに、埋め込まれたカラープロファイルを常に保持します。このオプションを選択すると一貫したカラーマネジメントが行われるので、このオプションはほとんどのワークフローにお勧めします。ただし、CMYK%を保持する必要がある場合は例外です。その場合は、**「カラー値を保持**（リンクされたプロファイルを無視）**」**を代わりに選択する必要があります。

作業用スペースに変換：ファイルを開いたり画像を読み込んだりするとき、色を現在の作業用スペースのプロファイルに変換します。このオプションを選択するのは、特定のプロファイル（現在の作業用スペースプロファイル）をすべての色に対して強制的に使用する必要がある場合です。正し、カラーが正しく表示されない可能性がありますので、CMYK画像を変換する際には選択しないでください。

カラー値を保持（リンクされたプロファイルを無視）：このオプションは、InDesignおよびIllustratorでCMYKに対して使用できます。プロファイルが埋め込まれたCMYK画像を開いたり読み込んだりすると、アプリケーションによってプロファイルが無視され、作成時のCMYK%が保持されます。ただし、アドビ アプリケーションで正確な色を再現するためにカラーマネジメントを使用すること

もできます。InDesign では**「オブジェクト」→「画像カラー設定」**を選択することによって、オブジェクトごとにこのポリシーを無効にすることができます。

オフ：ファイルを開いたり、画像を読み込んだりするときに、埋め込まれたカラープロファイルを無視し、作業用カラースペースに設定したプロファイルを使用して表示します。保存時にはプロファイルを埋め込みません。このオプションを選択するのは、ドキュメントの作成者によって提供されるカラーメタデータをすべて廃棄する場合です。

プロファイルの不一致

開くときに確認：開くドキュメントに現在の作業用スペース以外のプロファイルのタグが付けられている場合は、常にメッセージが表示されます。初期設定の処理オプションをどの方法にするかのメッセージが表示されます。このオプションを選択するのは、ドキュメントの適切なカラーマネジメントを状況に応じて行うことが必要な場合です。

ペーストするときに確認：コピー＆ペーストやドラッグ&ドロップによって色がドキュメントに読み込まれる場合に、カラープロファイルの不一致が生じると、常にメッセージが表示されます。初期設定の処理オプションをどの方法にするかのメッセージが表示されます。このオプションを選択するのは、コピー＆ペーストやドラッグ&ドロップする色の適切なカラーマネジメントを状況に応じて行うことが必要な場合です。

埋め込みプロファイルなし

開くときに確認：タグなしドキュメントを開くときは、常にメッセージが表示されます。初期設定の処理オプションをどの方法にするかのメッセージが表示されます。このオプションを選択するのは、ドキュメントの適切なカラーマネジメントを状況に応じて行うことが必要な場合です。

変換オプション



変換方式：カラースペース間で色域をマッピングするために使用するColor Management Module (CMM) を指定します。初期設定のAdobe Color Engine (ACE) は、ほとんどのユーザに適しており、必要なすべてのカラー変換を実行できます。

マッチング方法：カラースペース間で色の変換に使用するマッチング方法を指定します。テスト済みの初期設定のマッチング方法 (業界標準に準拠) を使用することをお勧めします。日本におけるカラー設定を選択する場合、初期設定のマッチング方法は**「知覚的」**です。カラー値が変更された場合でも、人の目に色が自然に映るように、色間の視覚的な関係を保護します。このマッチング方法は、色域外の色が多く含まれる写真画像に最適です。これは日本の印刷業界における標準のマッチング方法です。

黒点の補正を使用：出力機器のダイナミックレンジの全範囲をシミュレートすることによって、画像内の暗い部分の詳細が失われないようにします。印刷時に黒点の補正を使用する予定の場合は、このオプションを選択します (ほとんどの状況で推奨)。

プリセットカラー設定の保存場所



ここに保存されたプリセットカラー設定は、すべてのユーザーで使用することができます。

▶ Mac OS の場合
「起動ディスク」/ ライブラリ /Application Support/Adobe/Color/Settings

▶ Windows の場合
32bit OS：「起動ディスク」¥Program Files¥Common files¥Adobe¥Color¥Settings
64bit OS：「起動ディスク」¥Program Files(x86)¥Common files¥Adobe¥Color¥Settings

カラープロファイルの埋め込みなしと不一致について

プロファイルが埋め込まれていないか、作業用スペースと一致しない場合は、カラー設定ダイアログボックスで設定しているオプションに従って、アプリケーションによって警告メッセージが表示される場合があります。
警告メッセージはアプリケーション間で異なりますが、共通に次のオプションが用意されています。

1ドキュメントまたは読み込んだカラーデータを保持する

例えば、ドキュメントにカラープロファイルが埋め込まれている場合はそのプロファイルを使用するか、プロファイルが埋め込まれていない場合は何も処理をしないでそのまま開くか、コピー&ペーストやドラッグ&ドロップされたカラーデータ内のカラー値を保持するかを選択することができます。

2カラープロファイルが一致しないドキュメントを開く時

プロファイルを廃棄するか、ドキュメント内の色を現在の作業用スペースに変換するかを選択することができます。 カラーデータを読み込むときは、色の外観を保持するために色を現在の作業用スペースに変換するかどうかを選択することができます。

3ドキュメントまたは読み込んだカラーデータを調整

例えば、カラープロファイルが埋め込まれていないドキュメントを開くときは、現在の作業用スペースプロファイルを割り当てるか、異なるプロファイルを割り当てるかを選択することができます。

アドビアプリケーションで、読み込んだグラフィックをカラーマネジメントに対応させるには、保存の際に ICC 準拠のプロファイルを埋め込みます。ICC プロファイルを埋め込んで保存する際は、PDF（.pdf）、Illustrator（.ai）、Photoshop（.psd）、InDesign（.indd）、TIFF 形式そして JPEG 形式が推奨されます。



ICCプロファイル

⊕ICCプロファイル：Japan Color 2011 Coated

CMYK変換に使用する初期設定のプロファイルは、CS2でJapan Standard v2からJapan Color 2001 Coatedに置き換えられました。以降このプロファイルを多くのユーザーが使用してきましたが、新たにCreative Cloud（2015年リリース以降）のPhotoshopに最新のJapan Color 2011 Coatedプロファイルが標準インストールされます。

Japan Color 2001 Coatedは、その名の通り2000年頃のフィルム製版時代に作られたプロファイルです。Japan Color 2011 Coatedは、よりシャープな網点を出力できるCTP出力全盛の時代に合わせて作られたプロファイルとなっています。

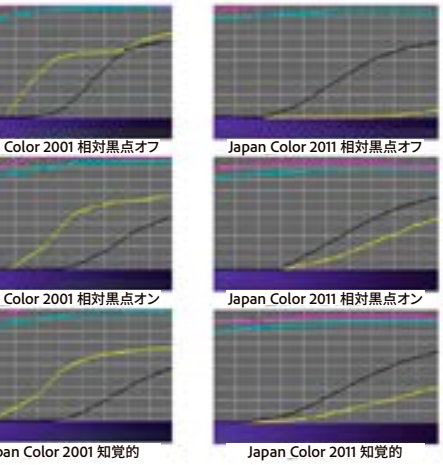
ICCプロファイルの指定方法

Photoshopの[編集]メニュー→[カラー設定]を選択し、**「作業用スペース」**でCMYK変換の設定をプルダウンメニュー下部のJapan Color 2011 Coatedにします。

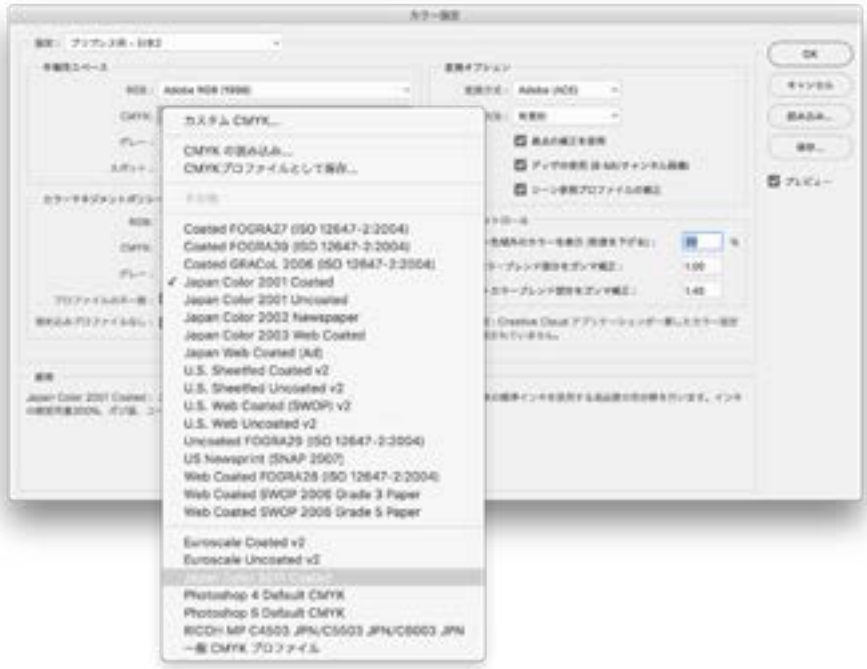
IllustratorやInDesignにもカラー設定を適用するには、PhotoshopでJapan Color 2011 Coatedに指定した設定を保存し、前述のBridgeで保存したプロファイルを指定すれば一元管理可能です。

Japan Color 2011 Coatedでは、マッチング方法**「知覚的」**と**「相対的な色域を維持」**で総インキ量（TAC値）に12%の差が出るため、これまで以上に画像ごとのマッチング方法の使い分けが重要になります。

また、このプロファイルを使用するには出力側、例えば印刷会社でJapan Color 2011 Coatedをサポートしている必要があります。



Japan Color 2001 Coated では難しかった紫色のグラデーションも、Japan Color 2011 Coated ではきちんと滑らかに表現することができます。



Japan Color 2011 Coated が
標準インストールされるバージョンでは（CC2014 以降）、
カラー設定プリセットに
Japan Color 2011 Coated が設定された
「一般用 - 日本 3」が追加されています。
（RGB：sRGB ／ CMYK：Japan Color 2011）

スウォッチについて

⊕スウォッチについて

スウォッチとは、カラーや濃度（色合い）、グラデーション、パターンに名前を付けたものです。ドキュメントに関連付けられたスウォッチはスウォッチパネルに表示されます。スウォッチの表示方法には個別表示とグループ表示があります。

別の Illustrator や InDesign のドキュメントや各種カラーシステムのスウォッチライブラリを開くこともできます。スウォッチパネルおよびスウォッチライブラリパネルには、以下の種類のスウォッチが表示されます。

a プロセスカラー

プロセスカラーは、シアン、マゼンタ、イエローおよびブラックの 4 色の標準プロセスインキを混合してプリントされます。初期設定では、新規スウォッチはプロセスカラーとして定義されます。

b グローバルプロセスカラー

グローバルカラーを編集すると、オブジェクト全体で該当するカラーが自動的に更新されます。特色はすべてグローバルカラーですが、プロセスカラーにはグローバルカラーと非グローバルカラーがあります。グローバルカラースウォッチには、パネルがリスト表示の場合はグローバルカラーアイコン が表示され、サムネール表示の場合は右下に三角形が表示されます。

c 特色

特色とは、あらかじめ混合された特殊なインキのことで、CMYK プロセスインキの代わりとして、または CMYK プロセスインキに追加して使用されます。特色スウォッチには、パネルがリスト表示の場合は特色アイコンが表示され、サムネール表示の場合は右下に点が表示されます。

d グラデーション

グラデーションとは、1 つのカラーから他のカラーに徐々に変化させもの、または 1 つのカラーや複数のカラーの濃度を徐々に変化させたものです。グラデーションカラーには、CMYK プロセスカラー、RGB カラーまたは特色を割り当てることができます。グラデーション分岐点に適用された透明は、グラデーションをグラデーションスウォッチとして保存したときに保持されます。円形のグラデーションの縦横比と角度を調整して作成した楕円形のグラデーションの縦横比と角度の値は、保存されません。

e パターン

パターンの種類には、繰り返し（タイルされた）パス、複合パス、単色の塗りが適用されたテキスト、塗りが適用されていないテキストがあります。

f なし

なしスウォッチを選択すると、オブジェクトから線や塗りが削除されます。このスウォッチを編集または削除することはできません。

g レジストレーション

レジストレーションスウォッチは組み込みのスウォッチです。レジストレーションの塗りや線が適用されたオブジェクトは、PostScript プリンターから各色版にプリントされます。例えば、レジストレーションマークにレジストレーションカラーを使用すると、プリントプレート（刷版）を印刷機に正確に配置することができます。このスウォッチは削除できません。注意：文字にレジストレーションカラーを設定してからファイルを色分解してプリントすると、文字が正常に出力されない場合や、ブラックインキが不自然な色になる場合があります。これを回避するため、文字にはブラックインキを使用してください。

h カラーグループ

カラーグループには、プロセスカラー、特色およびグローバルプロセスカラーを含めることができます。パターン、スウォッチ、レジストレーションスウォッチを含めることはできません。カラー



グループは、カラーガイドパネルまたはカラーを編集 / オブジェクトを再配色ダイアログボックスを使用して、カラーハーモニーに基づいて作成します。既存のスウォッチをカラーグループに統合するには、スウォッチを選択し、スウォッチパネルの新規カラーグループアイコンをクリックします。カラーグループには、フォルダーアイコン が表示されます。
スウォッチパネルでは、濃度を作成することもできます。濃度とは、輝度が変更されたグローバルプロセスカラーまたは特色です。各カラーの濃度はすべて関連付けられているため、1 つの濃度スウォッチのカラーを編集すると、関連付けられているすべての濃度スウォッチ（およびこれらのスウォッチでペイントされているオブジェクト）のカラーが変更されます。ただし、濃度値は変更されません。濃度は、スウォッチパネルがリスト表示の場合は、パーセント値で示されます。

スウォッチライブラリのカラーブックからDICやTOYOなどの特色をデザインに使用する場合がありますが、最終出力が4色での印刷（特色用の版を使用しない）場合は使用しないでください。

Illustrator、InDesign では環境設定で**「黒の表示方法」**をコントロールすることができます。制作物において正確なカラーを表示／出力するためには、こちらをあらかじめ設定しておく必要があります。
インストール時の初期設定では、**「スクリーン」**、**「プリント / 書き出し」**共に**「すべての黒をリッチブラックとして表示 / 出力」**となっています



Illustrator のブラックのアピアランス



InDesign の黒の表示方法

注意：Pantone カラーブック廃止について

Pantone などのカラーシステムメーカーは、主に印刷デザインを目的として、Photoshop、Illustrator、InDesign などのアプリ間で色情報を伝達するための標準化された色を作成しています。

2022 年以降、Pantoneはアドビとのライセンスモデルを変更し、ユーザーがPantoneカラーブックを利用するための方法が変更され、現在ではアプリ内に標準では搭載されていません。〔図01〕それに伴い、ドキュメント内にPantoneで指定されているオブジェクトがある場合は下記のようなアラートが表示されます。〔図02〕過去使ったファイルは、そのまま使うことができますが、新規またはスウォッチに追加したい場合は以下の方法で有料プラグインが必要です。以下のプラグインを参考にしてください。



〔図01〕

※リンクした Photoshop ファイルにスポットチャンネルが使用されている場合は注意が必要です



〔図02〕

一部の Pantone カラーは、Pantone とアドビとのライセンス契約変更のため、利用できない場合があります。

Pantoneカラーブックが必要な場合

①**Pantone Connect**プラグインを購入

「ウィンドウ」メニューから**「Exchangeでエクステンションを検索」**または、CCデスクトップアプリの**「Stockとマーケットプレイス」**→**「プラグイン」**から、**「Pantone Connect**（課金あり*）**」**をインストールすれば、Pantoneカラーの確認ができます（無料）。Illustratorのスウォッチとして新規に追加する場合は、別途有料となります。〔図03〕

②**Pantone LIVE Design**プラグインを購入

X-riteのサイトから**「Pantone LIVE Design」**プラグインのライセンスを購入してIllustratorにインストールします。〔図04〕



〔図03〕



〔図04〕

Pantone カラーブック FAQ
https://adobe.ly/3VwqKci

Pantone Connect プラグイン
https://adobe.ly/3gaCOzS
** カラーの確認は無料、スウォッチに追加する場合は有料*

PantoneLIVE Design プラグイン
https://bit.ly/3Y6dg9x
**2025 年版は現在まだ未対応（20204 年 10 月現在）*
問い合わせは X-Rite へ

特色（スポットカラー）が使用されているかどうかは、「分版プレビュー」で確認ができます（P42 参照）。

※カラーブックは、特色（スポットカラー）を指定する場合以外には使用しないようにしましょう。（**安易にスウォッチカラーの代わりに使用しないこと**）

⊕プリフライト

プリフライトとは飛行機の離陸前の点検する行為からきており、DTPワークフローでは制作ドキュメントに対し問題となりえる項目を検査し、品質をチェックすることを意味します。プリフライトは出力時に行うのが通常ですが、出力ビューローや印刷会社へ入稿するデータが安全かどうか、信頼できるかどうかをチェックするためにも、入稿前にプリフライトを行うようにします。

InDesignの場合

InDesign CS4以降、ライブプリフライト機能が搭載され制作中にリアルタイムでエラーをチェックすることができます。ライブプリフライトは、画面左下に常時表示されています、エラーが無い場合は が表示され、制作中に問題が発生した場合は がエラー件数とともに表示されます。

プリフライトパネル

プリフライトパネルは**「ウィンドウ」→「出力」→「プリフライト」**で表示するか、画面左下の**「プリフライトメニュー」**から表示します。エラーがある場合はリストにエラー項目が表示されます。ページ番号をクリックすることでエラー箇所にジャンプすることができます。

ライブプリフライトを利用するには、ドキュメント作成の初期段階でプリフライトプロファイルを作成、または指定します。プリフライトプロファイルは、独自に作成するか、プリンターや別のソースから読み込むことができます。デフォルトでは、**「基本」**プロファイルが新しいドキュメントおよび変換されたドキュメントに適用されます。このプロファイルでは、不明および変更済みリンク、オーバーセットテキスト、環境にないフォントが検出されます。**「基本」**プロファイルは、編集や削除はできませんが、複数のプロファイルを作成して使用できます。例えば、作業対象のドキュメント別、使用する印刷・出力会社別、ドキュメントの製作段階別にプロファイルを作成し、切り替えて使用できます。プロファイルの入手やプリフライトプロファイルの設定については、印刷・出力会社にお問い合わせください。また、独自に作成したプロファイルを書き出して他のユーザーに提供することができます。書き出したプロファイルは、.idpp という拡張子で保存されます。



プリフライトプロファイル

プリフライトプロファイルの定義

プリフライトパネルメニューまたはドキュメントウィンドウの下部のプリフライトメニューから**「プロファイルを定義」**を選択します。

新規プリフライトプロファイルアイコン をクリックし、プロファイルの名前を指定します。

各カテゴリーで、プリフライト設定を指定します。チェックマークを付けたボックスのすべての設定が追加されます。空のボックスは何も設定がないことを示しています。

リンク：不明なリンクや変更済みのリンクをエラーとして表示するかどうかを指定します。

カラー：必要な透明ブレンドスペースを指定し、CMY 色版、カラースペース、オーバープリントなどのアイテムを許可するかどうかを指定します。

画像とオブジェクト：画像の解像度、透明度、線の太さなどのアイテムの条件を指定します。

テキスト：「テキスト」カテゴリーには、無効なフォントやオーバーセットテキストなどのアイテムのエラーが表示されます。

ドキュメント：ページのサイズと向き、ページ数、空白ページ、裁ち落としや印刷可能領域の設定の条件を指定します。

プロファイルごとに**「保存」**を選択して変更を保存してから、別のプロファイルの作業を行います。ダイアログボックスを閉じてすべての変更を保存するには、**「OK」**をクリックします。

注意
印刷領域外にあるオブジェクトは、**「プリフライト」**や**「パッケージ」**の対象にはなりません。

プリフライトパネル



a　プリフライトのオン / オフ
b　プリフライトに使用するプロファイル
c　エラー発生箇所のページ番号
（クリックで対象ページにジャンプします）
d　選択したエラーの詳細情報
e　現在のエラー数
f　プリフライト対象を設定
（特定ページのみプリフライトできます）

Illustratorの場合

Illustratorには、InDesignにあるようなプリフライト機能は無く、PDFに書き出した時点でAcrobatによるプリフライトチェックを行います。

Illustratorでの作業中は、使用フォントとリンク画像を手動で検査することができます。

使用フォント：使用フォントの確認は、フォントの検索・置換ダイアログボックスで行います。環境に無いフォントがある場合は、検索コマンドで環境に無いフォントを置き換えます。詳しくは、P6を参照ください。

リンク画像：リンクされた画像のステータスは、リンクパネルダイアログボックス（P9の〔図02〕）で確認できます。見つからないリンク、修正されたリンクがある場合は、リンクを再設定、リンクの更新コマンドでリンクファイルのステータスを修正します。詳しくは、P8**「画像の管理」**を参照ください。

⊕AIアシスタント (beta) を使用した入稿データチェック

CC2027年版から各アプリにAIアシスタント機能（ベータ）が搭載されました。ベクター画像やデザインカンプだけでなく、Illustrator上での作業を手助けする対話型のアシスタントです。ここでは、印刷・出力にまつわる使い方の一例を解説します。ただし、あくまでベータ機能のため、正しい情報かどうかは、その都度確認してください。

Illustratorの場合

AIアシスタントを起動し、入稿する前にトラブルを回避するための確認作業として利用します。
プロンプト：**「アートボード1のデータを入稿したいが、入稿データとして問題ないかチェックして欲しい」**

解答結果をチェックし、適宜該当箇所を修正します。





Critical Issues
1. 塗り足し不足



Warnings
1. トリムエッジに近すぎるオブジェクト｜2. 長さ・幅ゼロのオブジェクト（孤立点）





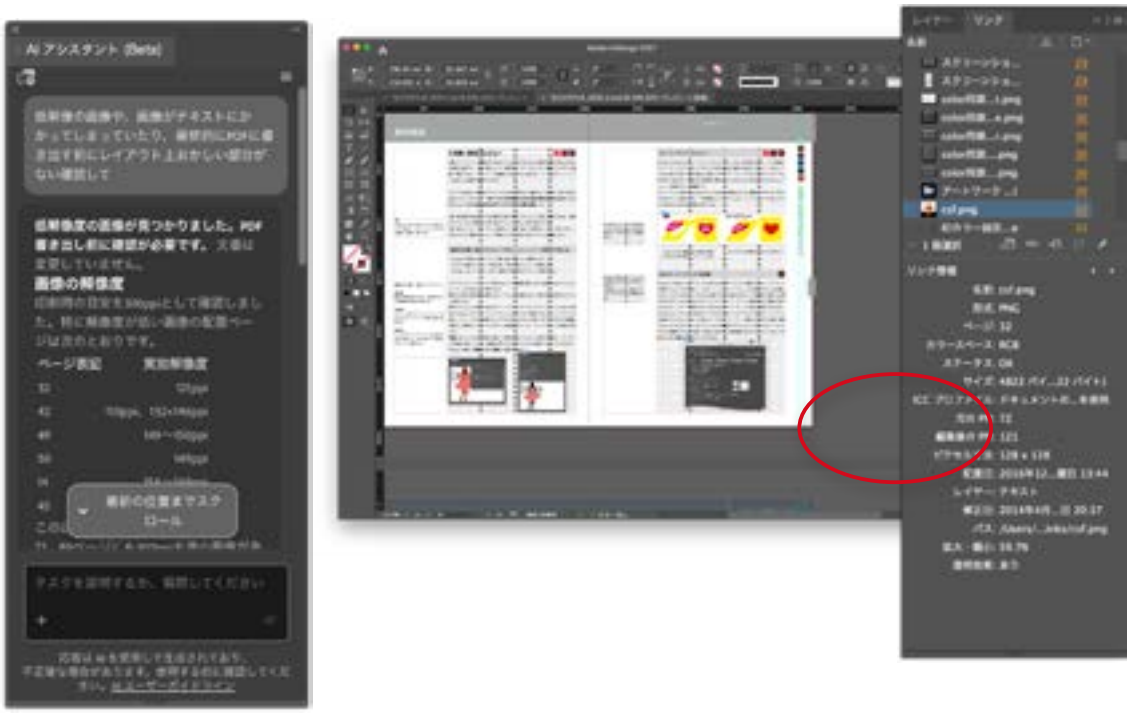
プロンプトによっては思い通りの解答や正確な回答ではない場合もあります。英語のプロンプトを入力すると解釈の精度が上がる場合があります。

Claude CodeやCodexのMPCおよびツール (beta) に接続して、作業効率を計ることも可能です。



InDesignの場合

InDesign ではプリフライト機能が標準搭載されているため、出力に関する部分ではプリフライトをご利用ください。ただし、標準のプリフライト機能では見つかりにくいような部分に関してはプロンプトを工夫して、入稿前のチェックを行うことができます。



プレビュー

**作成したデータが
どのように出力されるかを
事前に確認することができます**

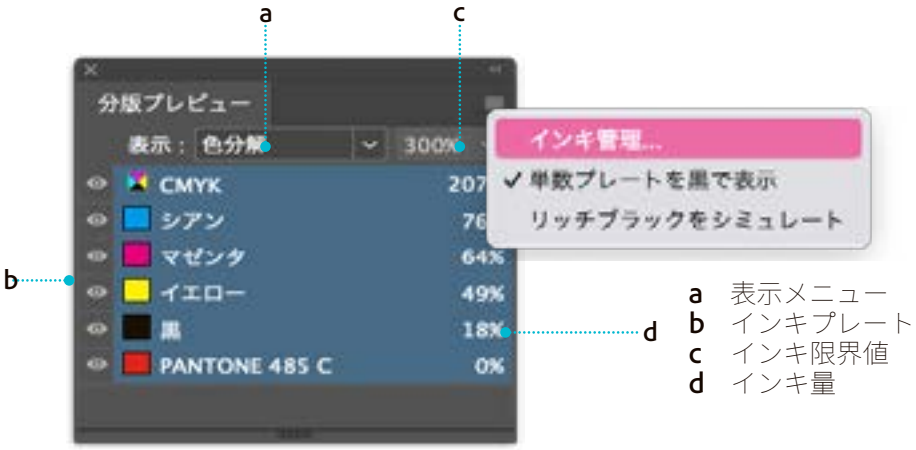
⊕分版プレビュー

InDesign、Illustratorの分版プレビューは、ドキュメントがどのように色分解されるか、すべてのプレート（プロセスカラープレートと特色プレート）を確認することができます。今までは、画面やコンポジット出力では判断できず色分解出力して確認していた内容を、色分解出力することなく画面上で確認ができ、また編集可能な状態でプレビューするため、問題がある場合でも素早く手軽に修正することができます。

ここではInDesignの分版プレビューパネルについて解説します。

分版プレビューは、**「分版プレビュー」**パネル（図01）で調整します。分版プレビューパネルには、ドキュメントで定義されているプロセスカラーおよび特色インキがリストされます。分版プレビューの他に、オーバープリントのプレビューや任意のポイントの総インキ使用量（インキ限定）も確認することもできます。また、**「リッチブラックをシミュレート」**では、印刷した場合に黒色がどのように見えるかをより正確に視覚化することができます。分版パネルを表示するには、**「ウィンドウ」→「出力」→「分版プレビュー」**を選択します。

PDFへ書き出すことで、Acrobat Proの**「出力プレビュー」**でも、InDesign同様に分版の確認ができます。



（図01）

表示メニュー

分解出力：各々の色版を選択し、表示・非表示を切り替えることができます。オーバープリントおよび透明効果のブレンドが色分解出力でどのように分版されるかをプレビューすることができます。

インキ限定：指定したインキ限界値を超えている領域がハイライト表示されます。グレーの領域はインキ限定の範囲内を表します。ハイライトが密集した領域は、大幅にインク限界値を超えている場合があります。貼り込まれたビットマップ画像やベクトルオブジェクトに対しても有効です。インキ限界値は、印刷会社へ問い合わせてください。

分版パネルの**「表示」**を**「インキ限定」**に設定することで、最大インキの限界値を設定し、それを超えている部分を赤いハイライトで表示できます。

サブメニュー

インキ管理：インキ管理ダイアログを表示します。インキ管理は、特色を制御する場合に便利です。

リッチブラックをシミュレート：画面上の100%不透明の黒インキを、実際の印刷で使用される不透明度が100%ではない黒インキとして表示します。黒インキが他のインキとどのように相互作用しているか評価することができます。**「リッチブラックをシミュレート」**は、カラーマネジメントの機能の一部なので、カラーマネジメントがオンの場合、強制的にオフになります。

単数プレートを黒で表示：色版プレートを単独で表示するときに、実際の色ではなく黒で表示します。黄版など単版では視認性の悪い色版に有効です。

使用されている特色のみを表示

Illustratorには CC 以降アートワークで使用されている特色だけを表示するオプションが追加され、分版チェックが効率的に行えるようになっています。〔図02〕

分版プレビューパネルの機能強化
色分解出力やオーバープリントをプレビューするための分版プレビューパネルでは、これまでスウォッチで利用できる全ての特色がリスト表示されていました。Illustrator CC では、アートワークで使用されている特色だけを表示するオプションが追加され、分版チェックが効率的に行えるようになっています。



〔図 02〕

最近では、PODでも特色が利用できるようになっており、使用する機会は以前より増えているかもしれませんが、特色はCMYKと版(プレート)が異なる設定となりますので、個別に特色を使用する場合意外(コーポレートやブランドロゴなどで使用するなど目的がある場合は別)、**無闇に特色を指定しない**ようにしましょう。また、使用しない特色やスウォッチは削除してから入稿することを推奨します。〔図03〕



〔図 03〕

⊕分割・統合プレビュー

文書やアートワークに透明部分が含まれていると、出力するには、通常は分割・統合と呼ばれる処理が必要です。 分割・統合によって、透明なアートワークはベクター領域とラスタライズ領域に分割されます。 アートワークが複雑になるにつれて（画像の混合、ベクター、文字、特色、オーバープリントなど）、統合による結果も複雑になります。

プリントする場合や、透明をサポートしない形式に保存または書き出しする場合、分割・統合が必要となることがあります。 **PDF ファイルを作成するときに分割・統合をせずに**透明部分を保持するには、**ファイルを Adobe PDF 1.4 (Acrobat 5.0) 以降で保存**します。

注意：
（Illustrator）分割・統合オプションが表示されていない場合は、パネルメニューの**「オプションを表示」**を選択して表示します。

分割・統合設定を指定し、それを透明の分割・統合プリセットとして保存、適用できます。 透明なオブジェクトは、選択した分割・統合プリセットに従って分割・統合されます。
分割・統合プレビューのオプションを使用して、分割・統合した領域をハイライト表示します。この色分けされた情報をプレビューで確認しながら、分割・統合オプションを調整します。

透明の分割・統合プレビューパネル（またはダイアログボックス）を表示するには

Illustrator の場合は、ウィンドウ／分割・統合プレビューを選択します。
Acrobat の場合は、ツール／印刷工程／分割・統合プレビューを選択します。
InDesign では、ウィンドウ／出力／透明の分割・統合プレビューを選択します。

透明の分割・統合プリセット

高解像度
最終的な商業印刷での出力や、色分解校正のような高品質の校正刷りに使用します。

中解像度
デスクトップ校正やオンデマンドドキュメントを PostScript カラープリンターで印刷する場合に使用します。

低解像度
モノクロのデスクトッププリンターで校正刷りをすばやく印刷したり、Web 出版や SVG に書き出すドキュメントに使用します。

ハイライトメニューで、ハイライト表示するエリアの種類を選択します。使用できるオプションは、アートワークの内容によって異なります。
使用する分割・統合設定を選択します。プリセットを選択するか、可能であれば特定のオプションを設定します。
透明オブジェクトと相互に作用するオーバープリントオブジェクトがアートワークに含まれる場合は、Illustrator でオーバープリントメニューからオプションを選択します。 オーバープリントは保持、シミュレートまたは破棄することができます。Acrobat の場合、**「オーバープリントを保持」**を選択して透明なアートワークのカラーと背景色をブレンドし、オーバープリントの効果を作成します。
「更新」をクリックすると、設定に基づいて更新されたプレビューを表示できます。 アートワークが複雑な場合、プレビュー画像が表示されるまでにしばらく時間がかかることがあります。
InDesign の場合、**「自動ハイライト更新」**も選択できます。





オーバープリントプレビュー

InDesign、Illustratorのオーバープリントプレビューモードでは、色分解出力でブレンド、透明度、オーバープリントがインクとしてどのように見えるか色の重なり具合をプレビューできます。スミ文字の版ずれ防止や、色の重ねに使用されるオーバープリントですが、白のオブジェクトや文字に誤って設定され、予期せぬ印刷事故に繋がることもあるため、安全な出力のためには、プレビューで確認することが重要です。

オーバープリント設定された色がどのように見えるか確認するには、**「表示」→「オーバープリントプレビュー」**を選択します。この際画面上のプレビューはオーバープリントされた色がどのように印刷されるかをほぼ正確に表示します。

白い文字にオーバープリントが設定されていると、**「オーバープリントプレビュー」**表示では、文字が消えることが確認できます。



オーバープリントを使用していない重なり合ったオブジェクトとテキスト

オーバープリントを使用したオブジェクトとテキスト

白のオーバープリントを破棄

Illustrator では白のオーバープリントによる事故を未然に防ぐための設定がつきました。
この設定は、ドキュメント設定とプリントダイアログでオプションの確認ができます。

Illustrator で作成したアートワークに含まれる白のオブジェクトに意図しないオーバープリントが適用されることがあります。これは、オーバープリントプレビューを有効にするか、色分解出力しないと分かりません。このために生産プロセスに遅れが生じたり、再印刷が必要になる場合があります。Illustratorでは白のオブジェクトにオーバープリントが適用されると警告が表示されますが、ユーザーが予期できない状況で白のオーバープリントが発生する場合もあります。Illustratorから、ドキュメント設定ダイアログおよびプリントダイアログに白のオーバープリントを破棄するためのオプションが追加され、白のオーバープリント属性が出力時に自動で破棄されるようになりました。このオプションは、初期設定でオンになっています。旧バージョンのIllustrator書類をIllustratorで開いた場合も有効です。都度確認、修正することなく、安心して印刷および出力機能を使用することができます。



データの書き出しについて

幅広い出力のニーズに合うように、
さまざまなファイル形式での保存および書き出しがサポートされています。

InDesign について

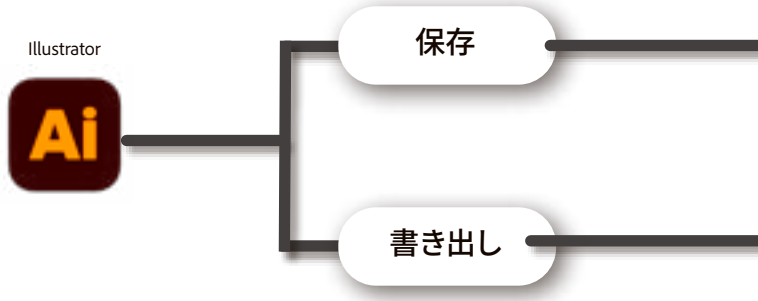
「ファイル」メニューから→**「書き出し」**を選択すると
「書き出し」ダイアログ（図01）が開きます。
データ書き出しの基本的なファイル形式として**PDF**を取りあげます。

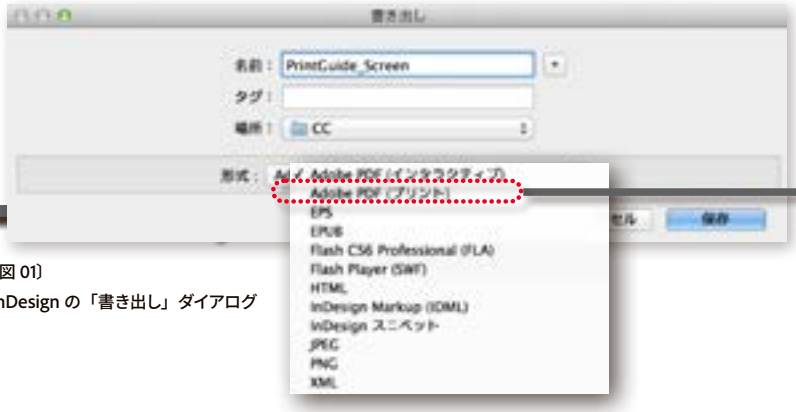


InDesign からの PDF 書き出しは、**「ファイル」→「PDF の書き出しプリセット」**の利用を推奨します。

Illustrator について

「ファイル」メニューから→**「保存」**を選択すると**「保存」**ダイアログ（図02）が開きます。
また、InDesign 同様、**「ファイル」**メニューから→**「書き出し」**を選択すると
「書き出し」ダイアログが開きます。
基本のファイル形式として**AI**、**PDF**の2つを取りあげます。

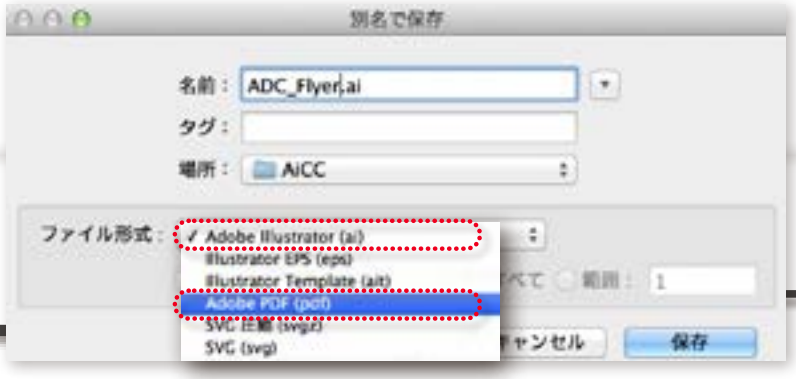


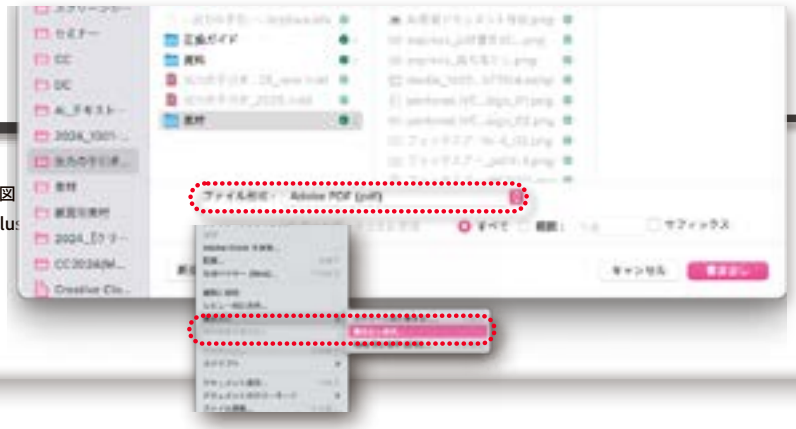


〔図 01〕
InDesign の「書き出し」ダイアログ



PDF ファイル
P52





〔図
Illus



CC 形式
P70



以前の形式
P71



PDF ファイル
P52

入稿用 PDF

⊕PDF書き出しプリセット



PDF プリセットとは、PDF 作成処理に影響を与える設定をまとめたものです。これらの設定は、PDF の使用方法に従って、ファイルサイズと品質とのバランスをとるように設計されています。定義済みのプリセットのほとんどは、InDesign、Illustrator、Photoshop などの Creative Cloud アプリケーション間で共有されます。また、独自の出力要件に合わせてカスタムプリセットを作成および共有することもできます。保存される PDF プリセットファイルには、拡張子 .joboptions が付いています。

PDF 文書を作成するときに選択する PDF プリセットは、ドキュメントの用途によって異なります。Creative Cloud に付属のデフォルトでインストールされる PDF プリセットについて、次に簡単に説明します。

デフォルトでインストールされるPDFプリセットについて

1	最小ファイルサイズ 「Smallest File Size.joboptions」	このプリセットは、ファイルサイズを小さく維持することにより、アップロードおよびダウンロード時間が最小限に抑えられ、表示が迅速になりますが、高解像度の出力用には画像解像度が不十分です。すべてのカラーは sRGB に変換されます。
2	高品質印刷 「High Quality Print.joboptions」	このプリセットは、カラーインクジェットやレーザープリンタなど、デスクトップ出力デバイスのテストプリントを含むさまざまな用途で PDF ドキュメントを作成する場合に最適です。このプリセットを使用した場合、カラーは変換されません。
3	プレス品質 「Press Quality.joboptions」	このプリセットは、PDF ドキュメントを高解像度の色分解やデジタルプリントに出力する、またはプリプレスワークフローで使用する場合に使用します。このプリセットでは、ネイティブな (編集可能) 透明部分が含まれる PDF 1.4 ファイルが作成されます。このプリセットを使用した場合、カラーは CMYK またはスポットカラーに変換されます。
4	雑誌広告送稿用 「MAGAZINE Ad 2006 JPN.joboptions」	雑誌広告デジタル送稿推進協議会によって策定されたデータ制作ルールに基づいて、雑誌広告送稿用の PDF ファイルを作成します。
5	PDF/X-1a:2001 (日本) 「PDFX1a 2001.joboptions」	ハイエンド出力用に設計されたこのプリセットでは、PDF/X-1a 準拠のファイルが作成されます。つまり、ドキュメントをプリントするために必要なすべてのフォントが埋め込まれており、カラーが CMYK またはスポットカラーで、ページ境界とトラップインテントが定義されています。
6	PDF/X-3:2002 (日本) 「PDFX3 2002.joboptions」	ハイエンド出力用に設計されたこのプリセットでは、PDF/X-3 準拠のファイルが作成されます。PDF/X-1a と同様に、PDF/X-3 はグラフィックコンテンツ交換における標準です。主な違いは、PDF/X-3 が出力インテントを使用したカラーマネジメントをサポートしている点です。
7	PDF/X-4:2008 (日本) 「PDFX4 2008 JPN.joboptions」	透明効果 (透明が分割、統合されない) と ICC カラーマネジメントをサポートします。書き出される PDF ファイルは、PDF 1.6 形式になります。画像はダウンサンプルおよび圧縮され、フォントは PDF/X-1a および PDF/X-3 設定と同じ方法で埋め込まれます。信頼できる PDF 印刷出版ワークフローには、最適な PDF ファイル形式として こちらを使用することをお勧めします。

注意：印刷・出力会社に送る Adobe PDF ファイルを作成する場合は、あらかじめ出力解像度などの設定をどのようにするかを確認するか、推奨設定を含む .joboptions ファイルを入手してください。 印刷・出力会社によっては、PDF 設定をカスタマイズし、独自の .joboptions ファイルを提供している場合があります。

⊕推奨するPDF書き出しプリセット設定

多くの印刷会社より要望のあった、安定したPDF書き出しのためのプリセットを、主要なRIPメーカーの一つである株式会社SCREENグラフィックソリューションズ(以下 、SCREEN) に協力いただき用意しました。左記のリンクからダウンロードし、Illustrator、InDesign、Photoshopで読み込みご使用ください。

間違いのない入稿データ作り
[PDF 書き出しプリセット設定]
▶ https://adobe.ly/2syUV9W

SCREEN ホールディングス
[出力の手引き Web]
▶ https://www.screen.co.jp/ga/guide

※ なお、この設定が100% 完全な出力を保証するというものではありません。

プリセットの読み込み方 [Illustrator/Photoshop編]



[編集] メニュー→ [Adobe PDF プリセット] を選択し、ダウンロードしたファイルを指定して読み込む

プリセットの読み込み方 [InDesign編]



[ファイル] メニュー→ [PDF 書き出しプリセット] → [プリセットを管理 ...] を選択し、ダウンロードしたファイルを指定して読み込む

注意

InDesign 2025(20.0) 起動後に
一部の PDF プリセットが消える問題について

2024 年 10/17 現在、InDesign 2025(20.0) において、「日本語などの 2 バイト文字」で名前を付けた、または作成したPDF プリセットが消える問題を確認しております。

< プリセット保存場所 >
~user/<user name>/library/Application Support/Adobe/Adobe PDF/Settings

この問題は、半角英数字の名前で作成したプリセットは消えません。

お手数ではございますが、必要なプリセットファイルを再ダウンロードいただくか改めて半角英数字名で PDF プリセットを作成くださいますようお願いいたします。

この情報についてはこちらにてアップデートいたします
▶ *https://bit.ly/4fbQuE7*

透明が多用されているデータを入稿する場合の推奨設定



PDF/X 最新動向

CS3 以前の在版データや既存のフローで処理したい場合の推奨設定



注意：印刷・出力会社に入稿する Adobe PDF ファイルを作成する場合は、あらかじめ出力解像度などの設定をどのようにするかを、事前に印刷・出力会社にお問い合わせください。 印刷・出力会社によっては、PDF 設定をカスタマイズし、独自の .joboptions ファイルを提供している場合があります。印刷会社ごとの .joboptions ファイルを入手すると確実です。不明な場合は、こちらの推奨の設定をご利用ください。

⊕PDF/Xとは

PDF/Xは、印刷上の問題を引き起こす原因となるカラー、フォントおよびトラップ値の多くを除去するための、ISOで定義されたグラフィックコンテンツ交換用の規格です。出力のためのデータ制作において、合理的なワークフローを実現することができます。

⊕PDF/X-4とは

PDF/X-4は、透明効果が使用されたRGBワークフローや文字の品質向上を主な目的として、透明効果を保持したままのPDF運用を前提としています。PDF/X-1aやPDF/X-3の後継の規格として生まれました。



⊕PDF/X-4、APPEと次世代RIPのAEPE

最新のRIP技術が**「Adobe PDF Print Engine(以下APPE)」**です。従来のCPSI系のRIPがPostScriptを処理するのに対して、APPEはPDFをダイレクトに処理することができます。
PDFをダイレクトに処理する事で、透明効果の分割処理やRGB画像のCMYK変換などのデバイスに依存した処理もRIP内部で行うことができるようになります。
これは、あらかじめ透明の分割処理やCMYK変換が必要なPDF/X-1aとは全く異なり、デバイス依存のない (Device Independent) PDFを運用することになります。
デバイス依存性のないPDFを運用することで、POD (Print On-Demand) 運用などの、柔軟な印刷形態に対応でき、デバイスごとに最適化したPDFを作成する事なく、一つのPDFであらゆるデバイスに最適な処理を行うことができます。
このような処理が可能になる技術がAdobe PDF Print Engineであり、デバイス依存のないPDFを規格化したPDF/X-4 を運用することで、そのメリットを活かすことができます。
また、最新のRIPとして、**「Adobe Embedded Print Engine(以下AEPE)」**があります。こちらはPDFとPostScriptをネイティブに処理することができる次世代のRIPです。AEPEが採用するコア

Adobe PDF Print Engine 4

Tile Parallel Processing（TPP） によって、並列処理フレームワークのMercury RIPアーキテクチャの効果が大判印刷で活用可能。TPP は、ポスター、看板、建築図面などの大判印刷物を小さなセクションに分割し、各セクションを異なるCPU コアで処理されるAPPE のインスタンスに割り当てることで、システムパフォーマンスを向上。複数のタイルを並列処理した後に、再びシームレスにつなぎ合わせることで、レンダリング全体にかかる時間を大幅に短縮。
広いエリアで繰り返されるパターンで構成されるグラフィックスでは、パフォーマンスが10 倍速に。
連続したシェーディング効果がさらに滑らかになり、アドビのカラーサイエンティストが開発した新しいアルゴリズムによって、長いグラデーションでも、特に色相が変化する変曲点の処置が滑らかになる。
特色の取り扱いが拡張され、最大 127 のカラーチャネルを指定し、任意の領域で使用できるようになった。

エンジンは、従来のPostScriptだけでなく、InDesign や、Illustrator、Photoshop などのAdobe Creative Cloud アプリやAdobe Acrobatにも採用されており、ダイレクトにPDFの作成出力を行うことができる、ハイブリッドRIPエンジンです。これらのAdobeコアテクノロジーを用いたレンダリング出力は、高速で信頼性の高い印刷を実現することができます。

ビジネスで Adobe Embedded Print Engine を活用する詳しい方法については、**aepe@adobe.com** までお問い合わせください。

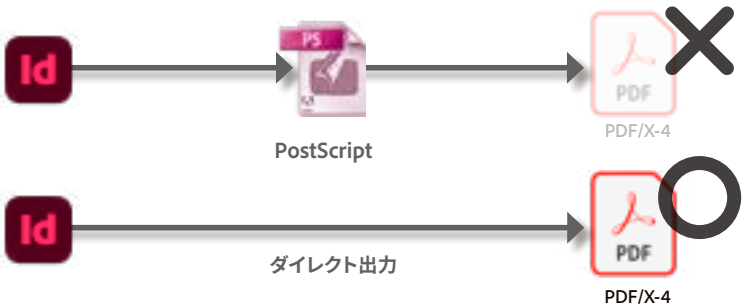
Adobe Embedded Print Engine の特徴



また、最新のmac OS 14 Sonomaでは**PostScript (.ps) ファイルと Encapsulated PostScript (.eps) ファイルの表示に対応した機能が組み込まれなくなりました。**各プリンターメーカーのドライバーの対応につきましては各社にお問い合わせください。
アドビではmacOS 14 ベータ版で発生していたアドビアプリの PDF の印刷の問題に関しては修正済みです。

⊕PDF/X-4運用の推奨

今や、PDF/X-4によるハイエンド印刷用のPDF作成を基準としての運用が標準になっています。信頼できる PDF印刷出版ワークフローには、前述のように最適なPDFファイル形式として PDF/X-4を使用することをお勧めします。全てのケースにおいてPostScriptを介するものではなくPDF のダイレクト出力が推奨運用となります。
ダイレクト出力で安定した高速な運用をCreative Cloud提供のアプリケーションがお手伝いします。



Creative Cloudを利用したワークフローの場合、入稿データは「PDF/X-4(※EPS使用不可)」を推奨します。

書き出し/プリント

⊕Adobe PDFファイルの書き出し

InDesignの場合、**「ファイル」→「PDF書き出しプリセット」**を選択します。Illustratorでは、**「ファイル」→「別名で保存」**ダイアログで**「ファイル形式」**から**「Adobe PDF (pdf)」**を選択します。

PDF書き出しのためのオプションは幾つかの項目に分類されています。オプションを変更すると、プリセット名に**「(変更)」**が追加されます。

ここでは、書き出しダイアログボックスで設定される各項目について解説します。



InDesignの**「Adobe PDFを書き出し」**ダイアログ

注意
PDFの書き出しは、PDF書き出しプリセットを使用します。**「圧縮」「トンボ裁ち落とし」**意外の項目は、明確な意図が無い限りプリセットから変更しないことを推奨します。

(　　)はIllustratorでの名称

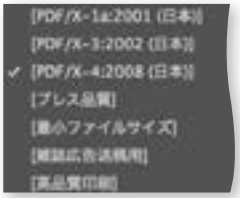
ダイアログボックス上部	解説
▶ **標準** (準拠する規格)	ファイルのPDF/Xフォーマットを指定します。
▶ **互換性** (互換性のある形式)	ファイルのPDFバージョンを指定します。
ダイアログボックス左側の項目リスト	**解説**
▶ **一般**	基本的なファイルオプションを指定します。
▶ **圧縮**	アートワークの圧縮およびダウンサンプリングを行うかどうか、行う場合はその方法と設定を指定します。
▶ **トンボと裁ち落とし**	トンボと裁ち落とし、ページ情報などを指定します。
▶ **色分解** ▶ **出力**	カラーおよびPDF/X出力インテントプロファイルをPDFファイルに保存する方法を指定します。
▶ **詳細** (詳細設定)	フォント、透明の分割・統合をPDFファイルに保存する方法を指定します。
▶ **セキュリティ**	PDFファイルのセキュリティを設定します。
▶ **概要 (内容設定**	現在のPDF設定の概要を表示します。設定内容をテキストファイルとして保存できます。選択したプリセットの設定が適切ではなく、変更が必要な場合は警告アイコンが表示され、説明が表示されます。

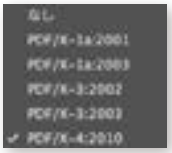
InDesignの場合

共通領域

InDesignのPDF書き出しダイアログボックスについて更に詳しく解説します。
まずは、どのパネルを表示しても共通して表示される共通領域についてです。









PDF書き出しプリセット：「ファイル」→「PDF書き出しプリセット」で選択したプリセット名が表示されます。オプションを変更すると、プリセット名に**「(変更)」**が追加されます。
標準：ファイルのPDF/Xフォーマットを指定します。PDF/X-1a:2001、PDF/X-1a:2003（CMYKワークフロー用）とPDF/X-3:2002、PDF/X-3:2003（カラー管理されたワークフロー用）、PDF/X-4:2010をサポートしています。
互換性：ファイルのPDFバージョンを指定します。

⊕ PDF/X-4:2010について

PDF/X-4:2010は、PDFのレイヤーの指定に関する制限が緩和された最新のPDF/Xフォーマットです。PDFにレイヤーを作成できるようになったほか、カラー画像とグレースケール画像のオプションとしてJPEG2000圧縮が使用できるようになっています。デフォルトの**「PDF/X-4:2008」**Adobe PDFプリセットを選択すると、PDF/X-4:2010が選択されます。
InDesign以降で書き出したPDF/X-4標準のPDFファイルをプリフライトチェックする際にはAcrobat Proをご利用ください。Acrobat Proのプリフライト機能についてはP88を参照のこと。

一般パネル

一般パネルには、プリントダイアログボックスのオプションに似た、基本的なプリントオプションが表示されます。どのPDF属性を書き出すかも指定できます。

「ページ」セクション

「ページ」セクションは、プリントダイアログボックスの**「ページ」**セクションとほとんど同じで、**「順番」**および**「親ページをプリント」**オプションがない点のみが異なります。

「オプション」セクション

ページサムネールを埋め込み：書き出しページごとに1枚のサムネールプレビューを作成するか、**「見開き印刷」**オプションを選択している場合は、見開きページごとに1つのサムネールを作成します。サムネールはInDesignの開くダイアログボックスまたは配置ダイアログボックスに表示されます。サムネールを追加するとファイルサイズが増大します。
Web表示用に最適化：PDFファイルサイズを減少し、ページ単位でダウンロード（バイトサービング）することでファイルを再構築し、Webブラウザ上で表示速度が高速化するようにPDFファイルを最適化します。このオプションは、PDFを書き出しダイアログボックスの**「圧縮」**でどのような設定を選択したかにかかわらず、テキストとラインアートを圧縮します。

注意
商用印刷においてページものの場合**「見開き印刷」**にチェックをいれPDFを書き出すと、後工程で余計な手間が発生してしまう場合もあります。逆に、巻三つ折りや両観音のデータなど**「見開き印刷」**にチェックを入れたほうが良い場合もありますので、各印刷会社に事前にご相談ください。

書き出した後PDFを表示：新しく作成したPDFファイルを、デフォルトのPDF表示アプリケーションで開きます。

Acrobatレイヤーを作成：InDesignレイヤーはPDF内でAcrobatレイヤーとして保存されます。また、いずれかのトンボの種類を選択した場合は、別個のトンボと裁ち落としレイヤーに書き出されます。書き出したレイヤーは自由に操作でき、Acrobat 6.0以降のユーザであれば、1つのPDFから複数のファイルバージョンを作成することができます。例えば、ドキュメントが複数の言語で出版される予定であれば、異なったレイヤーにそれぞれの言語のテキストを配置しておくことができます。印刷・出力会社ではこれらのレイヤーを表示または非表示にして、異なったバージョンのドキュメントを生成できます。

ブックをPDFに書き出すときに**「Acrobatレイヤーを作成」**オプションを選択した場合、デフォルトでは同名のレイヤーが結合されます。

タグ付きPDFを作成：書き出し中に、InDesignでサポートしているAcrobatタグのサブセットに基づいて、ストーリーの要素に自動的にタグが付けられます。このサブセットには、段落、基本的なテキストの書式、箇条書き、表が含まれます（PDFに書き出す前に、ドキュメントでこれらのタグを挿入したり修正したりすることができます）。

レイヤー書き出し：表示中のレイヤーおよび印刷しないレイヤーをPDFに含めるかどうかを指定します。レイヤーオプション設定を使用して、各レイヤーを非表示にするか、印刷しないレイヤーとして設定するかを指定します。PDFに書き出すときに、書き出しの対象となるレイヤーが、**「すべてのレイヤー」**（非表示および印刷しないレイヤーを含む）か、**「表示中のレイヤー」**（印刷しないレイヤーを含む）か、**「表示中でプリント可能なレイヤー」**かを指定します。

「読み込み」セクション

ブックマーク：InDesignの目次項目に対応するブックマークを作成します。目次（TOC）レベルは保持されます。また、InDesignドキュメント内のハイパーリンクに対応するPDFブックマークも作成され、AcrobatやAcrobat Reader DCでナビゲートすることができます。

ハイパーリンク：InDesignハイパーリンク、目次項目、および索引項目に対応するPDFハイパーリンクを作成します。ハイパーリンクは、AcrobatやAcrobat Reader DCで完全にサポートされています。

ガイドとベースライングリッド：ドキュメントで現在表示されているマージンガイド、定規ガイド、段組ガイド、およびベースライングリッドを書き出します。グリッドとガイドはドキュメントで使用されている同じ色で書き出されます。

印刷しないオブジェクト：プリント属性パネルで**「印刷しない」**を選択したオブジェクトを書き出します。

インタラクティブ：すべてのムービー、サウンドおよびボタンを書き出します。

マルチメディア：ムービーやサウンドをPDFにリンクするか埋め込むかを指定します。これは、**「インタラクティブ」**が選択されている場合にのみ使用可能で、ボタンには影響しません。**「すべてをリンク」**を選択すると、PDFと同じフォルダに、リンクされたムービーおよびサウンドが格納されます。**「オブジェクトの設定を使用」**を選択すると、リンクされるか埋め込まれるかは、個々のオブジェクトに適用されている設定によって決定されます。**「すべてを埋め込み」**を選択すると、オブジェクトの設定に関係なく、メディアが埋め込まれます。

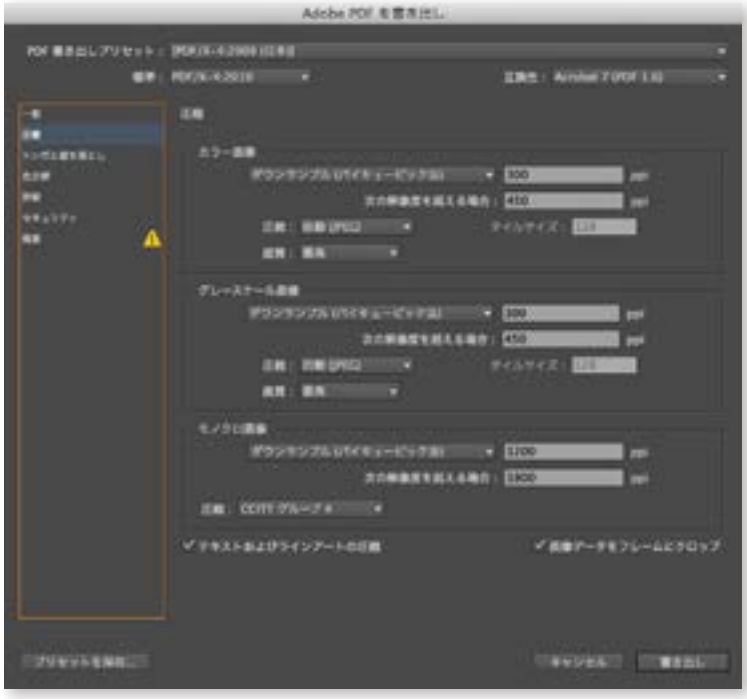
圧縮パネル

圧縮パネルには、PDFファイルのサイズを減らすためのオプションが用意されています。印刷・出力会社とのワークフローで最良な結果を得るためには、ファイルの出力品質が低下しないように、圧縮の使用を制限する必要があります。

印刷・出力会社とのワークフローでは出力品質が優先されます。圧縮を適用する場合、サブサンプリングよりもダウンサンプリングが望ましく、高品質の出力が得られます。

カラー画像：カラー画像を圧縮するには、**「ダウンサンプリング」**を選択して、ppi値を指定します。ただし、画像がダウンサンプリングされるのは、**「次の解像度を超える場合：」**で指定した数値を超えた画像のみ(デフォルトでは指定した値の1.5倍の数値が登録されます)。**「圧縮」**は**「自動」**に、**「品質」**は**「最高」**に設定することをお勧めします。JPEG2000圧縮は、すべてのRIPおよびプリプレスアプリケーションでサポートされているわけではありません。

グレースケール画像：グレースケール画像を圧縮するには、**「ダウンサンプリング」**を選択して、ppi値を指定します。ただし、画像がダウンサンプリングされるのは、**「次の解像度を超える場合：」**で指定した数値を超えた画像のみ(デフォルトでは指定した値の1.5倍の数値が登録されます)。**「圧縮」**は**「自動」**に、**「品質」**は**「最高」**に設定することをお勧めします。JPEG2000圧縮は、すべてのRIPおよびプリプレスアプリケーションでサポートされているわけではありません。



モノクロ画像：1ビット画像を圧縮するには、**「ダウンサンプリング」**を選択して、最終出力デバイスの解像度を入力します。次に、最も損失が少ない圧縮を行うには、**「CCITTグループ4」**を選択します。InDesignでは、**「CCITTグループ3」**および**「CCITTグループ4」**圧縮オプションがサポートされています。**「CCITTグループ3」**は、ほとんどのFAX機で使用されているもので、モノクロのビットマップを一度に1行ずつ圧縮します。**「RLE」**オプションは、損失のない圧縮オプションです。これは、白または黒の大きなベタ領域がある画像の場合に、最良の結果が得られます。

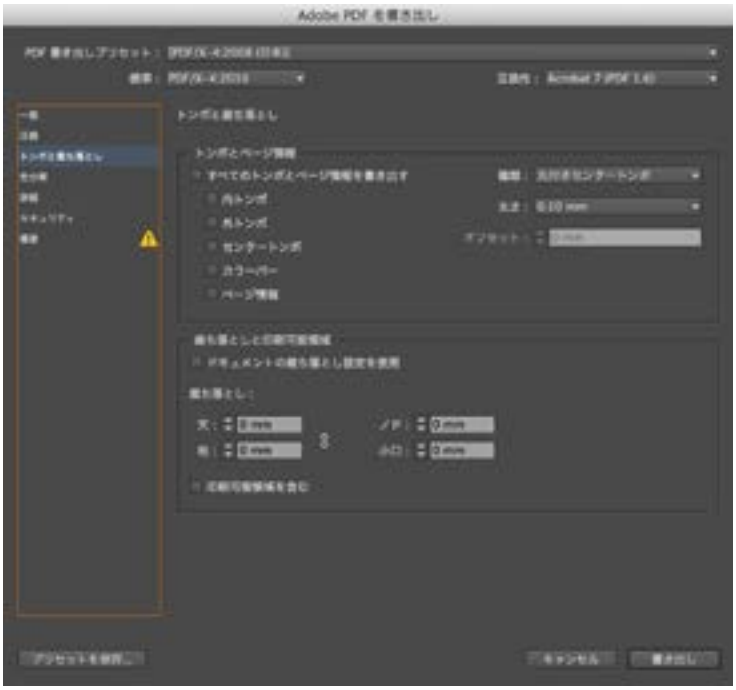
テキストおよびラインアートの圧縮：これはデフォルトで選択されています。選択したままにしておくことをお勧めします。損失のない圧縮が使用されるので、PDFファイルでのこれらの

要素の品質には影響はありません。

画像データをフレームにクロップ：このオプションは、フレームの表示可能な部分にある画像データのみを書き出すことで、ファイルサイズを小さくします。ポストプロセッサが（画像を再配置したり裁ち落としたりするなどの目的で）追加情報を使用する可能性がある場合は、このオプションを選択しないでください。

トンボと裁ち落としパネル

このパネルでは、内トンボや裁ち落とし領域などの、ページ枠を越えて必要な印刷領域を拡大するアイテムを指定します。PDF書き出しのトンボと裁ち落としパネルは、プリントダイアログボックスのトンボと裁ち落としパネルと同じです。



トンボ、裁ち落とし領域、および印刷可能領域を含めてPDFに書き出す場合は、これらを格納するのに十分な大きさのページサイズを指定してください。

色分解パネル

「色分解」パネルでは、次のオプションを設定できます。**「色分解」**の各オプションの相互作用は、カラーマネジメントがオンかオフか、ドキュメントにカラープロファイルのタグが付いているかどうか、どのPDF標準が選択されているかによって異なります。

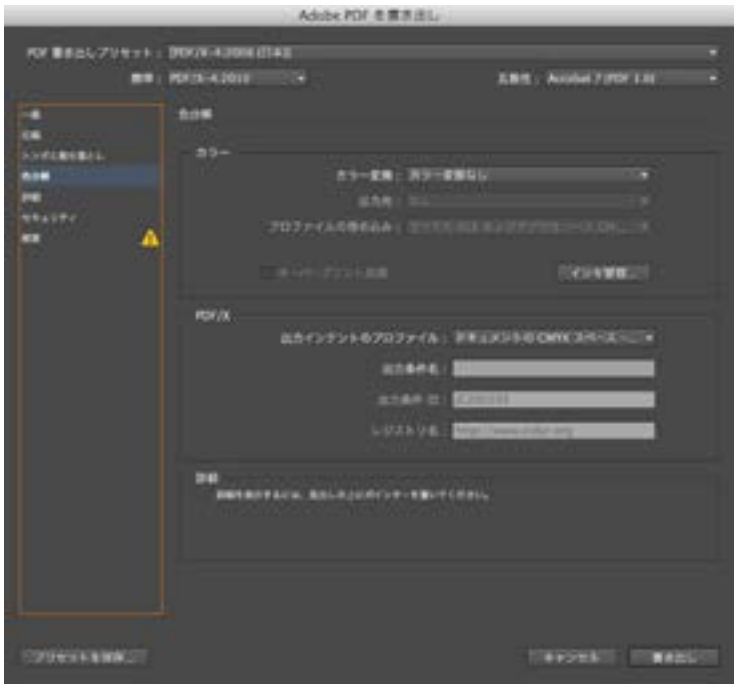
「カラー」セクション

カラー変換：PDFファイルのカラー情報を表示する方法を指定します。すべての特色情報は、カラー変換を行っても保持されます。プロセスカラーだけが、指定されたカラースペースに変換されます。

カラー変換なし：カラーデータが現状のまま維持されます。PDF/Xのデフォルト設定が使用されます。

出力先の設定に変換：すべてのカラーが、出力先で選択されているプロファイルに変換されます。プロファイルを含めるかどうかは、「プロファイル埋め込み」で指定します。

出力先の設定に変換（カラー値を保持）：出力先プロファイルとは異なるプロファイルが埋め込まれている場合にだけ（またはRGBカラーであるときに出力先プロファイルがCMYKである場合、またはこの反対の場合）、出力先のプロファイルスペースにカラーが変換されます。タグなしカラーオブジェクト（プロファイルが埋め込まれていないもの）とネイティブオブジェクト（ラインアートやタイプなど）は変換されません。カラーマネジメントがオフの場合は、このオプションは使用できません。プロファイルを含めるかどうかは、「プロファイル埋め込み」で指定します。



出力先：使用しているモニタやSWOP標準などの最終的なRGBまたはCMYKの出力デバイス全般が記述されています。InDesignでは、このプロファイルを使用して、「ドキュメント」→「カラー情報」（カラー設定ダイアログボックスの「作業用スペース」セクションでプリセットを管理されたソースプロファイル）を、対象の出力デバイスのカラースペースに変換します。

プロファイルの埋め込み：カラープロファイルをファイルに含めるかどうかを指定します。「カラー変換」の設定、どのPDF/Xが選択されているか、カラーマネジメントがオンかオフかによって、このオプションで選択できる設定は異なります。

プロファイルを含めない：カラー管理されたドキュメントを作成するときに、埋め込みカラープロファイルを使用しません。

すべてのプロファイルを含める：カラー管理されたドキュメントを作成します。Adobe PDFファイルを使用するアプリケーションまたは出力デバイスで、カラーを別のカラースペースに変換する必要がある場合、プロファイルに埋め込まれているカラースペースを使用します。このオプションを選択する前に、カラーマネジメントをオンにし、プロファイル情報を設定しておきます。

タグ付きソースプロファイルを含める：デバイスに依存する色は変更せず、デバイスに依存しない色は最も近い色を保持します。このオプションは、デバイスをすべて補正して、ファイルに含まれる色を指定するためにその情報を使用して、それらのデバイスにしか出力しない印刷・出力会社などに適しています。

すべてのRGBおよびタグ付きソースCMYKプロファイルを含める：埋め込みプロファイル

を使用して配置されたオブジェクトなど、タグ付きRGBオブジェクトとタグ付き CMYK オブジェクトのプロファイルを含めます。タグなし RGB オブジェクトのドキュメントのRGBプロファイルも含まれます。

出力先のプロファイルを含める：出力先のプロファイルをすべてのオブジェクトに割り当てます。「出力先の設定に変換（カラー値を保持）」を選択している場合、同じカラースペースにあるタグなしオブジェクトに出力先プロファイルが割り当てられ、カラー番号は変更されません。

オーバープリント処理：コンポジット出力のオーバープリントの外観を維持することで、色分解出力の外観をシミュレートします。「オーバープリント処理」を選択していない場合は、Acrobatで「オーバープリントプレビュー」を選択して、重なるカラー効果を確認する必要があります。「オーバープリント処理」を選択している場合は、Acrobat で「オーバープリントプレビュー」を選択しなくても、特色が各プロセスカラーに変更され、重なるカラーが正常に出力されます。「オーバープリント処理」を選択している場合で、ダイアログボックスの「一般」パネルにある「互換性」で「Acrobat 4（PDF 1.3）」を選択している場合、ドキュメントのカラーをモニタで直接、ソフト校正し、特定の出力デバイスで再現することができます。

インキ管理：特色をプロセスカラーに変換するかどうかを指定し、他のインキ設定を指定します。「インキ管理」を使用しているドキュメントを変更すると（例えば、すべての特色をプロセスカラーに変換すると）、書き出されたファイルと保存されたファイルに変更内容が反映されますが、設定はPDFプリセットには保存されません。

注意
オーバープリント処理は、クライアントレビューや校正に使用する目的で用意されている機能です。最終のハイエンドプリントや分版の生成に使用する PDF では、オーバープリント処理は有効にしないでください。オーバープリント処理がオンになっている場合、特色は保持されません。

「PDF/X」セクション

出力インテントのプロファイル名：ドキュメントのプリント条件の特性を指定します。出力インテントプロファイルは、PDF/Xに準拠したファイルを作成するときに必要です。このメニューは、PDFを書き出しダイアログボックスの「一般」パネルにある「標準」で、PDF/X（またはプリセット）を選択している場合にだけ使用できます。カラーマネジメントがオンかオフかによって、このオプションで選択できる設定は異なります。例えば、カラーマネジメントがオフである場合、出力先のカラースペースに一致する出力プロファイルだけが表示されます。カラーマネジメントがオンである場合は、出力インテントプロファイルは、（CMYK出力デバイスの）「出力先」で選択されているプロファイルと同じプロファイルになります。

出力条件名：対象の印刷条件を記述します。このエントリは、PDF文書の受信者に便利です。

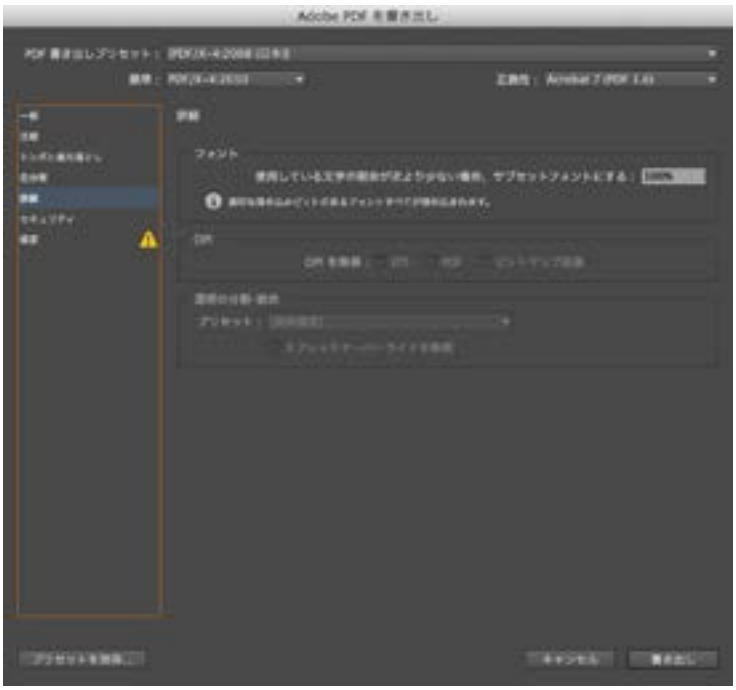
出力条件ID：インテントプリント条件の詳細情報へのポインタを示します。ICCレジストリに含まれるプリント条件の識別子が自動入力されます。PDF/Xプリセットまたは標準を使用している場合、Acrobat 7.0 Professional以降のプリフライト機能またはEnfocus PitStop アプリケーション（Acrobatプラグイン）にはファイルが準拠していないので、このオプションは使用できません。

レジストリ名：レジストリの詳細情報が掲載されているWebアドレスを示します。ICCレジストリ名のURLが自動入力されます。PDF/Xプリセットまたは標準を使用している場合、Acrobat 7.0 Professional以降のプリフライト機能またはEnfocus PitStopアプリケーションにはファイルが準拠していないので、このオプションは使用できません。

詳細パネル

詳細パネルには、フォントのサブセットの埋め込み、OPI 置換用のグラフィックの無視、透明の分割・統合プリセットの選択などのオプションが表示されます。

注意
「Acrobat 5（PDF 1.4）」以降では、アートワーク内の透明部分が自動的に保持されます。そのため、これらの互換性レベルが指定されている場合は**「プリセット」**および**「カスタム」**オプションは使用できません。



「フォント」セクション

サブセットの全フォントに対する割合：ドキュメント内で使用されているフォントの文字数に基づいて、完全なフォントを埋め込むしきい値を設定します。ドキュメント内で使用されている文字の割合がどのような条件のフォントに対しても上回っている場合、そのフォントは完全に埋め込まれます。そうでない場合、フォントはサブセットになります。フォントが完全に埋め込まれるとファイルサイズは大きくなります。完全にすべてのフォントを埋め込む場合は 0（ゼロ）を入力します。

「OPI」セクション

プリンターやファイルに画像データを送る際、選択した形式と異なる画像を無視し、後で OPI サーバで画像を制御するための OPI リンク（OPI コメント）だけが保持されます。

「透明の分割・統合」セクション

プリセット：ダイアログボックスの「一般」パネルにある「互換性」で「Acrobat 4（PDF 1.3）」を設定すると、透明の分割・統合のプリセット（またはオプション）を指定することができます。これらのオプションは、アートワーク内の透明効果と一緒にスプレッドを書き出す場合にだけ使用します。

スプレッドオーバーライドを無視：ドキュメントまたはブックにあるすべてのスプレッドに透明の分割／統合設定を適用し、個々のスプレッドにある透明の分割／統合プリセットを上書きします。

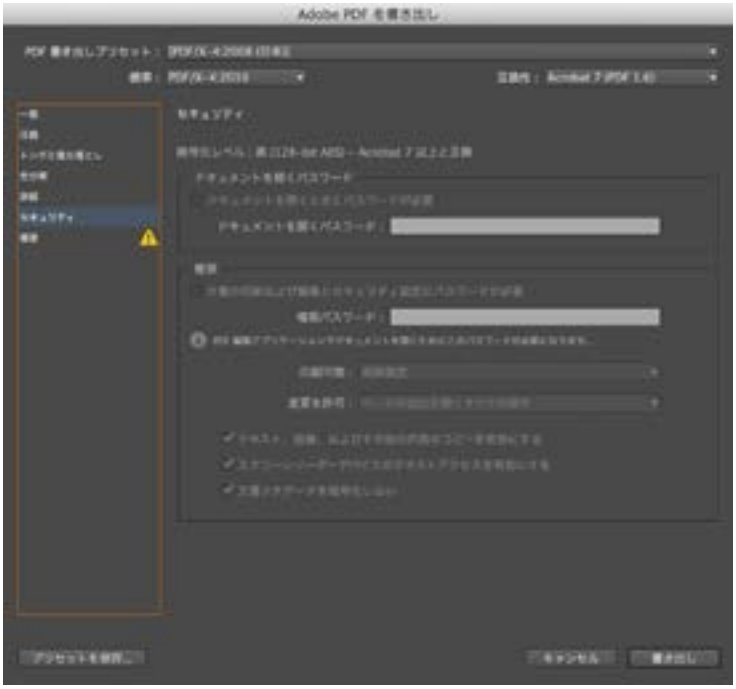
セキュリティパネル

PDFを書き出しダイアログボックスの**「セキュリティ」**パネルでは、次のオプションを設定できます。設定できるオプションは**「互換性」**の設定により異なります。**「セキュリティ」**のオプションは、PDF/X標準またはプリセットでは設定できません。**「Acrobat 4(PDF 1.3)」**オプションでは最低レベル（40-ビットRC4）が使用され、その他のオプションでは最高レベル（128-ビットRC4またはAES）が使用されます。**「Acrobat 6(PDF 1.5)」**以降では、メタデータを検索できます。下位バージョンのAcrobatでは、互換性で上位バージョンが設定されているPDFドキュメントは開けません。例えば、ドキュメントのセキュリティ設定で、互換性に**「Acrobat 7(PDF 1.6)」**を選択した場合、このドキュメントをAcrobat 7.0以前のバージョンで開くことはできません。

PDFセキュリティは、プリプレスワークフローの遅れの原因になることがあります（ファイルを処理する後工程のスタッフがパスワードを知らなかった場合）。したがって、PDF/X仕様では、セキュリティ設定は使用できないようになっています。

※ PDF1.4/1.5 は RC4、PDF1.5/1.6/1.7 は AES。

注意
パスワードを忘れた場合は、文書からパスワードを取得する方法はありません。パスワードを忘れた時のために、パスワードを別の安全な場所に保管したり、パスワードで保護する前にバックアップコピーを取っておくことをお勧めします。



「パスワード」セクション

ドキュメントを開くときにパスワードが必要：PDFファイルを開く際にパスワードの入力が必要になります。

ドキュメントを開くパスワード：PDFファイルを開くときに入力する必要があるパスワードを指定します。

「権限」セクション

文書の印刷および編集とセキュリティ設定にパスワードが必要：PDFファイルのセキュリティ設定へのアクセスを制限します。ファイルをAcrobatで開く場合、ユーザはファイルを閲覧できますが、ファイルのセキュリティと権限の設定を変更するには、特定の権限パスワードを入力する必要があります。ファイルをIllustrator、PhotoshopまたはInDesignで開く場合は、ファイルを読み取り専用モードで開くことができないので、ユーザは権限パスワードを入力する必要があります。

権限パスワード：PDFファイルを保護するパスワードを設定します。このオプションは、「ド

キュメントを開くときにパスワードが必要」を選択した場合にだけ設定できます。

印刷可能：PDFドキュメント上で、ユーザに許可する印刷レベルを指定します。

なし：ドキュメントを印刷できないようにします。

低解像度（150dpi）：150dpi以下の解像度で印刷を許可します。各ページはビットマップ画像としてプリントされるので、プリント速度は遅いことがあります。このオプションは、「互換性」で「Acrobat 5（PDF 1.4）」以降を選択している場合にだけ使用できます。

高解像度：ユーザが任意の解像度で印刷できるようにします。高度な高品質プリント機能をサポートするPostScriptプリンターおよびその他のプリンターに、高品質のベクトル出力を送ることができます。

変更を許可：PDFドキュメント上で許可する編集操作を定義します。

なし：署名フィールドやフォームフィールドへの入力など、ドキュメントをいっさい変更できないようにします。

ページの挿入、削除と回転：ページの挿入、削除、回転、ブックマークとサムネールの作成を許可します。このオプションは、暗号レベルが最高（128-bit RC4またはAES）に設定されている場合にだけ使用できます。

フォームフィールドへの記入と署名：フォームへの入力とデジタル署名の追加ができます。このオプションでは、コメントの追加とフォームフィールドの作成はできません。このオプションは、高レベルの暗号化（128-bit RC4またはAES）が設定されている場合にのみ使用できます。

注釈、フォームフィールドへの記入と署名：ユーザは注釈の追加、デジタル署名の追加、フォームへの入力ができます。このオプションでは、ページオブジェクトの移動とフォームフィールドの作成はできません。

ページレイアウト、フォームフィールドの入力と署名：ページの挿入、回転、削除、ブックマークとサムネールの作成、フォームの入力、電子署名の追加を許可します。このオプションでは、フォームフィールドの作成はできません。このオプションは、低レベルの暗号化（40-bit RC4）が設定されている場合にのみ使用できます。

ページの抽出を除くすべての操作：ユーザはドキュメントの編集、フォームフィールドの作成と入力、注釈の追加、デジタル署名の追加ができます。

テキスト、画像、および他の内容のコピーを有効にする：PDFドキュメントの内容のコピーと抽出を許可します。

内容のコピー、および視覚障害者用アクセスを有効にする：視覚に障害を持つユーザが、スクリーンリーダーを使用してドキュメントを判読したりコピーできるようにします。このオプションは、低レベルの暗号化（40-bit RC4）が設定されている場合にのみ使用できます。

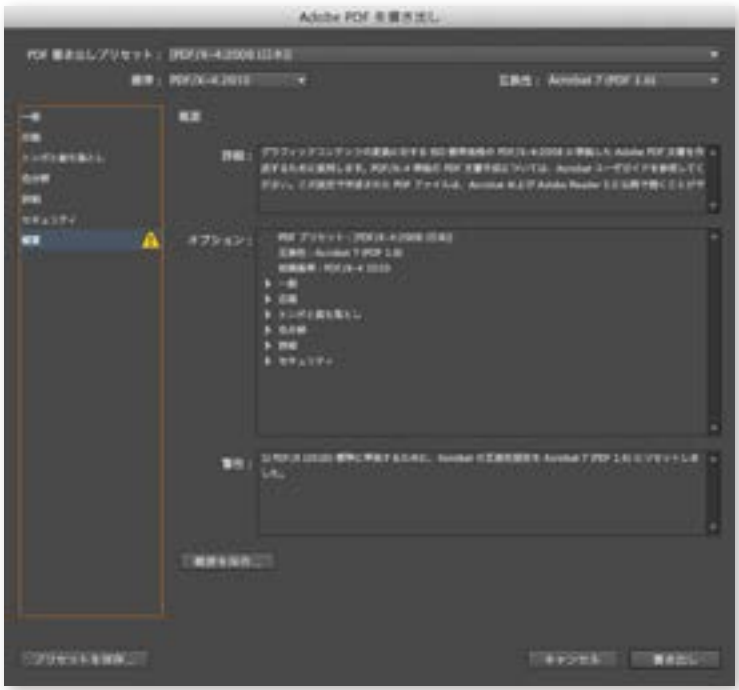
スクリーンリーダーデバイスのテキストアクセスを有効にする：視覚に障害を持つユーザがスクリーンリーダーを使用して文書を判読できるようにしますが、文書の内容をコピーまたは抽出することはできません。このオプションは、高レベルの暗号化（128-bit RC4またはAES）が設定されている場合にのみ使用できます。

文書メタデータを暗号化しない：PDFの内容のコピーと抽出を許可します。このオプションは、「互換性」で「Acrobat 6（PDF 1.5）」以降が選択されている場合にのみ使用できます。このオプションを選択すると、ストレージ／検索システムおよび検索エンジンがドキュメントに格納されているメタデータにアクセスできるようになります。

概要パネル

概要パネルには、現在の書き出し設定をまとめたレポートが表示されます。この概要は、保存することができます。保存した概要は、トラブルシューティングを行うときや、同僚や顧客に作業設定を伝えるときに役立ちます。

概要を保存：概要をテキストファイルとして保存します。保存した概要は、他の人に送ったり、印刷したりアーカイブしたりすることができます。





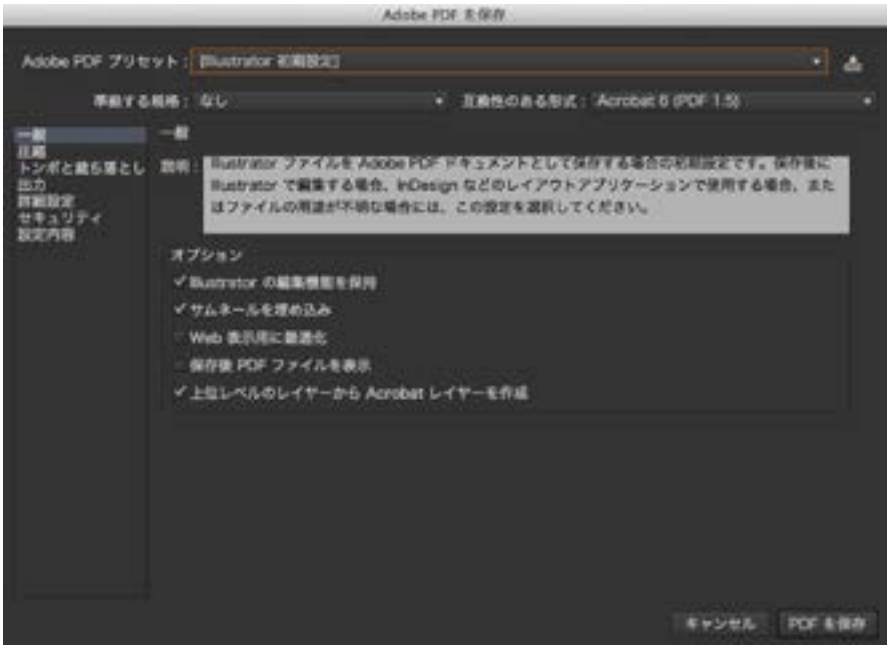
Illustratorの場合

共通領域



InDesign**「共通領域」**(P35を参照) と同様

一般パネル



一般パネルには、PDFとして保存する際に必要な、基本的な情報が表示されます。**「オプション」**セクションにより、主要となる保存方法や動作結果の設定ができます。またどのPDF属性で書き出すかも指定できます。

「オプション」セクション

Illustratorの編集機能を保持：すべてのIllustratorデータをPDFファイルに保存します。IllustratorでPDFを再度開いて編集する場合に選択します。

サムネールを埋め込み：アートワークのサムネール画像を作成します。サムネールはIllustratorの開くダイアログボックスまたは配置ダイアログボックスに表示されます。

Web表示用に最適化：PDFファイルをWebブラウザで高速表示できるように最適化します。

保存後PDFファイルを表示：新しく作成したPDFファイルを初期設定のPDF表示アプリケーションで開きます。

上位レベルのレイヤーからAcrobatレイヤーを作成：Illustrator上位のレイヤーをAcrobatレイヤーとしてPDFファイルに保存します。 これによりAcrobat 6.0以降のユーザは1つの

各パネルのセクションでカスタマイズしたオプションを、初期設定に戻すには Option キー（Mac OS）または Alt キー（Windows）を押しながら**「リセット」**をクリックします。

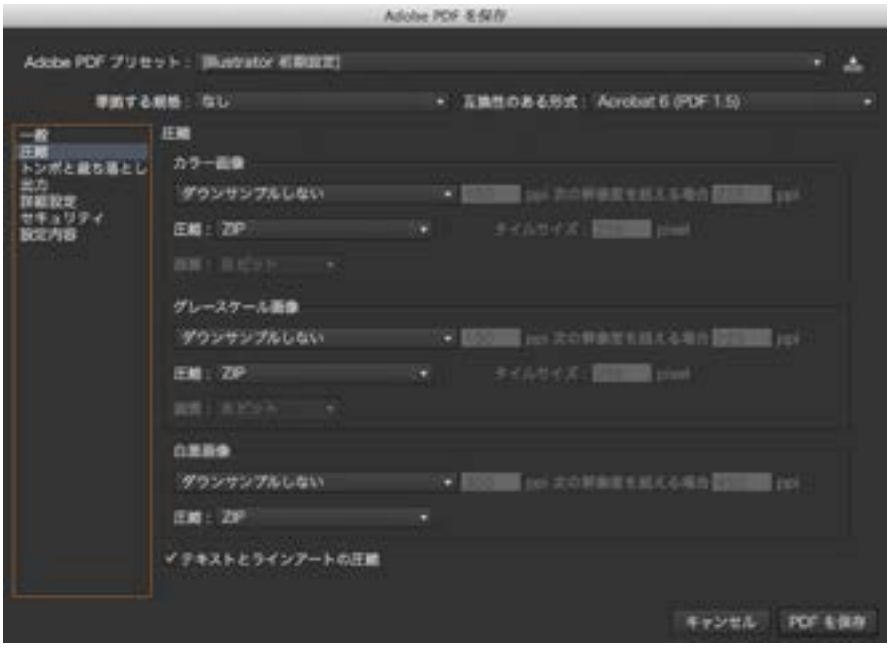
重要：
「Illustrator の編集機能を保持」オプションを指定すると、Acrobat で大幅な圧縮とダウンサンプルを行う場合に影響が生じます。校正やレビュー作業などファイルサイズを考慮する必要がある場合は、このオプションの選択を解除してください。
他のアプリケーションでファイルをリンク配置する可能性がある場合は、こちらのチェックを**必ず入れて保存**してください。

また、PDF/X 形式のファイルを Illustrator で直接開いて (または Acrobat で) 編集するのは、意図しない出力トラブルの元となる場合がありますのでご注意ください。

ファイルから複数のバージョンのドキュメントを生成できます。このオプションは、「互換性のある形式」が「Acrobat 6（PDF 1.5）」「Acrobat 7（PDF 1.6）」および「Acrobat 8（PDF 1.7）」に設定されている場合にだけ使用できます。

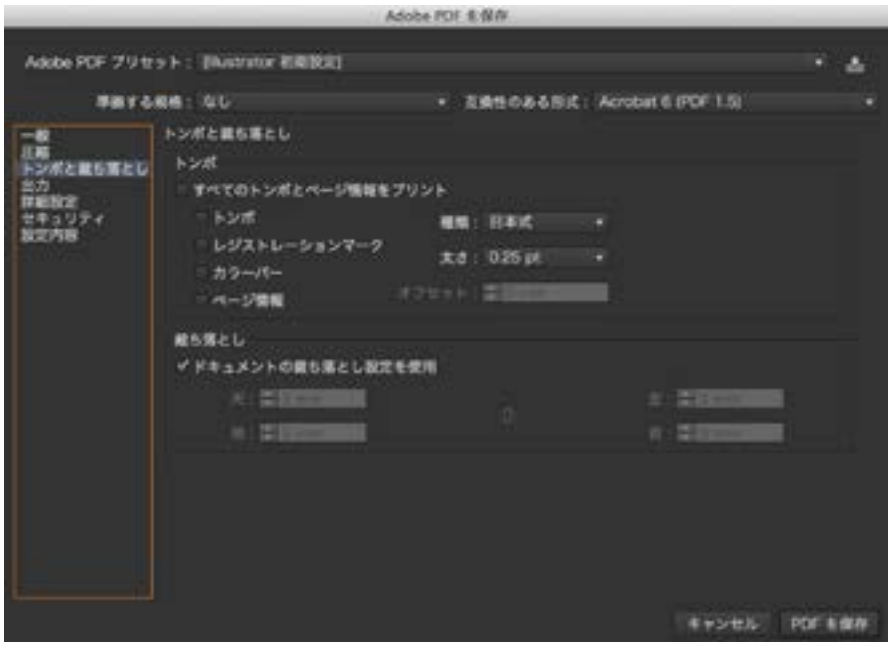
タイリングページから複数ページのPDFを作成：Illustratorドキュメントの各タイルを別々ページとしてPDFファイルに保存します（Illustrator CS3以前のバージョンでのみ利用可能）

圧縮パネル



InDesign**「圧縮パネル」**（P36 を参照）と同様

トンボと裁ち落としパネル



PDFオプションダイアログボックスの**「トンボと裁ち落とし」**パネルでは、裁ち落とし範囲の指定と、ファイルへの各種トンボの追加を行います。

裁ち落としとは、アートワークのプリント用バウンディングボックスの外側や、トンボやトリムマークの外側にプリントするアートワークの部分のことを指します。断裁後のページの端まで完全にインキを付けたい場合や、書類のキーラインに画像を収めたい場合は、アートワークに裁ち落としを設定しておくことで、プリント処理で生じる余白の誤差を調整することができます。ドキュメントのサイズを**「アートボード＝出来上がりのサイズ」**にしておくことで、このトンボ裁ち落としの設定が活用できます。(P3参照)

「トンボ」セクション

すべてのトンボとページ情報をプリント：すべてのトンボ（トリムマーク、レジストレーションマーク、カラーバーおよびページ情報）をPDFファイルに指定します。

種類：プリントするページに対して、「西洋式」または「日本式」のトンボの種類を選択します。

トンボ：トリミング領域の四隅にマークを付けPDFの仕上がり領域の境界を示します。

太さ：トンボの線の太さを指定します。

レジストレーションマーク：トンボの外側に色版の位置あわせ用のマークをつけます。

オフセット：アートボードからのすべてのトンボの距離を指定します。トンボはオフセットで指定された領域の端に配置されます。

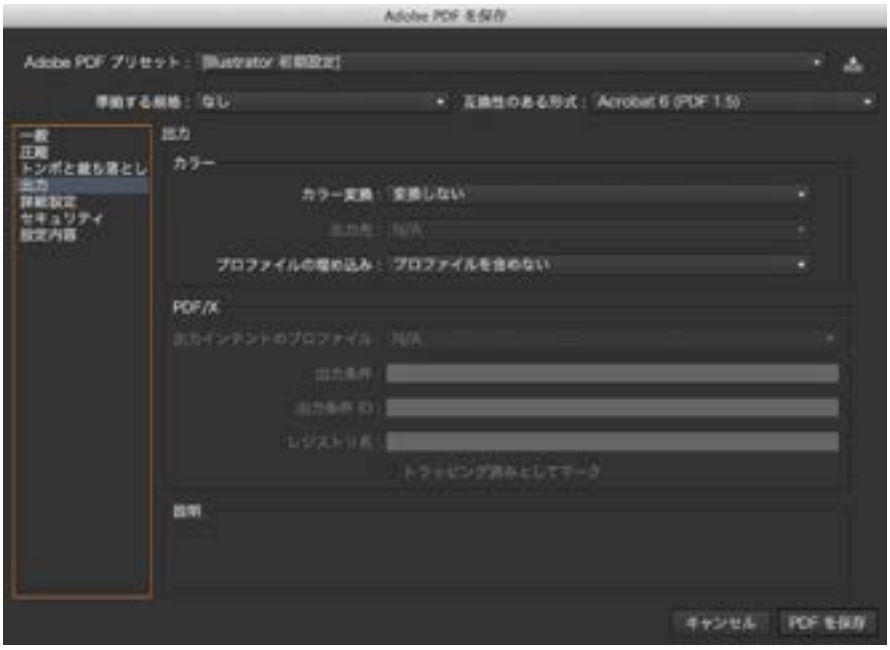
カラーバー：小さい四角形でカラーを追加し、それぞれの特色およびプロセスカラーを示します。プロセスカラーに変換される特色は、プロセスカラーで表されます。サービスビューロではこれらのマークを使用してプリンターのインキ濃度を調整します。

ページ情報：ページのトンボの外側にページ情報を配置します。ページ情報にはファイル名、ページ番号、現在の日時および色版の名前が含まれます。

「裁ち落とし」セクション

天地左右：アートワークの裁ち落としを調整します。リンクボタンが選択されている場合、これらの4つの値は固定の比率で設定されます。つまり、1つを変更すると残りの3つも更新されます。

出力パネル



「出力」パネルでは、次のオプションを設定できます。**「出力」**の各オプションの相互作用は、カラーマネジメントがオンかオフか、ドキュメントにカラープロファイルのタグが付いているかどうか、どの PDF/Xが選択されているかによって異なります。

「カラー」セクション

カラー変換：PDFファイルのカラー情報を表示する方法を設定します。カラーの設定されたオブジェクトをRGBまたはCMYKに変換する場合、ポップアップメニューから出力先のプロファイルを選択してください。すべての特色情報はカラー変換を行っても保持されます。プロセスカラーだけが指定されたカラースペースに変換されます。

変換しない：カラーデータをそのまま保持します。

出力先の設定に変換：出力先用に選択したプロファイルにすべてのカラーを変換します。プロファイルを出力ファイルに含めるかどうかは、「プロファイルの埋め込み」の設定によって決まります。

出力先の設定に変換（カラー値を保持）：タグ付けされていないコンテンツのカラー値を、出力先プロファイルと同じカラースペースに保持します（出力先プロファイルに変換するのではなく、出力先プロファイルを割り当てます）。その他のコンテンツはすべて、出力先のカラースペースに変換されます。このオプションは、カラーマネジメントがオフになっている場合は使用できません。プロファイルを出力ファイルに含めるかどうかは、「プロファイルの埋め込み」の設定によって決まります。

出力先：使用しているモニタやSWOP標準などの最終的なRGBまたはCMYKの出力デバイスが記述されているプロファイルを指定します。このプロファイルを使用して、Illustratorはドキュメントのカラー情報を対象の出力デバイスのカラースペースに変換します。

プロファイルの埋め込み：カラープロファイルをファイルに含めるかどうかを指定します。

「PDF/X」セクション

出力インテントのプロファイル：ドキュメントのプリント条件の特性を指定します。出力イ

注意
「出力先の設定に変換」を選択していて、出力先がドキュメントプロファイルに一致しない場合は、オプションの横に警告アイコンが表示されます。

ンテントのプロファイルは、PDF/Xに準拠したファイルを作成するために必要です。このメニューは、Adobe PDFを保存ダイアログボックスでPDF/X（またはプリセット）が選択されている場合のみ利用可能です。このオプションは、カラーマネジメントがオンかオフかに依存します。例えば、カラーマネジメントがオフに設定されている場合、メニューには、利用可能なプリンタプロファイルが表示されます。カラーマネジメントがオンに設定されている場合、メニューにはあらかじめ用意されているほかのプリンタプロファイルに加えて、CMYK出力デバイスである場合には出力先と同じプロファイルがリストされます。

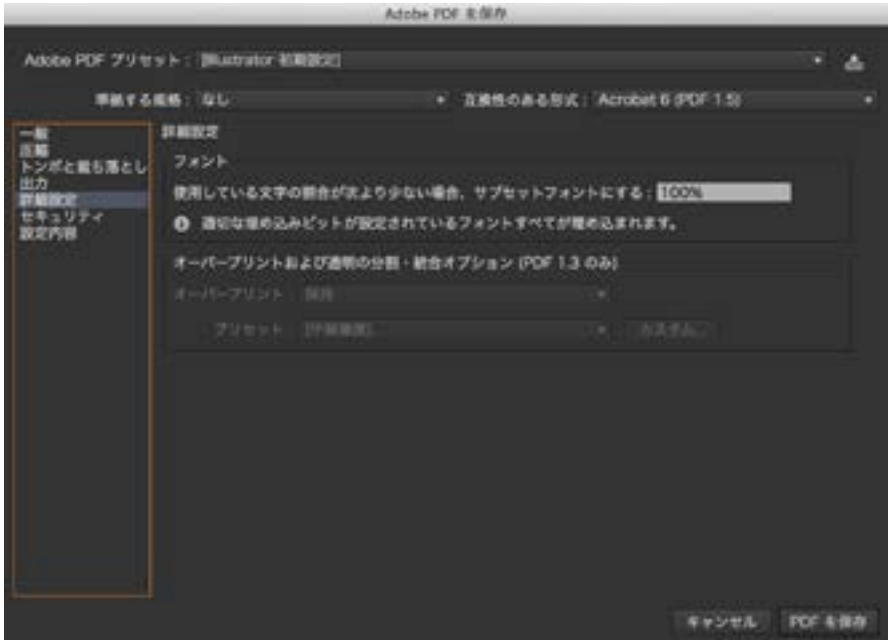
出力条件：想定したプリント条件を記述します。 この項目は、PDFドキュメントを受け取る人に役立ちます。

出力条件ID：想定したプリント条件に関する詳細情報のIDを示します。ICCレジストリに含まれるプリント条件の場合、IDは自動的に入力されます。

レジストリ名：レジストリに関する詳細情報のWebアドレスを示します。ICCレジストリ名の場合、URLは自動的に入力されます。

トラッピング済みとしてマーク：ドキュメントのトラップ状態を示します。PDF/Xに準拠するには、True（選択）またはFalse（選択解除）を指定する必要があります。この要件を満たさないドキュメントはPDF/Xの準拠チェックに失敗します。

詳細設定パネル



InDesign**「詳細パネル」**（P41 を参照）と同様

セキュリティ



InDesign**「セキュリティパネル」**（P42 を参照）と同様

設定内容パネル



InDesign**「概要パネル」**（P44 を参照）と同様

Illustrator書類(.ai)の書き出し

Illustrator形式での書き出し

「ファイル」→「別名で保存」または**「ファイル」→「コピーを保存…」**を選択します。ファイル名を入力し、ファイルの保存先を指定します。

ファイル形式として**「Adobe Illustrator (.ai)」**を選択して**「保存」**ボタンをクリックします。

Illustratorオプションダイアログボックスで、必要に応じて次のオプションを設定し、**「OK」**します。



Illustrator の保存オプションダイアログボックス

Illustrator

	解説
▶ バージョン	バージョンを指定します。Illustrator 3 形式までサポートしています。
▶ フォント	フォントの埋め込みを指定します。
▶ オプション	PDF の互換性や配置画像の埋め込みなどを指定します。
▶ 透明	透明効果の分割・統合などの設定を指定します。
▶ 警告	各項目に関連した注意事項の一覧です。

「フォント」セクション

使用している文字の割合が次より少ない場合サブセットにする：書類で使用されている欧文フォントの文字数によって、文字だけでなくフォント全体を埋め込むかどうかを指定します。例えば、1,000文字あるフォントのうち、書類に10文字しか使用されていない場合、フォント全体の埋め込みによってファイルサイズを大きくする必要はないと判断します。 ※日

本語フォントの場合、この設定に関らずサブセットとして取り扱います。

「オプション」セクション

PDF 互換ファイルを作成：Illustratorファイルに、PDF形式として使用できるデータを保存します。Illustratorファイルに、ほかのアドビアプリケーションとの互換性を持たせる場合に、このオプションを選択します。

配置した画像を含む：アートワークにリンクされているファイルを埋め込みます。

ICCプロファイルを埋め込む：書類にカラープロファイルを埋め込み、カラーマネジメントされた書類を作成します。

圧縮を使用：PDFデータを圧縮してIllustratorファイルに保存します。圧縮を使用すると書類の保存に時間がかかるので、保存時間がとても長くなる場合（8〜15 分かかる場合）は選択しないでください。

< 注意 >
Illustrator で作成したデータを InDesign や入稿時に面付処理などを行う可能性があります。相手にデータを渡す場合は、必ず「PDF 互換ファイルを作成」にチェックを入れて保存してください。

⊕以前のバージョンと互換性のあるIllustrator書類

以前のバージョンと互換性のあるファイルを作成するには、Illustratorオプションダイアログボックスの上部にある**「バージョン」**オプションを設定します。以前のバージョンのIllustrator書類では、グラデーション、レイヤー、透明、文字設定など一部の機能がサポートされない場合があるので注意してください。データ書き出ししたファイルをIllustratorの以前のバージョンで開いた場合、Illustratorで作成したレイアウトを保持するために、テキストオブジェクトが分割される場合があります。

Illustratorオプションで、必要に応じて次のオプションを設定し、**「OK」**します。

※ CC2020 より以前の CC ver.17(2013)〜23(2019) はレガシーバージョンとなりました。



以前の CC 形式で保存する場合のダイアログ

保存の際、Illustrator（.ai）以外の形式を選択すると、その形式のファイルを Illustrator で再び開いた時に、一部のデータを読み込めない場合があるので注意してください。
作業中は Illustrator 形式で保存し、完成したアートワークを目的の形式で書き出すことをお勧めします。

バージョン：互換性を持たせるIllustratorのバージョンを選択します。
以前の形式ではグラデーション、レイヤー、透明、文字設定など一部の機能がサポートされない場合があるので注意が必要です。

「フォント」セクション

Illustrator形式のIllustrator書類と同様

「オプション」セクション

Illustrator形式のIllustrator書類と同様です。ただし、「PDF互換ファイルを作成」は、Illustrator 10以降のバージョンを選択した場合にだけ使用できます。「圧縮を使用」オプションはIllustrator 10以降のバージョンを選択し、「PDF 互換ファイルを作成」オプションを選択した際に使用できます。「ICCプロファイルを埋め込む」オプションは、Illustrator 9以降のバージョン形式を選択した場合にだけ使用できます。

CC および CS6 から、CS5 以前の下位バージョンに保存すると、ドロップシャドウ、光彩（外側）といった効果がラスタライズされます。これは、CS6 で 64-bit OS ネイティブに対応したことによる仕様の変更によるものです。下位バージョン保存し、そのまま出力する分には問題ありませんが、データを修正する際には注意が必要です。

「透明」セクション

パスを保持（透明部分を破棄）：透明効果が破棄され、透明が使用されているアートワークの不透明度が100%に、描画モードが「通常」にリセットされます（このオプションはバージョン8以前のバージョンで保存する場合に使用します）。

アピアランスとオーバープリントを保持：透明オブジェクトと重なり合わない部分のオーバープリントが保持されます。透明オブジェクトと重なり合う部分のオーバープリントは分割・統合されます。

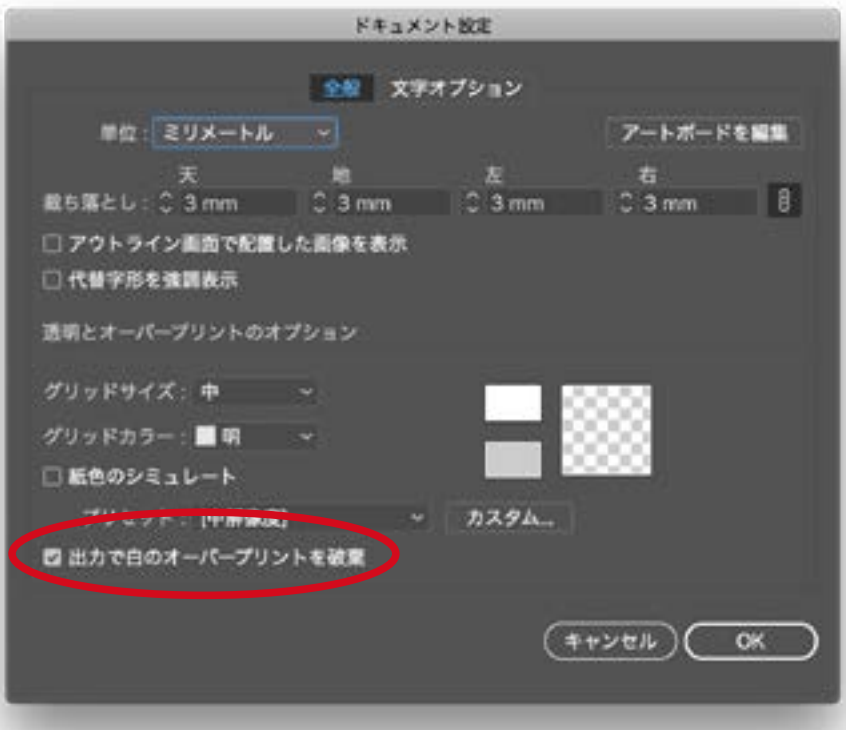
PDFのダイレクト出力とネイティブ貼り込みの推奨

Illustrator のデータをInDesign に取り込む場合、従来はEPS 形式での取り込みを推奨していましたが、**「PDF/X-4 の運用の推奨」**(P32参照) の説明の通り透明効果を保持したまま(Live Transparency) のPDF を作成するには、InDesign に配置されるIllustrator データも透明が分割統合されてしまうEPS 形式ではなく、PDF互換ファイルの設定を行ったIllustrator ネイティブ形式で配置する必要があります。

Illustratorで追加された出力関連機能

白のオーバープリントを破棄：Illustrator で作成したアートワークに含まれる白のオブジェクトに意図しないオーバープリントが適用されることがあります。これは、オーバープリントプレビューを有効にするか、色分解出力しないと分かりません。このために生産プロセスに遅れが生じたり、再印刷が必要になる場合があります。Illustratorでは白のオブジェクトにオーバープリントが適用されると警告が表示されますが、ユーザーが予期できない状況で白のオーバープリントが発生する場合もあります。

Illustratorから、ドキュメント設定ダイアログおよびプリントダイアログに白のオーバープリントを破棄するためのオプションが追加され、白のオーバープリント属性が出力時に自動で破棄されるようになりました。このオプションは、初期設定でオンになっています。旧バージョンのIllustrator書類をIllustratorで開いた場合も有効です。都度確認、修正することなく、安心して印刷および出力機能を使用することができます。



Illustrator の「ドキュメント設定」

Illustrator 2020では、バックグラウンドでの書き出しも可能になっています。〔ファイル〕メニューの〔書き出し〕から〔スクリーン用に書き出し〕を実行すると、書き出し処理の多くがバックグラウンドで実行され、書き出し中でもタスクを実行できます。ただし、書き出すフォーマットとしてPDFやSVGが含まれている場合には、バックグラウンドでの処理はされません。

※バックグラウンド保存とバックグラウンド書き出しは、ai、png、jpg形式のファイルのみに対応しています。

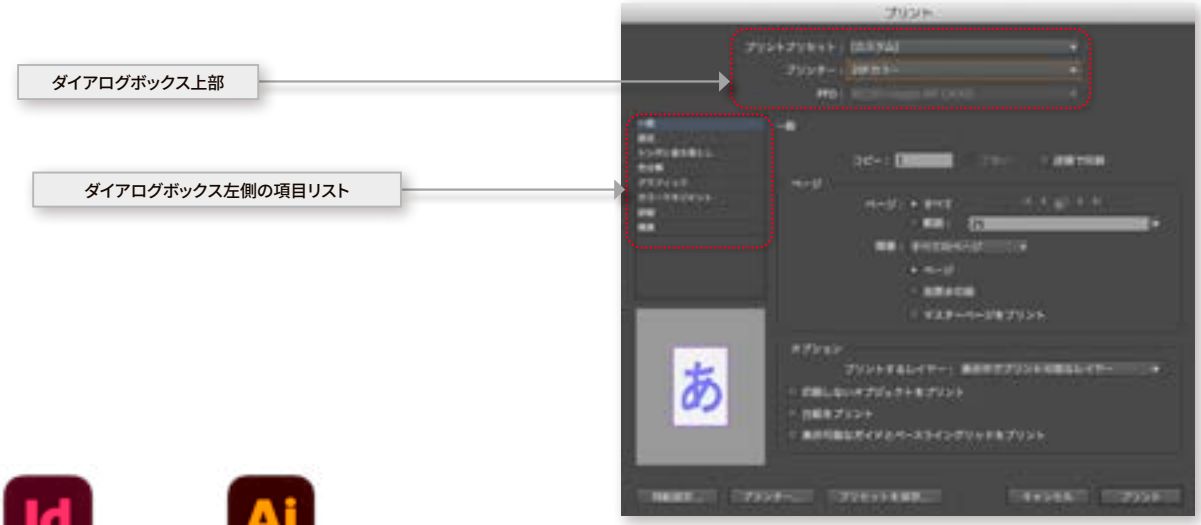
⊕プリントダイアログボックス

InDesign および Illustrator では、プリント処理を合理化し、確実で、一貫した処理を実現できます。

共通領域

用紙サイズ、トンボと裁ち落とし、カラーマネジメントの出力プロファイル、透明部分の分割・統合設定など、すべてのプリント設定を、プリントダイアログボックスだけで指定できます。この直感的なユーザーインターフェイスを使用して、出力の準備を簡単かつ効率的に行うことができます。このインターフェイスには常にプレビュー画面が表示されているため、現在のプリント設定が選択したメディアにどのように作用するかを視覚的に確認できます。すべての設定を選択した後で、発生する可能性のある問題や注意点が概要画面に表示されるため、費用のかかるエラーを極力削減できます。

プリントを行うには、プリンターの PPD（PostScript プリンターの場合）またはプリンタードライバー（非 PostScript プリンターの場合）が必要になります。適切な PPD もしくはプリンタードライバーがインス



InDesign のプリントダイアログボックス

InDesign　Illustrator

ダイアログボックス上部		解説
▶ プリントプリセット		プリントプリセットを指定します。
▶ プリンター		プリンターを指定します。
▶ PPD		PPD を指定します。
ダイアログボックス左側の項目リスト		**解説**
▶ 一般		出力するページや枚数などを指定します。
▶ 設定		用紙サイズや拡大・縮小率などを指定します。
▶ トンボと裁ち落とし		トンボと裁ち落とし、ページ情報などを指定します。
▶ 色分解		分版出力やそのスクリーン線数などを指定します。
▶ グラフィック		グラフィックデータの出力品質などを指定します。
▶ カラーマネジメント		出力プロファイルなどを指定します。
▶ 詳細		OPI、オーバープリント、透明効果の設定を行います。
▶ 概要	▶ 設定内容	現在の設定を一覧表示します。設定内容をテキストファイルとして保存できます。

プリント機能の多くは PostScript プリンタ記述ファイル（PPD）に含まれる情報に依存しているため、適切な PPD を選択することが重要です。PPD の設定はオペレーティングシステムで行います。PPD がオペレーティングシステムに指定された場所に保存されていることを確認してください。詳細は、使用するオペレーティングシステムのマニュアルなどを参照してください。

トールされていることを確認します。

「ファイル」メニューから**「プリント」**でプリントダイアログボックスを開きます。ドキュメントを、プリンターからまたはファイルとしてプリントするかを設定します。使用したいプリントプリセットがある場合は、プリントダイアログボックス上部の**「プリントプリセット**（プリント設定）**」**から選択します。

プリンター：ポップアップメニューで次のいずれかを選択します。ドキュメントをプリントするには、使用する「出力デバイス」を選択します。PostScriptファイルを作成する場合は「PostScriptファイル」を選択します。ドキュメントはプリンターではなくファイルとして出力されます。PDFファイルを作成するには、Windowsの場合は「Adobe PDF」を選択します。これを選択すると、ドキュメントはプリンターではなくファイルにプリントされます。このオプションは、Acrobat がインストールされている場合にのみ使用できます。Mac OSの場合は、「プリンター…」からプリントダイアログの左下にある「PDF」を選択し、「Save as Adobe PDF」を指定します。

プリントダイアログボックスでは、印刷のオプションがいくつかのパネルとセクションにまとめられています。プリントダイアログボックスで指定した設定は、ドキュメント内に保存されます。

InDesignの場合

一般パネル

一般パネルには、ほとんどのアプリケーションのプリントダイアログボックスと共通の制御機能があります。ここでは、出力するページの範囲や見開き印刷の設定など、印刷物の形態や範囲の指定を行います。

コピー：ドキュメントを印刷する部数を指定します。

逆順で印刷：ドキュメントのページの順番を逆に印刷します。

「ページ」セクション

すべて：ドキュメントのページをすべて印刷します。これはデフォルトの設定です。

範囲：現在のドキュメントで印刷するページの範囲を指定します。範囲はハイフンを使用して指定します。複数のページまたは複数の範囲を指定する場合は、それぞれをカンマまたはスペースで区切ります。

順番：「すべてのページ」は、ドキュメントのページをすべて印刷します。「偶数ページのみ」または「奇数ページのみ」は、指定した範囲内の該当するページだけを印刷します。これらのオプションは、見開き印刷を設定した場合は使用できません。

見開き印刷：綴じられた見開きページを一緒に1枚の用紙に印刷します。印刷できるのは、1枚の用紙に1つの見開きのみです。新しく印刷するページが現在選択されている用紙サイズよりも大きい場合は、可能な範囲までが印刷され、用紙サイズに合うように自動的にページが縮小されることはありません。この場合、1枚の用紙に見開きが収まるように縮小印刷するには、「セットアップ」パネルで「拡大／縮小」の「幅に合わせる」オプションを選択してください。また、用紙の方向を横方向に指定することによって、1枚の用紙に印刷されるようにすることもできます。

親ページをプリント：ドキュメントページではなく、すべての親ページを印刷します。このオプションを選択すると「範囲」オプションは使用できなくなります。



ページやページ範囲指定のヒント

「11-」は、ページ番号**「11」**からドキュメントの最後のページまでを指定します。

「-11」は、ページ番号**「11」**までの、ドキュメント内のすべてのページを指定します。

「1,3-8,11」は、ページ**「1」**、**「3-8」**、および**「11」**を指定します。

「+11」は、ドキュメントの 11 番目のページを指定します。

「-+11」は、ドキュメントの 11 番目のページまでの、ドキュメント内のすべてのページを指定します。

「+11-」は、ドキュメントの 11 番目のページからドキュメントの最後のページまでのすべてのページを指定します。

「+1,+3-+8,+11」は、ドキュメントで最初のページ、3 から 8 番目のページ、および 11 番目のページを指定します。

「オプション」セクション

プリントするレイヤー：どの状態のレイヤーをプリントの対象にするのかを必要に応じて設定します。この設定はレイヤーごとに設定が用意されている「レイヤーをプリント」にも関連します。

印刷しないオブジェクトをプリント：印刷しないオブジェクトを個別に設定しているかどうかにかかわらず、すべてのオブジェクトを印刷します。

白紙をプリント：テキストやオブジェクトがない白紙ページを含んだ状態でプリントさせたい場合、これを選択すると、指定した範囲のすべてのページを印刷します。このオプションは、分版出力する場合には使用できません。

表示可能なガイドとベースライングリッドをプリント：表示可能なガイドとベースライングリッドを、ドキュメントに表示されているのと同じ色でプリントします。どのガイドとグリッドを表示するかは、表示メニューで指定できます。このオプションは、分版出力する場合には使用できません。

設定パネル

出力する用紙サイズや用紙方向の指定と、拡大縮小の設定を行います。

「用紙サイズ」セクション

選択しているプリンターのPPDに記載されたどのサイズでも選択することができます。選択したプリンターとPPDがカスタム用紙サイズをサポートしている場合は、**「用紙サイズ」**のメニューに**「カスタム」**のオプションが表示されます。

用紙の幅、用紙の高さ：カスタムページの場合には、用紙の幅と高さのサイズ設定を行います。ドキュメントの内容、印刷マーク、断ち落しなどのために必要最小限のサイズを決定するには、「用紙の幅」、「用紙の高さ」でそれぞれ「自動」を選択します。デフォルトも「自動」が選択されています。デフォルトより大きな用紙サイズを指定するには、プリンターやイメージセッタの印字不可能領域の境界を超えない範囲で必要な値を入力します。

方向：ほとんどの場合、「ファイル」→「ドキュメント設定」コマンドで指定したページの方向と、プリントダイアログボックスの「セットアップパネル」で指定した紙の方向は、縦方向でも横方向印刷でも一致しています。見開きページを印刷する場合は、1枚の紙に見開きの全ページが収まるように用紙サイズと方向（縦または横置きなど）を確認する必要があります。

オフセット：プリント画像の左側の空白部分のサイズを指定します。例えば、「20ポイント」と入力すると、右方向に20ポイントずれたところからページが印刷されます。

ページの間隔：連続用紙に印刷する場合の、ページとページの間の距離を指定します。

幅と高さを入れ換え：用紙とページ内容の向きをいっしょに変える場合にこれを選択します。「オフセット」オプションとともに使用すると、フィルムや用紙の使用量を効率的に配置できる場合があります。

「ドキュメント設定」ダイアログボックスで定義したページサイズと、印刷する用紙サイズを混同しないようにします。ページサイズがA4でも、トンボや裁ち落としの幅が必要ならば、A4サイズよりも大きいエリアを指示しなければなりません。印字可能な用紙サイズは、選択したプリンタのPPD（PostScriptプリンタの場合）またはプリンタドライバー（非PostScriptプリンタの場合）によって異なります。



「オプション」セクション

ここでは、拡大／縮小指示のほかに、**「タイル印刷」**と**「サムネール印刷」**を指定でき、ページの内容がどのように印刷されるかを確認できます。

拡大／縮小：ドキュメントの現在の縦横の比率を維持するには、「縦横の比率を固定」を選択します。縦横の比率を維持しない場合は、このオプションの選択が解除されていることを確認します。続いて、「幅」と「高さ」ボックスに、1〜1000%の範囲で数値を入力します。

「縦横の比率を固定」を選択している場合、片方の値を入力すれば、もう一方の値も自動的に置き換えられます。デフォルトは100%です。

幅に合わせる：ドキュメントを自動的に拡大／縮小印刷する場合に使用します。このオプションがチェックされると、選択したPPDで定義されている印刷可能領域によって自動的に計算される拡大／縮小率が表示されます。但し、「タイル」が選択されていると「幅に合わせる」は使用できません。

ページの位置：ページ位置を変更する際に使用します。プルダウンメニューから希望する位置を選択します。デフォルトでは「中央揃え」が選択されています。

サムネール：（1ページ中）1つの用紙に複数のページを配置する場合に、サムネールで印刷します。サムネールは、ページの構成と内容を確認するのに便利です。用紙にページが最も適切に収まるように、用紙方向が自動的に調整されます。

タイル：ドキュメントをプリンターで使用可能な用紙サイズに合わせて、分割して印刷します。

トンボと裁ち落としパネル

このパネルでは、ページ境界線の外側に印刷される様々な記号を選択することができます。すべてのマークをオンにしたり、裁ち落としの量も指定できます。

「トンボとページ情報」セクション

種類：トンボの種類を選択します。デフォルトは「丸付きセンタートンボ」です。

オフセット：「西洋トンボ」を指定した場合のみ、印刷する用紙に対して、ドキュメントの座標値（左上隅が起点）を変更することができます。

太さ：トンボの線の太さを選択します。デフォルトは0.10mmに設定されています。

すべてのトンボとページ情報を印刷：このオプションを選択すると、内トンボ、外トンボ、センタートンボ、カラーバー、ページ情報など印刷マークがすべて選択されます。

内トンボ：最終の仕上がり（ドキュメントのページサイズ）で、断裁される位置の指定を追加します。外トンボを合わせて使用することによって二重トンボを指定できます。

外トンボ：外トンボの位置は「裁ち落とし」で設定できます。内トンボと組み合わせて使用する場合はL字型のラインになります。

センタートンボ：カラードキュメントで別の色分解出力した各版と見当を合わせるために使用します。レジストレーションマークともいいます。

カラーバー：CMYKのインキとグレーの階調（10%ずつ増加）を表す小さなカラーの四角形を追加します。印刷・出力会社は、カラーバーを使用して印刷機のインキ濃度を調整します。

ページ情報：用紙やフィルム、またはプレートの各シートに、ファイル名、ページ番号、現在の日時、色版名を印刷します。

「裁ち落としと印刷可能領域」セクション

ドキュメントの裁ち落とし設定を使用：ドキュメント設定アップダイアログボックスで指定された裁ち落とし領域を使用してプリントします。

裁ち落とし：トンボの幅を四辺単独で指定することができます。トンボの幅を均等に拡張するには、「すべての設定を同一にする」アイコン をクリックします。

印刷可能領域を含む：ドキュメント設定ダイアログボックスで定義された印刷可能領域を使用してプリントします。

注意
「西洋トンボ」を選択すると、内トンボは**「オフセット」**で指定している位置に印刷され、外トンボは、**「裁ち落とし」**で指定している位置に印刷されます。指定した値によっては、外トンボと内トンボの位置が逆転する場合もあります。日本国内での印刷では、西洋トンボを使わず**「丸付きセンタートンボ」「丸なしセンタートンボ」**を使用することをお勧めします。



色分解パネル



このパネルでは、コンポジットまたは分版出力の指定、カスタムでのスクリーン線数、およびスクリーン角度の指定を行います。**「色分解」**が選択されていると、出力するインキを指定したり、特色インキをプロセスインキに変換するかどうかを設定できます。

カラー：ドキュメントのコンポジットカラーがどのようにプリンターに送信されるかを設定します。コンポジットカラーモードは、ラスター画像、およびInDesign上で作成されたオブジェクトにのみ適用されます。透明オブジェクトと重なり合わない配置されたグラフィック（EPS、PDFなど）には適用されません。ポップアップメニューには、次のオプションがあります。

コンポジットの変更なし：元のドキュメントのすべてのカラー値を維持して、指定したページのフルカラーのデータをプリンターに送信します。このオプションが選択されていると、「オーバープリント処理」は使用不可になります。

コンポジットグレー：指定したページのグレースケールのデータをプリンターに送信します。例えば、色分解をしないでモノクロプリンターで印刷する場合などに使用します。

コンポジットRGB：指定したページのフルカラーのデータをプリンターに送信します。色分解をしないでRGBカラープリンターで印刷する場合などに使用します。

コンポジットCMYK：指定したページのフルカラーのデータをプリンターに送信します。色分解をしないでCMYKカラープリンターで印刷する場合に使用します。このオプションはPostScriptプリンターでのみ使用できます。

色分解（InDesign）：InDesign側で分解出力する時に指定します。

色分解（In-RIP）：RIPに搭載されたIn-RIP機能により、RIP側で分解出力する時に指定します。

テキストを黒：作成されたテキストのカラーが「なし」または「紙色」またはカラー値が白と等しくなければ、すべて黒で印刷します。

トラップ：ウィンドウメニューのトラッププリセットでトラップを設定している場合、InDesignにてトラッピングを行うことができます。また、Adobe In-RIPトラップをサポートしているPostScript 3対応の出力機を使用することも可能です。

反転：膜面の指定を行います。

ネガ：ポジかネガの指定を行います。

スクリーン：コンポジットモードでは、デフォルトか、選択されているPPDに記載された解像度のいずれかを選ぶことができます。色分解（InDesign）または色分解（In-RIP）では、選択されているPPDが対応している最適な出力線数と解像度のリストが表示されます。さらに、下段にある「インキ設定」にてカスタムのスクリーン線数およびスクリーン角度の設定が行えます。

「インキ」セクション

使用しているインキの設定が確認できるようになっています。

インキ管理：「インキ管理」ボタンをクリックすると「インキ管理」のダイアログボックスが表示されます。各インキのND値や出力の順番の変更が可能です。さらに、色付きの紙に印刷する場合を考慮して、顔料比率の高いオペークインキの指定なども行えます。すべての特色をプロセスカラーに変更する場合もここで行います。

オーバープリント処理：多くのデスクトッププリンターではオーバープリントをサポートして

いないため、このオプションを選択することで、オーバープリントの効果をシミュレーションすることができます。ただし「オーバープリント処理」を選択すると、印刷時に特色はプロセスカラーに変換されます。ドキュメントをRIPで色分解したり、最終出力したりする予定がある場合、このオプションは選択しないでください。

グラフィックパネル

ここでは、ビットマップ画像、EPSグラフィック、PDFページをPostScriptプリンターで最も効率よく印刷するためのさまざまなオプションが用意されています。イメージ解像度、フォント、グラデーションをどのように扱うかなどを指定します。また、プリンターにフォントをダウンロードする方法も指定することができます。選択したオプションに応じて、出力されるPostScriptファイルの容量が決まります。



「画像」セクション

ビットマップ画像やベクター画像またはPDFページなどの高解像度画像を配置しているドキュメントを印刷する場合、最良の印刷結果を得るためには、解像度やラスタライズ設定などを調整する必要があります。

解像度：プリンターまたはファイルへ送るビットマップ画像データの品質を制御します。

すべて：最高解像度（画像に設定されている解像度）のデータがプリンターまたはファイルへ送られます。商業用印刷や、特色を含む黒と白のテキストのようなコントラストの強いグレースケールまたはカラー画像の印刷に適していますが、最も多くのディスク容量を必要とします。

サブサンプリングを最適化する：出力機器の最高解像度で最適化された充分な画像データが送られます。高解像度の画像をデスクトッププリンターで校正刷りする場合などは、このオプションを選択します。

プロキシ：配置した画像の画面表示用のビットマップデータが送られます。画面プレビュー程度の品質で出力を行うため、印刷時間は短縮されます。

なし：印刷時にすべての画像データを除いて出力します。画像部分を×印の付いたグラフィックフレームに置き換えて、印刷時間を短縮します。グラフィックフレームは、配置したグラフィックと同じサイズなので、サイズと位置関係は確認することができます。

「フォント」セクション

プリンターへどのようにフォントをダウンロードするかを管理するオプションです。フォントがコンピュータのハードディスクにインストールされている場合、印刷時にはそれらのフォントを必要に応じてダウンロードされます。

ダウンロード：プリンターへのフォントのダウンロードの方法を制御します。

なし：PostScriptファイルに記述されているフォントへの参照だけが、RIPやポストプロセッサにダウンロードされます。このオプションは、フォントが常駐しているプリンターの場合に適しています。OpenTypeフォントやTrueTypeフォントは、フォントのPostScript名に従って印刷に使用するフォントが指定されます。ただし、すべてのアプリケーションがこれらの名前を認識するとは限りません。OpenTypeフォントやTrueTypeフォントを正しく印刷するには、フォントをダウンロードする他のオプションを選択してください。

完全：プリンタージョブの最初にドキュメントで要求されるすべてのフォントがダウンロードされます。環境設定ダイアログボックスで指定した字形（グリフ）数の最大数より多くのサ

ブセットフォントが自動的にダウンロードされます。

サブセット：使用されている字形だけがダウンロードされます。字形はページごとにダウンロードされます。このオプションは、1ページのドキュメント、またはほとんどテキストのない短いドキュメントで使用するとき、PostScriptファイルをより早く、より小さく書き出すことができます。

PPDフォントダウンロード：プリンターのRIPに、印刷に必要なフォントが常駐フォントとしてある場合でも、PPDファイルの記述内にある、すべてのフォントをダウンロードして印刷します。即ち、コンピュータ内にあるフォントのアウトラインが印刷時に常に使用されます。これにより、コンピュータとプリンター間でのフォントのバージョンの不整合による問題は起こらなくなります。

PostScriptレベル：PostScript対応の出力機器のインタープリタとの互換性レベルを指定します。出力デバイスのPostScriptレベルに合わせて選択してください。

データ形式：コンピュータからプリンターへ送信される画像データのエンコード方式を指定します。「ASCII」を選択すると、ASCIIテキストとして送信されます。ASCIIは、古いネットワークやパラレル接続のプリンターと互換性があり、複数のプラットフォームで使用するグラフィックのためには最良の選択です。「バイナリ」を選択すると、バイナリコードとして書き出されます。バイナリはASCIIよりコンパクトなデータですが、すべてのシステムとは互換性がない可能性があります。

カラーマネジメントパネル

以下のオプションを使用する場合は、**「編集」→「カラー設定」**ダイアログボックスでカラーマネジメント用に書類を設定しておく必要があります。

「プリント」セクション

ドキュメント：ドキュメントのプロファイルの名前を表示します。ドキュメントにプロファイルが埋め込まれていない場合は、カラー設定ダイアログボックスで指定されたプロファイルが表示されます。「InDesignでカラーを決定」を選択している場合は「プリンタープロファイル」でプリンターのプロファイルを設定します。

校正：プリプレス用プリンターなど、他のデバイスでどのように出力されるかをエミュレートしてドキュメントをプリントします。校正プロファイルには、シミュレートするデバイスへのカラー変換に使用されるプロファイルの名前が表示されます。これは、「表示」メニュー→「校正設定」コマンドで指定します。

「オプション」セクション

カラーの処理：カラーマネジメントを使用する際にアプリケーションで行うか、プリントデバイスで行うかを決定します。

InDesignでカラーを決定：このワークフローでは、アプリケーションがカラー変換をすべて行い、出力機器に固有のカラーデータを生成します。アプリケーションは、割り当てられたカラープロファイルを使用して色を出力機器の色域に変換し、変換後のカラー値を出力機器に送信します。

PostScriptプリンターでカラーを決定：このワークフローでは、アプリケーションはカラー変換を行いませんが、カラー変換に必要な情報をすべて出力機器に送信します。

プリンタープロファイル：使用するプリンターと用紙の種類に応じたプロファイルを選択します。

CMYKカラー値を保持：このオプションをオフにすると、すべてのカラー番号がカラー変換対象になります。オンにすると、プロファイルが埋め込まれていないCMYKオブジェクトおよびネイティブオブジェクト（ラインアートや文字）はカラー変換の対象になりません。出力デバイスのプロファイルと異なるプロファイルを使用する画像は変換されます。

紙色をシミュレート：目的のデバイスで出力した時の見た目をシミュレートします。

詳細パネル

このパネルでは、OPIを使用した場合の設定や透明効果の設定ダイアログです。

ビットマッププリント：非PostScriptプリンターでプリントする場合に設定でき、プリント中にすべてのアートワークをラスタライズして印刷します。必要に応じて解像度設定を行ってプリントします。

「OPI」セクション

OPIオプションを使用すると、画像データがプリンターやファイルに送信されるときに、OPIサーバで後処理用のOPIリンク（コメント）だけを残し、形式によって配置した画像を選択して除外することができます。

OPI画像の置換：出力時に低解像度のEPSプロキシ画像を高解像度画像に置き換えます。OPI画像の置換で作業するには、EPSファイルは低解像度のプロキシ画像を高解像度画像にリンクするOPIコメントを含んでいる必要があります。InDesignは、OPIコメントでリンクされた画像にアクセスします。高解像度のバージョンが使用できない場合、OPIリンクを保持して、低解像度プロキシでファイルに書き出します。以降のワークフローでOPIサーバがリンク画像を置換するようにするには、このオプションの選択を解除します。

OPIを無視：画像データをプリンターやファイルに送るときに、OPIサーバで後処理用のOPIリンク（コメント）だけを残し、指定した形式と異なる配置した画像（EPS、PDF、ビットマップ画像）を印刷時に除外します。コメントは、OPIサーバ上で高解像度画像の保存場所を見つけるために必要な情報を含んでいます。InDesignはコメントを含んでいるだけなので、出力・印刷会社は置換時にサーバ上にある元の高解像度画像にアクセスする必要があります。このオプションは、埋め込まれた画像には適用されません。

「透明の分割・統合」セクション

プリセット：あらかじめ、3つの定義済みの透明の分割・統合プリセットが用意されています。これらの設定はドキュメントでの使用の意図によって、ラスタライズされた透明領域に適切な解像度で統合の品質とスピードに適合するように設定されています。

低解像度：モノクロのデスクトッププリンターで、すばやく校正刷りを印刷したり、Web出版やSVGに書き出すドキュメントに使用します。

中解像度：デスクトップ校正やオンデマンドドキュメントをPostScriptカラープリンターでの印刷する場合に使用します。

高解像度：最終的に商業印刷での出力や色分解校正のような高品質の校正刷りに使用します。

スプレッドオーバーライドを無視：ページパネルサブメニューのスプレッドの単層化にて、各スプレッドごとに設定した透明統合スタイルを無効にして、プリセットで選択したスタイルをドキュメント上のすべての透明に反映させるために使用します。

概要パネル

ここでは、選択しているデバイスや、他のダイアログで設定した内容を一覧表示で見ることができます。印刷を行う前に、出力設定を確認し必要ならば設定の調整を行ってください。

概要を保存：結果をテキスト形式で書き出すこともできます。

Illustratorの場合

一般パネル

プリントダイアログボックスの**「一般」**オプションを使用すると、プリントするページと部数の指定、用紙のサイズとアートワークの方向の設定、書類の拡大・縮小、プリントまたは色分解するレイヤーの選択を行えます。
本項では主要な設定のみ記載をしています。

「一般」セクション

アートボード：アートワークを印刷する場合、ここでプリントするページ（アートボード）を指定します。
すべて：すべてのアートボードがプリントされます。
範囲：アートボード範囲を入力します。連続するアートボードの範囲は、数字と数字の間をハイフンで区切って入力し、連続しないページまたは範囲は、コンマで区切って入力します。
アートボードを無視：複数のアートボードがある場合、1ページに集約して印刷します。
白紙のアートボードをプリントしない：アートワークが含まれていないアートボードはすべて無視されます。
部数：プリントする部数を指定します。
丁合い：1部全体をプリントしてから、2部目をプリントします。 このオプションが選択されていない場合、1ページが全部数分プリントされてから、次のページが全部数分プリントされます（以降のページも同様です）。
逆順で印刷：逆の順序でアートボードをプリントします。

「オプション」セクション

プリントするレイヤー：プリントするレイヤーを指定します。
表示中でプリント可能なレイヤー：レイヤーオプションでプリントの設定がオンなっているレイヤーを対象にプリントする設定
表示中のレイヤー：表示されているレイヤーのみがプリントされます。
すべてのレイヤー：すべてのレイヤーがプリントされます。
配置：用紙内のどの位置に合わせてアートワークを配置しプリントするかを設定します。
拡大・縮小しない：拡大・縮小を行いません。
カスタム：任意の倍率を指定してプリントします。
用紙サイズに合わせる：書類を自動的に拡大・縮小して、用紙に合わせます。 拡大・縮小率は、選択した PPD で定義されているプリント可能範囲によって決まります。

注意：
ドキュメントに複数のアートボードがある場合は、まず**「アートボードを無視」**を選択するか、**「範囲」**オプションで 1 ページを指定して**「用紙サイズに合わせる」**を選択します。
（オプション）**「用紙サイズで区分ける」**を選択した場合、**「重なり」**オプションに値を設定してページが重なり合う部分を指定します。

「タイル（用紙サイズ）」：出力用にアートボードを用紙サイズのページに分割します。
タイル（プリント可能範囲）」：選択したデバイスのプリント可能範囲に基づいて、アートボードを分割します。このオプションは、選択したデバイスが出力できる最大サイズよりも大きなアートワークを出力する際に便利です。分割した部分をつなぎ合わせると、アートワークを元の状態で出力することができます。
指定倍率：「幅」テキストボックスおよび「高さ」テキストボックスがアクティブになり、数値が入力できるようになります。
縦横の比率を固定ボタン：書類の現在の幅と高さの比率を維持します。
幅：「指定倍率」を選択した場合に、幅を指定します。
高さ：「指定倍率」を選択した場合に、高さを指定します。

設定内容パネル

プリント用バウンディングボックス（プリント範囲）を基準にして、書類上にプリンターのマークの位置が設定され、アートワークのプリント可能範囲およびアートワーク上にあるプリントされない部分（方向線など）が指定されます。
また、**「セットアップ」**パネルでは、プリント可能範囲またはアートワークが配置される最初のページを指定できます。 例えば、フィルムまたはプリントするページにアートワークが適切に収まるように、アートワークの配置を変更できます。

トリミング：アートボードをアートボードで切り抜くか、書類内の全アートワークのバウンディングボックスで切り抜くか、定義されたトンボで切り抜くかを指定します。

「オプション」セクション

配置：正方形のいずれかをクリックすると、プリント可能範囲の原点または配置される最初のページが指定されます。
原点 X：X（水平）軸方向の原点を指定します。
原点 Y：Y（垂直）軸方向の原点を指定します。
タイル：ページをどのように区分けるかを指定します。
1ページのみ：1ページのみを表示およびプリントします。
用紙サイズで区分ける：アートボード内に収まるページ数で分割します。部分的にしか表示またはプリントされないページは作成されません。
プリント可能範囲で区分ける：すべてのアートワークをプリントできるように、アートボードを必要なセクション数で分割します。
重なり：「用紙サイズで区分ける」を選択した場合、「重なり」オプションに値を設定してページが重なり合う部分を指定します。

トンボと裁ち落としパネル

ダイアログボックスには次の設定があります。

「トンボ」セクション

すべてのトンボとページ情報をプリント：プリンターマークを一度にすべて選択します。
トンボ：ページをトリミングする位置を定義するための水平と垂直の細い罫線（ヘアライン）を追加します。トンボは、色分解出力した各色版の位置を正確に見当合わせするため

に使用されます。

レジストレーションマーク：カラー書類内の各色版を正しく重ねるために、ページ範囲の外側に小さな「ターゲット」を追加します。

カラーバー：CMYKインキおよび10%単位のグレーの濃度を表す小さな正方形を追加します。 このマークは、出力センターや印刷会社が印刷機のインキ濃度を調節するために使用します。

ページ情報：用紙、またはフィルムの各シートにファイル名、プリントアウトの日時、スクリーン線数、スクリーン角度およびカラー名がラベルとして追加されます。ラベルは画像の最上部にプリントされます。

種類：西洋式トンボと日本式トンボがあります。

太さ：トンボの線幅を指定します。

オフセット：トンボとアートワーク間の距離を指定します。 トンボが裁ち落とし上に配置されないようにするには「オフセット」に「裁ち落とし」より大きい値を入力します。本項目は種類が「西洋式トンボ」の場合のみ設定が可能です。

「裁ち落とし」セクション

天、地、左、右：0～25.4ミリの範囲で、裁ち落としマークの配置を指定します。

：このアイコンをクリックすると「天」「地」「左」「右」に同じ値が入力されます。

出力パネル

ダイアログボックスには次の設定があります。

色分解：カラー画像のプリント用に「コンポジット」、「色分解（Illustrator）」、「色分解（In-RIP）」のいずれかを指定できます。なお「色分解（In-RIP）」オプションは、PostScript 3プリンターを使用し、PPDファイルがIn-RIP色分解をサポートしている場合にのみ使用できます）

膜面：感光面を正面から見たときの種類を、「上（正像）」または「下（正像）」のいずれかで指定できます。 種類を変更すると、画像が反転します。

画像：「ポジ出力」または「ネガ出力」のいずれかを指定します。

プリンター解像度：あらかじめ設定された、選択可能なハーフトーンスクリーン線数とプリンター解像度の組み合わせが表示されます。

すべての特色をプロセスカラーに変換：すべての特色をプロセスカラーに変換するかどうかを指定します。「インキオプション」の下に一覧表示されているすべての特色の横に、4色分解処理アイコン が表示されます。

オーバープリントブラック：ブラックをオーバープリントするかどうかを指定します。

インキオプション：あらかじめ設定されているプリンター解像度以外を指定する必要がある場合は、各色版のカスタムの解像度を指定できます。ただし、角度と線数の初期設定値は、選択したPPDファイルによって決まります。ハーフトーンスクリーンを独自に設定する場合は、最適な設定値について印刷・出力会社にお問い合わせください。

グラフィックパネル

プリントダイアログボックスの**「グラフィック」**パネルのオプションを使用すると、パス、フォント、PostScript情報およびグラデーションオブジェクトやメッシュオブジェクトのプリント時の処理方法を指定できます。

「パス」セクション

平滑度：アートワークの曲線を近似する度合いを指定します。 値を低く設定（「画質」寄りに設定）すると、直線セグメントが小さくなって数が増え、曲線の近似精度が高くなります。値を高く設定（「速度」寄りに設定）すると、直線セグメントが長くなって数が減少し、曲線の精度は劣りますが、パフォーマンスが向上します。

「フォント」セクション

なし：InDesign の「なし」と同様

サブセットのみ：InDesign の「サブセット」と同様

すべてのフォント：InDesign の「完全」と同様

「オプション」セクション

PostScript：InDesign の「PostScript レベル」と同様

データ形式：InDesign の「データ形式」と同様

コンパチブルグラデーション&グラデーションメッシュプリント：グラデーションとグラデーションメッシュをプリント用に JPEG 形式に変換します。 変換後のグラデーションおよびグラデーションメッシュの解像度は、透明の分割・統合設定を行う際に、「グラデーションとメッシュの解像度」オプションで設定します。

カラーマネジメントパネル

以下のオプションを使用する場合は、**「編集」→「カラー設定」**ダイアログボックスでカラーマネジメント用に書類を設定しておく必要があります。

「プリント方法」セクション

ドキュメントのプロファイル：ドキュメントプロファイルの名前を表示します。ドキュメントに埋め込まれたプロファイルが無い場合は、カラー設定ダイアログボックスで指定したプロファイルが表示されます。

カラー処理：カラーマネジメントをアプリケーション側とプリンター側のどちらで実行するかを決定します。

Illustrator のカラー設定：プリント時にアプリケーション側でカラー管理する場合に選択します。外観を保持するために、選択したプリンターに適したカラー値への必要に応じて実行されます。

PostScript のカラー設定：プリント時にプリンター側でカラー管理する場合に選択します。PostScript プリンターはドキュメントのカラー値を変更します。

プロファイル：使用するプリンターと用紙の種類に応じたプロファイルを選択します。

マッチング方法：カラーを目的のカラースペースに変換する方法を指定します。ほとんどの場合、初期設定のマッチング方法を使用するのが最善です。

CMYK カラー値を保持：（CMYK 出力の場合）このオプションをオフにすると、すべてのカラー値がカラー変換の対象になります。オンにすると、プロファイルが埋め込まれていない CMYK オブジェクトおよびネイティブオブジェクト（ラインアートや文字）はカラー変換の対象になりません。出力デバイスのプロファイルと異なるプロファイルを使用する画像は変換されます。

詳細パネル

詳細設定パネルのオプションを使用すると、低解像度のプリンター、一部の非 PostScript プリンター、PostScript プリントとビットマッププリントの両方をサポートするプリンターでプリントする場合に、アートワークをビットマップ画像としてプリントできます。また、オーバープリントと透明の処理を指定できます。

ビットマッププリント：書類をビットマップ画像としてプリントします。 このオプションは、使用するプリンターのプリンタードライバーがビットマッププリントをサポートしている場合にのみ使用できます。 低解像度プリンター、非 PostScript プリンター、およびビットマッププリントをサポートするプリンターで、スムーズな陰影やグラデーションなどの複雑なオブジェクトを含む書類をプリントする場合は、このオプションが便利です。 プリントの速度は低下することがありますが、エラーが発生する可能性は低くなります。

「オーバープリントおよび透明の分割・統合オプション」セクション

オーバープリント：オーバープリントの処理方法を指定します。

保持：オーバープリントが保持されます。

破棄：属性パネルで設定した「塗りにオーバープリント」や「線にオーバープリント」は、コンポジットに反映されません。

シミュレート：コンポジット出力で、オーバープリントのアピアランスが保持されます。

プリセット：あらかじめ定義された透明の分割・統合設定が用意されています。各設定は、書類の用途に応じて、透明部分のラスタライズに適した解像度と、それに見合った分割・統合処理の品質と速度が設定されるように設計されています。設定の内容は、InDesign の「透明の分割・統合」セクションの「プリセット」と同様です。必要であれば、カスタムボタンをクリックして、既存の設定を基にして新規設定の作成が可能です。



設定内容パネル

プリント前にプリント設定を表示し、その後必要に応じて調整できます。

オプション：プリント設定が一覧表示されます。 リスト項目の横にある三角形をクリックして、詳細を表示します。

警告：特色、オーバープリント、分割・統合処理の必要な領域、色域外のカラーなどに関して、確認が必要なすべての特記事項が表示されます。

設定内容を保存：設定内容をテキストファイルで保存します。 設定内容を保存するには、「設定内容を保存」をクリックし、名前と場所を入力して、「保存」をクリックします。

⊕プリント設定の合理化：プリントプリセット

特定のデバイス用にあらかじめ設定しておくことができる名前付きのプリントプリセットが用意されており、これを使用することにより、時間を節約し、ミスを減らすことができます。あらかじめ定義されたプリント設定はスタイルのように機能するため、毎回同じプリントオプションを適用することができます。

印刷・出力会社では、自社で扱っているすべてのデバイス用にこれらの設定を作成しておき、一般的なプリント作業を自動化できます。デザイン会社では、校正用のプリンターごとにプリントプリセットを定義しておくと、各デバイスで通常使用するオプションを簡単に設定できます。

これにより、重要なオプションが誤って設定されている場合によく発生する問題の調査の多くが削減されます。また、プリント工程も合理化され、効率的で確実なワークフローを実現できます。一旦プリントプリセットが設定できたら、他のコンピュータにこのプリントプリセットを簡単に共有できます。共有したい設定を保存し、書き出した設定を**「プリントプリセット」**で読み込んでください。

Acrobat Pro でのPDFチェック

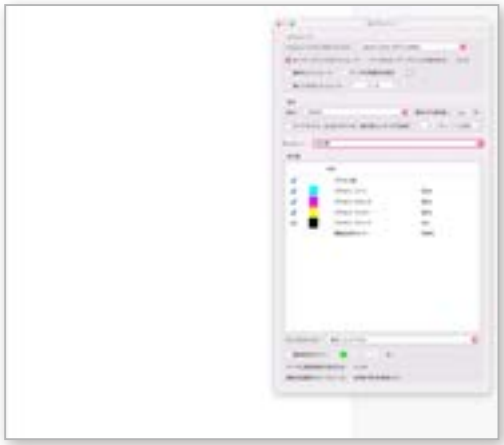
⊕Acrobat Proでの印刷工程

Acrobat Proには従来から意図通りに印刷するためのさまざまなチェック機能**「印刷工程」**機能が搭載されています。ここでは、多くのユーザーの確認作業に役立つ**「出力プレビュー」**と**「プリフライト」**機能を解説します。

出力プレビュー

出力プレビューはPDFファイルのカラーモードの表示や、埋め込みフォントの種類、画像の解像度などさまざまな情報を出力した時と同様に画面上で確認することができる機能です。
印刷データに適しているか、データがCMYKかどうかを確認するには、**「表示」**モードを切り替えます。〔図01〕





〔図01〕/〔図02〕

「表示：CMYK」にすると、画面が真っ白になり何も表示されなくなります。〔図02〕
これはこのPDFのカラーモードがCMYK以外だということを表しています。RGBに表示を切り替えると、画像やテキスト、トリムマーク（トンボ）が表示されます。
では、このようなデータをAcrobat Proのフィックスアップ機能を使用し、印刷に適したPDFに変換する方法を解説します。

Acrobat Proプリフライト｜フィックスアップ

カスタムプロファイルの作成（PDF/X-4 Japan Color 2011 Coatedに変換）
カスタムプロファイルを作成すれば、任意の条件で入稿時のPDFチェックや印刷に適した規格に準拠させたり、印刷事故に繋がりそうなPDFの修正などが行えます。
今回は**「フィックスアップ」**でデフォルトのプロファイル設定をベースに**「PDF/X-4(Japan Color 2011 Coated)に変換」**とカスタマイズする方法を解説します。

1. 開いているPDFがCMYKではないことを**「出力プレビュー」**で確認
2. Acrobat Proの**「印刷工程」**から**「プリフライト」**を選択
3. **「PDF/X-4(Japan Color 2001 Coated)に変換」**を選択し、右上のオプションメニューから**「プロファイルを複製」**をクリック
4. プロファイル名やグループをカスタマイズし、左側のツリーからカスタムフィックスアップを選択〔図03〕

Windows 版 Acrobat Pro では 26.001.21745 へのアップデート後、日本語のファイル名を使用したファイルでプリフライトを行うとプリフライトが失敗する事象について把握しております。

現在修正に向けて対応中ですが、Windows 版の Acrobat をご使用の際に、プリフライト機能に読み込むファイルは英語表記 (1byte) のファイル名でご対応いただくようお願い致します。





〔図 03〕/〔図 04〕

5. 右の**「すべてのカスタムフィックスアップ」**の中から**「カラーをJapan Color 2001 Coated** (特色を維持) **に変換」**を選択し、**「フィックスアップを複製」**〔図03〕
6. 複製したプリセットを選択し、**「フィックスアップの編集」**から、プリセットの名前とコメントを修正し、**「色を置換」**の**「変換先：Japan Color 2011 Coated」**、**「CMYK：Japan Color 2011 Coated」**というようにカスタマイズしたら**「OK」**をクリックし保存〔図04〕
7. カスタマイズしたフィックスアップを右から選択し、中央の**「このプロファイルのカスタムフィックスアップ」**に含めて、**「OK」**をクリックし保存
8. Adobe Expressや印刷用PDFの規格に準じていないPDFを開き、プリフライトからカスタマイズした設定を選択し、**「解析してフィックスアップ」**をクリック〔図05〕

プリフライト機能の
その他の機能については
P19 を参照。

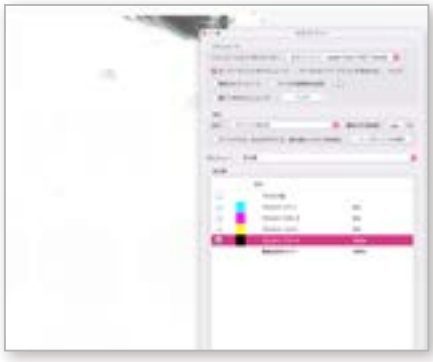


〔図 05〕

注意：
プリフライトは PDF の品質や要件をチェックするためのツールで、フィックスアップ機能はさまざまな設定をカスタマイズし、PDF ファイルのチェックだけでなく、修正も行えますが、元の Illustrator 及び InDesign データとの差異が発生しますので、使用の際にはご注意ください。

9. RGBのPDFドキュメントがJapan Color 2011 CoatedのCMYKに、ブラックはK100%のスミに変換された〔図05〕





〔図 06〕

PDF& 出力の手引き2027年版





アドビ チャット サポート http://helpx.adobe.com/jp/ivrchat.html
ジャパン コミュニティ フォーラム https://adobe.ly/2RiVA9Z

チャットサポート受付時間 9:30 ～ 20:00 *
* 土、日、祝日および弊社指定休日を除く

アドビ株式会社　〒141-0032　東京都品川区大崎1-11-2　ゲートシティ大崎イーストタワー **www.adobe.com/jp**

この冊子に記載の情報は、2026年11月現在の情報です。内容に関しては予告なく変更される場合がございますので、あらかじめご了承ください。

Adobe、Adobe PDF、Adobeロゴ、Acrobat、Adobe Bridge、Adobe Illustrator、Adobe InDesign、およびAdobe Photoshopは、Adobe Inc（アドビ社）の米国ならびに他の国における商標または登録商標です。Mac、Macintoshは、米国および他の国々におけるApple Inc.の登録商標です。インテルおよびPentiumは、アメリカ合衆国および他の国におけるインテルコーポレーションおよび子会社の登録商標または商標です。
©2026 Adobe. All rights reserved.

協力：株式会社SCREENグラフィックソリューションズ｜尾花暁｜村上良日（鰯屋）

